

# 分布調査報告書(13)

1986

山形県教育委員会

# 分布調査報告書(13)

昭和61年度以降農林事業関係遺跡

埋蔵文化財包藏地基礎調査関係遺跡

一庄内北東部地区・米沢北部地区・尾花沢・舟形地区・長井地区・山形北部地区一

立会い調査実施遺跡

昭和61年度以降農林・土木事業他試掘調査実施遺跡

昭和61年3月

山形県教育委員会

# 序

本報告書は、山形県教育委員会が、昭和60年度に実施した、昭和60年度・61年度以降実施予定の各種開発事業等にかかる、埋蔵文化財包蔵地遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものであります。

近年の開発事業の進展に伴い、必然的に地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりも増加する傾向にあります。県民福祉の向上を目的とする諸開発事業と、県民ひいては国民の文化遺産である埋蔵文化財との間には、今なお数多くの問題をかかえています。

山形県教育委員会におきましては「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境づくりという立場から、これらの間の調整をはかり、今後とも埋蔵文化財の保護と活用のため努力を継続してまいる所存であります。

最後ではありますが、本調査に御協力いただきました関係各位並びに地元の方々に感謝申し上げると共に、本書が埋蔵文化財に対するおおかたの理解の一助となれば幸いです。

昭和61年3月

山形県教育委員会

教育長 高橋 和雄

## 例　　言

- 1 本書は、昭和60年度に山形県教育委員会が国庫補助を得て実施した、昭和61年度（一部昭和60年度含む）以降農林事業・埋蔵文化財包蔵地基礎調査・各事業の立会い調査に関する遺跡詳細分布調査報告書である。
- 2 調査は、山形県教育庁文化課の佐々木洋治（埋蔵文化財主査）・佐藤庄一（埋蔵文化財係長）・野尻 優（技師）・佐藤正俊（技師）・名和達朗（技師）・渋谷孝雄（技師）・阿部明彦（技師）・長橋 至（技師）・安部 実（技師）・中島 寛（主事）・武田昭子（嘱託）・太田 優（嘱託）の12名があたった。
- 3 本報告書の執筆は、佐藤庄一・野尻 優・佐藤正俊・名和達朗・渋谷孝雄・阿部明彦・長橋 至・安部 実・太田 優が分担し、また、挿図・図版作成等については、莊司宏子・漆山順子・富田和子・徳永裕子・佐藤めぐみ・辻 広美・丹野久美子・原田ひろみがこれを補助した。
- 4 本書の編集は佐藤庄一・長橋 至が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。
- 5 調査の対象となった遺跡及び事業名は、第Ⅰ章でその事業名・内容を記載し、個々についてでは第Ⅱ章に記載した。
- 6 挿図の縮尺についてはスケールで示し、遺跡位置図や遺跡地図については縮尺を明記した。また、方位は磁北に合わせた。図版中の遺物は、%・%を原則とした。挿図及び文中の記号は、●・TP：坪掘り地点、●：遺構検出・遺物出土地点、T：試掘トレンチ、R P：土器、R Q：石器、S T：竪穴住居跡、S B：掘立柱建物跡、S K：土壙、E P：柱穴で表記した。なお、試掘調査実施遺跡の概要図は、事業区域を実線、遺跡範囲を点線で表示した。立会い調査については、立会い地点を●で示した。
- 7 調査にあたっては、各関係機関、各市町村教育委員会、地元関係者の御協力を得た。記して感謝申し上げる。

# 目 次

## I 調査の方法と経緯

1 調査の方法	1
2 調査に至るまで	1
3 調査の経過	2

## II 調査の概要

1 昭和61年度以降農林事業関係遺跡地名表	
(1) 県営ほ場整備事業関係遺跡地名表	6
(2) 農村基盤総合整備パイロット事業関係遺跡地名表	6
(3) 開拓地整備事業関係遺跡地名表	6
(4) 広域營農団地農道整備事業関係遺跡地名表	6
(5) 農免農道整備事業関係遺跡地名表	8
2 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡地名表	
(1) 庄内北東部地区関係遺跡地名表	16
(2) 米沢北部地区関係遺跡地名表	18
(3) 尾花沢・舟形地区関係遺跡地名表	18
(4) 長井地区関係遺跡地名表	20
(5) 山形北部地区関係遺跡地名表	20
3 立会い調査実施遺跡	
農林・土木事業他関係遺跡地名表	36
4 試掘調査実施遺跡	
(1) 県営ほ場整備事業関係遺跡	
a 南興野遺跡	46
b 生石2遺跡	48
c 生石4遺跡	52
d 桜林興野遺跡	54
e 大柄遺跡	64
f 森之越遺跡	74
g 宮の下遺跡	78
(2) 農村基盤総合パイロット事業関係遺跡	

a 上曾根遺跡	88
(3) 広域営農団地農道整備事業関係遺跡	
a 塩野遺跡	90
(4) 県営灌漑排水事業関係遺跡	
a 石田遺跡	96
(5) 公害防除特別土地改良事業関係遺跡	
a 諏訪前遺跡	102
b 唐之越遺跡	104
c 富貴田遺跡	106
d 太子堂遺跡	108
e 觀音堂遺跡	110
f 東六角遺跡	112
(6) 国道345号線道路改良事業関係遺跡	
a 鍋倉B遺跡	114
(7) 国道7号線吹浦バイパス関係遺跡	
a 水之上遺跡	120
b 戸ノ内田遺跡	122
(8) 国道13号線南陽バイパス関係遺跡	
a 舟入遺跡	124
(9) 東北横断自動車道仙台・寒河江線関係遺跡	
a 新山A遺跡	126
b 宇津野原遺跡	128
IIIまとめ	130
附 表-1 農林事業関係遺跡一覧	2
附 表-2 調査工程表	5

## 挿図目次

第1図	県営は場整備事業関係遺跡地図(1).....	8
第2図	県営は場整備事業関係遺跡地図(2).....	9
第3図	県営は場整備事業関係遺跡地図(3).....	10
第4図	農業基盤総合パイロット事業関係遺跡地図・開拓地整備事業関係遺跡地図.....	11
第5図	広域営農団地農道整備事業関係遺跡地図・農免農道整備事業関係遺跡地図(1).....	12
第6図	農免農道整備事業関係遺跡地図(2).....	13
第7図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 庄内北東部地区関係遺跡地図(1).....	20
第8図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 庄内北東部地区関係遺跡地図(2).....	21
第9図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 庄内北東部地区関係遺跡地図(3).....	22
第10図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 庄内北東部地区関係遺跡地図(4).....	23
第11図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 庄内北東部地区関係遺跡地図(5).....	24
第12図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 米沢北部地区関係遺跡地図.....	25
第13図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 尾花沢・舟形地区関係遺跡地図.....	26
第14図	埋蔵文化財包蔵地基礎調査 長井地区・山形北部地区関係遺跡地図.....	27
第15図	手藏田1遺跡概要図.....	38
第16図	田谷遺跡位置図.....	39
第17図	羽黒堂遺跡位置図.....	40
第18図	平野A遺跡・平野B遺跡概要図.....	41
第19図	南原遺跡位置図.....	42
第20図	物見台遺跡概要図.....	43
第21図	高稻田遺跡位置図.....	44
第22図	箕輪館位置図.....	45
第23図	南興野遺跡概要図.....	46
第24図	生石2遺跡位置図・土層柱状図.....	48
第25図	生石2遺跡概要図.....	49
第26図	生石4遺跡概要図.....	52
第27図	桜林興野遺跡概要図.....	55
第28図	桜林興野遺跡D地区遺構配置図.....	56
第29図	桜林興野遺跡S K 1～3 土壙実測図.....	57

第30図 桜林興野遺跡出土土器実測図	59
第31図 大樋遺跡概要図	64
第32図 大樋遺跡（大樋地区）概要図	66
第33図 大樋遺跡（道の上地区）概要図	68
第34図 大樋遺跡（堂田地区）概要図	70
第35図 大樋遺跡（樋の内地区）概要図	72
第36図 森ノ越遺跡概要図	74
第37図 森ノ越遺跡遺構配置図	75
第38図 森ノ越遺跡 S B 1 挖立柱建物跡	76
第39図 宮の下遺跡概要図	78
第40図 宮の下遺跡 S T 2・3 竪穴住居跡	79
第41図 宮の下遺跡遺構配置図	79
第42図 宮の下遺跡 S T 4・5 竪穴住居跡、S K 9・15 土壙他	80
第43図 宮の下遺跡	81
第44図 宮の下遺跡出土土器拓影図（1）	84
第45図 宮の下遺跡出土土器拓影・実測図（2）	85
第46図 上曾根遺跡概要図	88
第47図 塩野遺跡概要図	90
第48図 塩野遺跡調査区概要図	91
第49図 塩野遺跡出土土器拓影図	93
第50図 塩野遺跡出土石器実測図	95
第51図 石田遺跡概要図	97
第52図 石田遺跡 S T 1 竪穴住居跡土器出土状態	98
第53図 石田遺跡遺構配置図	99
第54図 石田遺跡出土遺物実測図	101
第55図 講訪前遺跡・唐越遺跡周辺調査概要図	103
第56図 唐越遺跡概要図	104
第57図 富貴田遺跡概要図	106
第58図 太子堂遺跡概要図	108
第59図 観音堂遺跡概要図	110
第60図 東六角遺跡概要図	112
第61図 鍋倉 B 館跡位置図	114

第62図 鎌倉B館跡関連資料	115
第63図 鎌倉B館跡概要図	116
第64図 鎌倉B館跡平面実測図	117
第65図 鎌倉B館跡土層断面図	118
第66図 水之上遺跡概要図	120
第67図 戸ノ内田遺跡概要図	122
第68図 舟入遺跡概要図	124
第69図 新山A遺跡概要図	126
第70図 宇津野原遺跡概要図	128

## 図版目次

図版 1 昭和61年度以降農林事業関係遺跡（1）	14
図版 2 昭和61年度以降農林事業関係遺跡（2）	15
図版 3 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（1）	28
図版 4 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（2）	29
図版 5 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（3）	30
図版 6 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（4）	31
図版 7 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（5）	32
図版 8 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（6）	33
図版 9 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（7）	34
図版10 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（8）	35
図版11 手藏田1遺跡立会い調査状況	38
図版12 田谷遺跡近景	39
図版13 羽黒堂遺跡	40
図版14 平野A・B遺跡	41
図版15 荒谷原遺跡立会い調査状況	42
図版16 物見台遺跡立会い調査状況	43
図版17 高稲場A遺跡立会い調査状況	44
図版18 寅輪館跡立会い調査状況	45
図版19 南興野遺跡	47
図版20 生石2遺跡	50

図版21	生石 2 遺跡出土遺物	51
図版22	生石 4 遺跡	53
図版23	桜林興野遺跡（1）	60
図版24	桜林興野遺跡（2）	61
図版25	桜林興野遺跡（3）	62
図版26	桜林興野遺跡出土遺物	63
図版27	大樋遺跡（大樋地区）	67
図版28	大樋遺跡（道の上地区）	69
図版29	大樋遺跡（堂田地区）	71
図版30	大樋遺跡（樋の内地区）	73
図版31	森ノ越遺跡（1）	75
図版32	森ノ越遺跡（2）	77
図版33	宮の下遺跡（1）	82
図版34	宮の下遺跡（2）	83
図版35	宮の下遺跡出土遺物（1）	86
図版36	宮の下遺跡出土遺物（2）	87
図版37	上曾根遺跡	89
図版38	塩野遺跡	92
図版39	塩野遺跡出土土器	94
図版40	塩野遺跡出土石器	95
図版41	石田遺跡（1）	96
図版42	石田遺跡（2）	98
図版43	石田遺跡（3）	100
図版44	諏訪前遺跡	102
図版45	唐越遺跡	105
図版46	富貴田遺跡	107
図版47	太子堂遺跡	109
図版48	観音堂遺跡	111
図版49	東六角遺跡	113
図版50	鍋倉B遺跡	119
図版51	水の上遺跡	121
図版52	戸の内田遺跡	123
図版53	舟入遺跡	125
図版54	新山A遺跡	127
図版55	宇津野原遺跡	129

# I 調査の方法と経緯

## 1 調査の方法

本調査は、昭和61年度以降に実施が予定される大規模な各種開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を実施し、各関係開発機関との十分な調整を行ないつつ、遺跡の保存を図ることを目的とするものである。その調査結果は、開発事業の計画策定における事前協議の基礎資料となる。そのため調査は遺跡の内容・規模等を明確にするため次の3段階に分けて行なった。

### （1）A調査（現地確認調査）

開発事業計画並びに実施区域内、及びそれらに隣接する遺跡について表面踏査を行ない、遺跡の位置・所在地等と事業範囲との関わりを確認するものである。

### （2）B調査（試掘調査）

基本的にはA調査の結果に基づき、遺跡について坪掘りやトレンチ掘りを実施し、その範囲・性格等を明らかにして詳細な資料を得るものである。その記録は、各種開発事業間との協議や調整を計る際の重要な資料となり、また、緊急発掘調査を実施する場合の経費の積算や調査の基礎資料となるものである。

### （3）C調査（小規模な発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる範囲が小さかったり、接する状態の場合等について、必要に応じ実施するものである。調査の方法は、一部重機等を用いたりしながら発掘調査の方法に準ずる。

## 2 調査に至るまで

遺跡詳細分布調査を計画するに際し、県教育委員会では昭和61年度以降の農林・土木事業他の各種事業計画について、関係機関への照会を行なった。その回答により、昭和60年9月、「山形県遺跡地図」（昭和53年3月発行・山形県教育委員会編）等を参照しながら、開発事業計画についての聴取を実施した。つぎにその結果に基づき、昭和61年度の事業実施予定地域を中心に、昭和60年9月から昭和60年12月まで遺跡詳細分布調査を実施した。また、過年度においてA調査を終了したもののうち施工時に立会い調査を行なうこととしたもの、あるいは今年度緊急に立会い調査を実施したものについては、立会い調査の項目で記載した。なお、前年度に引き続き、今年度も、昭和53年に遺跡地図で周知した遺跡の現状確認のため、埋蔵文化財包蔵基礎調査を実施した。

### 3 調査の経過

調査は県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会・各開発機関等の協力を得て、分布調査依頼事業等も含め、昭和60年4月から昭和61年1月まで実施した。

#### (1) 昭和61年度以降農林事業関係分布調査

調査期間 昭和60年6月3日～昭和60年11月12日

協力機関 関係市町村教育委員会・関係各開発機関

内 容 31遺跡についてA・B・C調査を実施した。うち4遺跡が新規発見である。

事業名及び事業区域は下記のとおりである。

附表-1 農林事業関係遺跡一覧

	事 業 名	事 業 地 区 名	遺 跡 名	調 査 区 分		
				A	B	C
1 県営工場整備事業	北平田第1地区 中平田地区 南平田地区 山元地区 〃 最上堰第2地区 月光川左岸地区 最上町西部地区 〃	南興野遺跡	○	○		
		桜林興野遺跡	○	○	○	○
		板林遺跡	○	○	○	
		生石2遺跡	○	○	○	
		生石4遺跡	○	○	○	
		柳沢条里	○			
		大穂遺跡				○
		森ノ越遺跡			○	○
		宮の下遺跡			○	
2 農業基盤総合パイロット事業	庄内地区	上曾根遺跡	○	○		
3 開拓地整備事業	小野曾地区 〃 〃	小野曾A遺跡	○			
		小野曾B遺跡	○			
		小野曾D遺跡	○			
4 広域管農團地農道整備事業	庄内東部地区第III期 〃	幣掛遺跡	○			
		道中A遺跡	○			
	最上地区	塙野遺跡				○
5 農免農道整備事業	二井宿地区 〃 米沢南部地区 〃 〃 〃	青井流遺跡	○			
		大塙原遺跡	○			
		松原遺跡	○			
		早坂山A遺跡	○			
		早坂山B遺跡	○			
		早坂山D遺跡	○			
		下原遺跡	○			
		長慶寺原遺跡	○			
		山の神遺跡	○			
6 公害防除特別土地改良事業	吉野川流域	諏訪前遺跡	○	○		
		唐越遺跡	○	○		
		富貴田遺跡	○	○		
		太子堂遺跡	○	○		
		觀音堂遺跡	○	○		
		東六角遺跡	○	○		

## (2) 埋蔵文化財包蔵地基礎調査

調査期間 昭和60年4月15日～昭和60年12月13日

協力機関 遊佐町、八幡町、酒田市、平田町、松山町、米沢市、尾花沢市、舟形町、長井市、山形市

内 容 昭和53年度に山形県教育委員会では、県内市町村全域に亘って埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の登録、並びに周知の目的で『山形県遺跡地図』を発行した。それ以来7年が経過しており、諸開発事業等による遺跡所在地周辺の環境の変化、あるいは新規に発見された遺跡数の増加等により、その内容について、新規遺跡の登載や内容の追加が、関係各方面から望まれてきている。

そのため、山形県教育委員会では、昭和59年度から各市町村教育委員会の協力を得ながら新たに埋蔵文化財包蔵地基礎調査として遺跡詳細分布調査を実施している。今年度は下記地区について実施した。

### 1) 庄内北東部地区

関係市町村 遊佐町・八幡町・酒田市・平田町・松山町

調査は、27遺跡についてA調査を実施し、そのうち3遺跡が新規である。

### 2) 米沢北部地区

関係市町村 米沢市

調査は8遺跡についてA調査を実施した。そのうち5遺跡が新規である。

### 3) 尾花沢・舟形地区

関係市町村 尾花沢市・舟形町

調査は2遺跡についてA調査を実施した。

### 4) 長井地区

関係市町村 長井市

調査は4遺跡についてA調査を実施した。

### 5) 山形北部地区

関係市町村 山形市

調査は3遺跡についてA調査を実施した。

### (3) 立会い調査

調査期間 昭和60年5月2日～昭和61年1月20日

協力機関 関係市町村教育委員会・関係各開発機関

内 容 諸開発事業で、遺跡の現状変更が軽微な場合に行なう確認調査で、調査の結果によって、立会い調査後、工事に直ちに入る場合と、工事を中止してC調査もしくは緊急発掘調査を実施する場合とに分けられる。

今年度は、8事業11遺跡について実施した。

1) 県営ほ場整備事業関係

酒田市手蔵田1遺跡、余目町田谷遺跡

2) 県道梨郷・下伊佐沢線道路改良工事関係

南陽市平野A・平野B遺跡

3) 山形県総合運動公園整備事業関係

天童市荒谷原遺跡

4) 東北電力鉄塔移転関係

中山町物見台遺跡

5) 田沢川中小河川改修関係

小国町高稻場A遺跡

6) 県営灌漑排水事業最上川中流地区関係

山形市石田遺跡

7) 県営農免農道整備事業梨郷地区関係

南陽市羽黒堂遺跡

8) 箕輪地区地すべり対策事業関係

遊佐町箕輪館跡

附表-2 調查工程表

## II 調査の概要

### I 昭和61年度以降農林事業関係遺跡地名表

#### (1) 県営ほ場整備事業関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	南興野	酒田市新青流字南大坪	平安時代	自然堤防 (4m)	水田
2	集落跡	桜林興野	平田町桜林興野	平安時代	自然堤防 (7m)	水田
3	散布地	桜 林	平田町桜林	平安時代	平地 (9m)	烟地 水田 宅地
4	集落跡	生石 2	酒田市大字生石字登跨田	平安時代	平地 (10m)	水田
5	集落跡	生石 4	酒田市大字生石字棚野内新田	平安時代	平地 (7m)	水田
6	条里跡	柳沢 条里	中山町大字柳沢字三条目 130~290番地	平安時代	平地 (105m)	水田

#### (2) 農村基盤整備総合パイロット事業関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	上曾根	酒田市大字上曾根字上中割45他	平安時代	平地 (14m)	水田 烟地

#### (3) 開拓地整備事業関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	小野曾 A	遊佐町大字吹浦字小野曾	繩文時代	山腹 (90m)	原野
2	散布地	小野曾 B	遊佐町大字吹浦字小野曾	繩文時代	平地 (90m)	烟地 宅地
3	集落跡	小野曾 C	遊佐町大字吹浦字小野曾	繩文時代 (中期) 大木8a式	平地 (120m)	烟地 宅地

#### (4) 広域営農団地農道整備事業関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	幣 币	遊佐町大字当山字幣掛16、17	繩文時代	山麓 (30m)	水田 宅地
2	集落跡	道 笠 A	遊佐町大字北目字道中1	平安時代 鎌倉時代	山地 (11m)	烟水田

遺跡概要	出土遺物	備考
新井田川右岸の微高地水田中に位置し、新青渡 貿易を結ぶ道路により二分される。水田から転 作された豆畠一帯に遺物が散布している。	須恵器 あかやき土器	No. 2025
平田川左岸の段丘および自然堤防上に立地する。 遺物の散布は、広範にわたるが、東部・南部・北 西部の三地区に集中すると考えられる。	須恵器 あかやき土器	No. 2328
桜林の集落を含む広範な地域にひろがり、部分 的に残る微高地の畑では遺物が多く散布してい る。	須恵器 あかやき土器	No. 2327
出羽丘陵に接する狭義の河間低地上に立地する。 東西450m、南北440mの広がりを持つ。60年調 査で一辺120mの板村列が検出されている。	須恵器 あかやき土器 弥生土器・木製品	No. 2060 昭和59・60年県教委 発掘調査実施
生石地区と大槻新田地区の中間に位置する。河 間底地と後背湿地の接にあたる。遺物の散布が 認められる。	須恵器 あかやき土器 木製品	No. 2062 昭和59年県教委試掘 調査実施
柳沢と金沢に及ぶ東方の水田地帯に条里遺構を 示す畦畔が明顯に残っている。石子沢川を水源 とした条里遺構で北限にあたる。	不明	No. 405

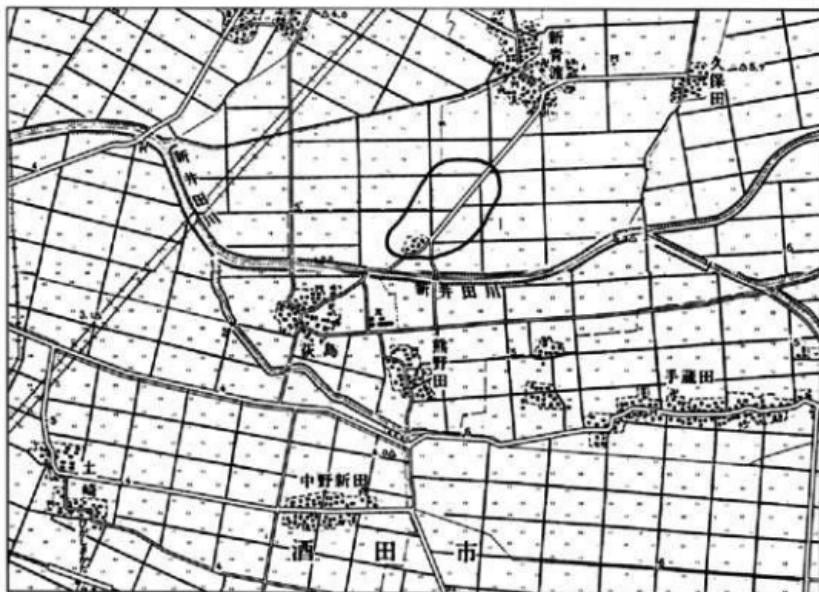
遺跡概要	出土遺物	備考
観音寺街道上野曾根部落北側に3つの塚が点在 し、周囲の畑地よりあかやき土器・須恵器片が 散布。東西320m、南北170m。土壌を検出。	須恵器・あかやき土器・中世 陶器・すずり・礎石	No. 2021 昭和60年度県教委試 掘調査実施

遺跡概要	出土遺物	備考
出羽富士鳥海山ブルーライン道路の北側に在り、 小野曾根部落へ入る農道西側に所在する。原野の ため踏査不能。	不明	No. 2217
小野曾根部落へ入る農道東側に所在。畑地開拓で 遺物を発見。充分検査可能である。	繩文土器細片	No. 2218
小野曾根部落東側の畑地上に所在する。付近は平 坦な台地上となり、東西200m、南北200mの広 大な面積となる。	不明	No. 2219

遺跡概要	出土遺物	備考
遊佐町より吹浦へ向かう町道東側台地上に立地 し剣龍神社の鳥居の東側水田一帯の緩斜面に存 在する。開田時に遺物が出土。	不明	No. 2100
昭和48年に実施した庄内広域當農團地農道分 布調査で発見。高瀬川右岸の自然堤防上に立地 し、畑地上には赤燒土器・須恵器片が散布する。	あかやき土器・須恵器	No. 2087

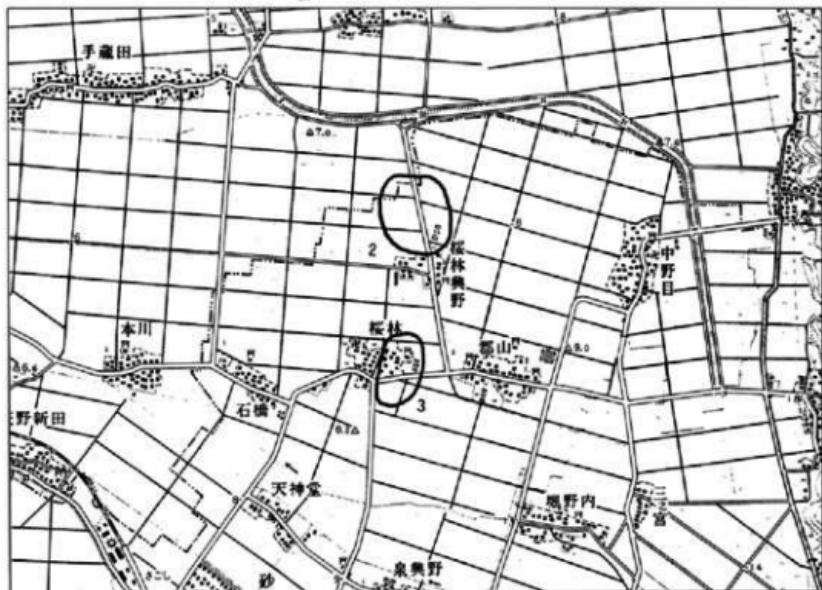
(5) 農免農道整備事業関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	青井流	高畠町大字二井宿字東小湯6488-12	縄文時代 (前期)	段丘 (140m)	水田
2	集落跡	大華原	高畠町大字二井宿字小湯7431-187	縄文時代 (前・中期)	山麓 (350m)	畠水地
3	集落跡	松原	米沢市大字闇根白旗松原 26008-26009	縄文時代 (前期)	扇状地 (280m)	畠原地野
4	館跡	草坂山A	米沢市大字桑山字雄山3971-2他	縄文時代 中世	山麓 (360m)	山林
5	散布地	草坂山B	米沢市大字桑山字大蟹沢3955-2他	縄文時代	山麓 (280m)	原野
6	散布地	草坂山D	米沢市大字桑山字雄山3971-1他	縄文時代	山麓 (280m)	原野
7	集落跡	下原	米沢市大字山神字下原	縄文時代 (前期)	河川段丘 (280m)	宅地
8	散布地	長慶寺原	河北町大字西里字小坂250-2	縄文時代	丘陵 (160m)	畠地
9	散布地	山の神	河北町下沢畠	縄文時代	山麓 (140m)	畠地

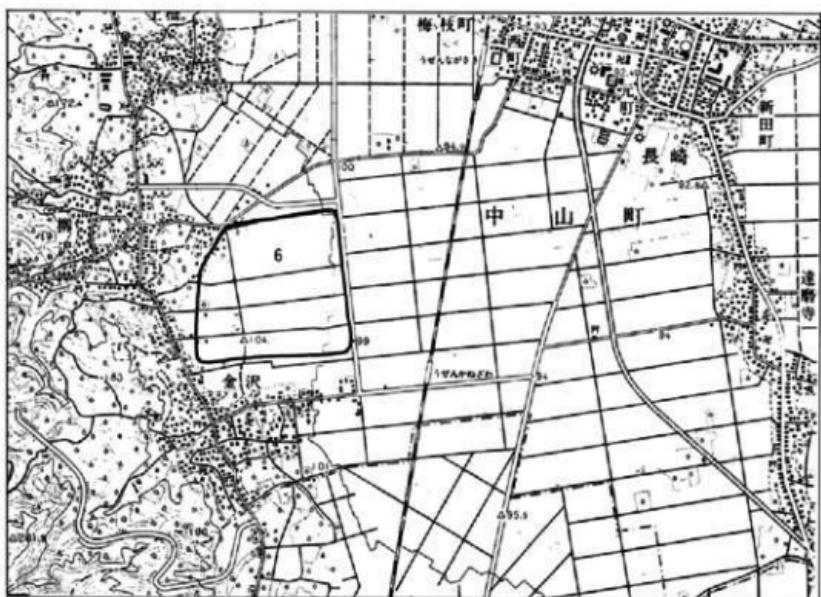


第1図 県営ほ場整備事業関係遺跡地図(1) (S=1:25,000)

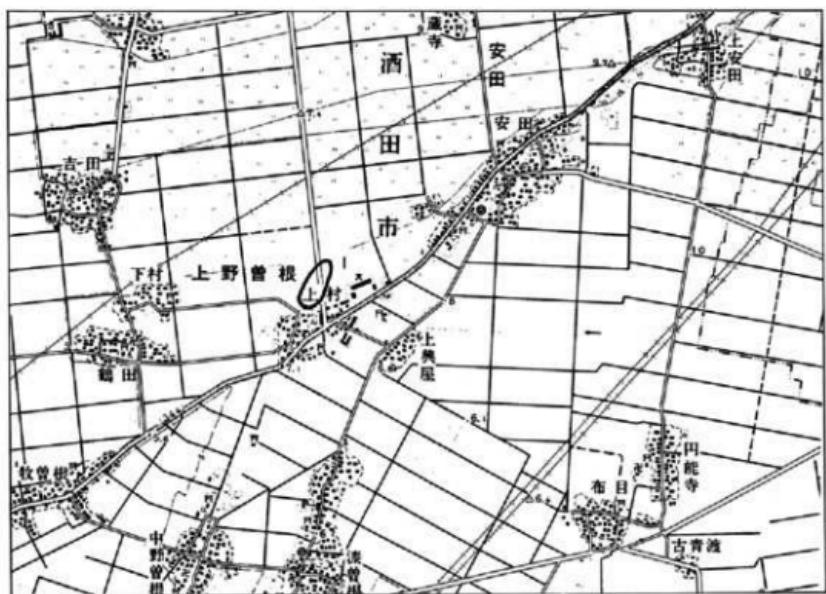
遺跡概要	出土遺物	備考
小湯沼東側、いしやら沢左岸の段丘上面に立地する。水田整地の際、傾斜面の高い方は削平されている。		No. 1252
小湯川左岸の農道東側に位置し、舌状に張り出す山麓傾斜面に立地する。小湯川改修の際、石棒が出土。	縄文土器片・石棒	No. 1253
昭和45年置賜考古学会により発掘調査実施。住居跡1棟、ピット等を検出。旧段丘に沿って遺跡範囲が延びる。一部宅地となっている。	縄文土器・石鏃・石鉈・石錐・磨製石斧・スクレーパー	No. 1180 置賜考古3号所収
米沢市教育委員会が昭和58年度に実施した分布調査によって確認された遺跡である。館跡周辺では縄文土器片も採集される。		新規
早坂山A遺跡の所在する山麓からびた西側山麓部に所在する。原野のため採集不能。		新規
早坂山A遺跡の所在する館跡下段の山麓部に所在。原野のため表採不能。		新規
下原部落周辺の畠地・宅地に所在する。宅地造成時に発見された。		新規
鴻の沢沿いに山間部をはしる農道が、南北に通る東向きの丘陵緩斜面に立地する。		No. 476 昭和58年県教委分布調査実施
沢畠地区北西方向の山麓部に位置し、沢の右岸に広がる東向きの緩斜面に立地する。		No. 471 昭和58年県教委分布調査実施



第2図 県営ほ場整備事業関係遺跡地図(2) (S=1:25,000)



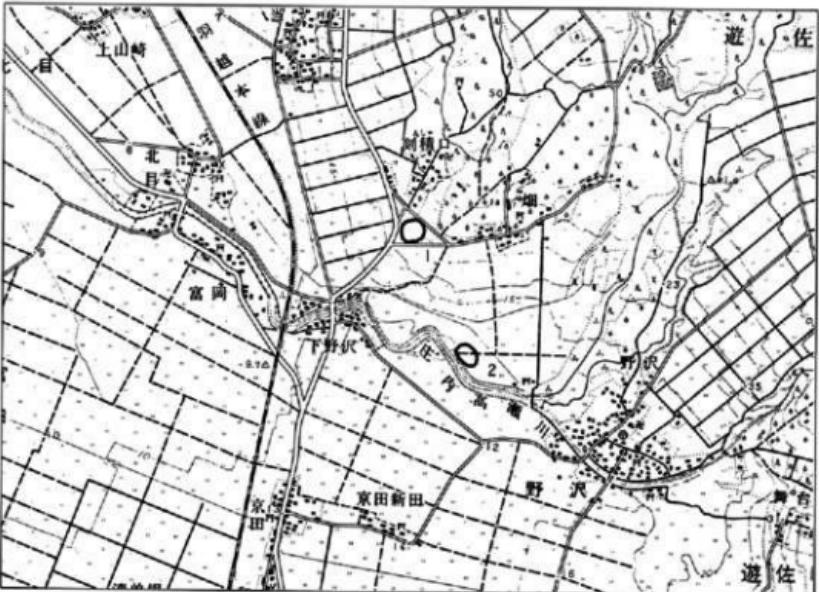
第3図 県営ほ場整備事業関係遺跡地図（3）（S = 1 : 25,000）



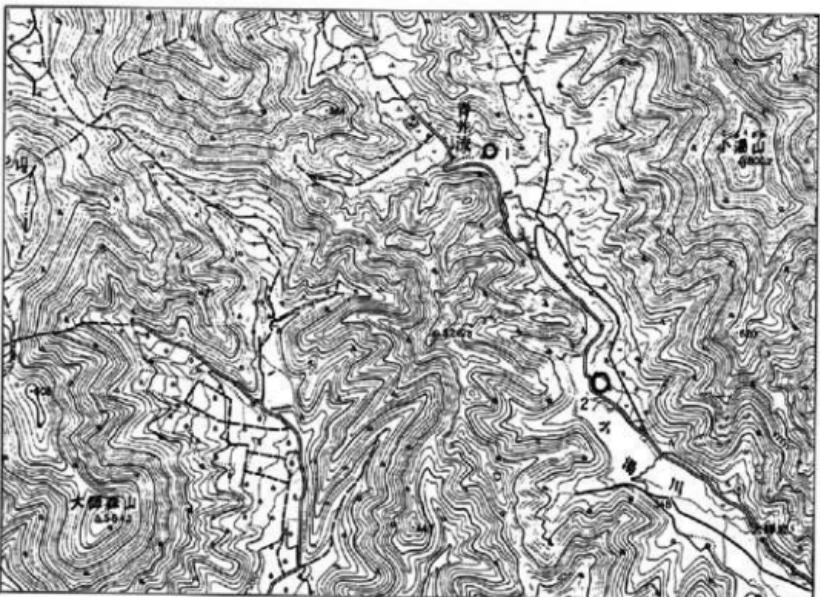
農業基盤総合パイロット事業関係遺跡地図 ( $S = 1 : 25,000$ )



第4図 開拓地整備事業関係遺跡地図 ( $S = 1 : 25,000$ )



広域營農團地農道整備事業関係遺跡地図 (S = 1 : 25,000)



第5図 農免農道整備事業関係遺跡地図 (I) (S = 1 : 25,000)



第6図 農免農道整備事業関係遺跡地図（2）（S = 1 : 25,000）



桜林興野遺跡近景（東から）



桜林興野遺跡採集遺物



柳沢条里近景（南東から）



小野曾 A 遺跡近景（東から）



小野曾 B 遺跡近景（西から）



小野曾 C 遺跡近景（南から）



幣掛遺跡近景（南から）



道中 A 遺跡近景（北から）

図版 I 昭和61年度農林事業関係遺跡（I）



青井流遺跡近景（西から）



松原遺跡（北から）



大峯原遺跡（東から）



大峯原遺跡採取遺物（石棒）



早坂山A遺跡（西から）



早坂山B遺跡（東から）



下原遺跡（東から）



山の神遺跡（北から）

## 2 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡地名表

### (I) 庄内北東部地区関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	集落跡	長坂才坂上	遊佐町大字野沢字長坂	縄文時代	山 脊 (400m)	山 林 道路敷
2	集落跡	根堀道	遊佐町大字吉出字背曲	縄文時代	山 薦 (250m)	山 林 道路敷
3	集落跡	金俣 A	遊佐町大字吉出字金俣	旧石器時代	山 薦 (100m)	畑 地
4	集落跡	金俣 F	遊佐町大字吉出字金俣179-5他	旧石器時代	山 薦 (167m)	原 野
5	集落跡	月野原 A	遊佐町大字杉沢字巣の巣	縄文時代 (中期)	山 條 (200m)	牧草地
6	集落跡	月野原 B	遊佐町大字杉沢字巣の巣	旧石器時代	山 脊 (200m)	畑 山 林
7	集落跡	月野原 C	遊佐町大字杉沢字巣の巣	縄文時代 (晚期)	丘 陵 (180m)	畑 地
8	集落跡	前山 A	八幡町常禪寺字前山	縄文時代 (後・晚期) 平安時代	段 丘 (60m)	畑 地
9	集落跡	二夕子 A	八幡町大原字二夕子103-1他	縄文時代 平安時代	段 丘 (70m)	社 宅 畑 地 地 畑
10	集落跡	二夕子 B	八幡町大原字二夕子112他	平安時代	段 丘 (70m)	社 宅 畑 地 地 畑
11	窯跡	盛 茶 窯	八幡町北平沢字盛沢	平安時代	山 薦 (80m)	畑 地
12	散布地	盛 茶	八幡町北平沢字盛沢	平安時代	丘 陵 (84m)	畑 地
13	集落跡	生石 3	酒田市生石字林新田	縄文時代 平安時代	山 薦 (70m)	畑 地
14	包蔵地	生石 5	酒田市大字生石字平林	縄文時代 平安時代	山 薦 (65m)	畑 地
15	散布地	雨山	酒田市大字生石字南山	縄文時代 (前・中期) 平安時代	丘 陵 (76m)	畑 地
16	窯跡	柳茶窯	酒田市生石字柳沢177-1他	平安時代	台 地 (40m)	畑 山 林
17	窯跡	東谷地古窯	酒田市生石字塙山40-46	縄文時代 奈良時代 平安時代	山 薦 (30-50m)	用水池
18	城館跡	山桶跡	平田町大字山桶字北山60-内2他	中 世	山 條 (80m)	山 林 公 園
19	集落跡	山谷新田	平田町大字山谷新田字山海50他	縄文時代 (中期) 平安時代	段 丘 (25m)	畑 地

遺跡概要	出土遺物	備考
中村地区北東約1.8kmの道路沿いに位置する。かって道路敷から石礫が発見されている。		No. 2119
中村地区北東約1.4kmの道路沿いに位置する。俗称根橋道という地名である。かって登山道から石積が発見されている。		No. 2133
岩野地区東側約600m、東西にはしる道路北側の畑地に位置する。		No. 2144
岩野地区東側約600m、東西にはしる道路北側の畑地に位置する。金俣A遺跡北西方向に隣接する。		No. 2149
月野原地区南西約300m、牧草地に位置する。緩やかな丘陵尾根周辺に立地する。		No. 2153
月野原地区南側約500mに位置する。かって石刃技による大形のナイフ形石器が出土している。		No. 2154
月野原地区南側約700m、畜舎南側に位置する。月野原B遺跡南側に隣接する。		No. 2155
主要地方道西田・金山線荒瀬川橋南東約200m、沢右岸の段丘上に立地する。	縄文土器・フレイク 須恵器	No. 2243
主要地方道西田・金山線南側、荒瀬川右岸段丘上に立地する。石動神社境内周辺に遺物を散布する。	縄文土器 土師器・須恵器	No. 2255
主要地方道西田・金山線南側、荒瀬川右岸段丘上に立地する。二タ子A遺跡と同一位置か南側延長に位置する。		No. 2256
北平沢地区東側約1km、同地区から小平地区へ至る道路東側に位置する。		No. 2262
北平沢地区東側約1km、用水池北側を通る農道の北側の畑地に位置する。盛沢塙跡に隣接する。	須恵器 赤焼土器	新規
大平地区南側約500m、山麓部に広がる緩斜面に立地する。	石礫・フレイク 須恵器・赤焼土器	No. 2061
通越地区的南側、柳沢新堤東側の丘陵張り出し部先端に立地する。	フレイク 土師器・須恵器 赤焼土器	No. 2063
通越地区的南側、沢左岸の丘陵先端部に立地する。沢を間に生石5遺跡の東側に隣接する。	縄文土器・石礫・範状石器 須恵器・赤焼土器	新規
大平地区南側約500m、生石3遺跡に隣接する。顯瀬山第4号塙跡が確認されている。		No. 2064
梶谷地池の湖岸周縁に廻跡が分布する。水位が下がると登り窓及び土器が確認できる。	石礫 土師器・須恵器・赤焼土器	No. 2065
山楂地区東側約500mの山腰に立地する。東側に空堀・土塁跡を残す。庄内四郎兵衛別の跡といわれている。		No. 2298
金谷地区南西約500m、相沢川右岸に形成された段丘上面に立地する。	縄文土器・フレイク 土師器・須恵器	No. 2301

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
20	窯跡	山 海 麟	平田町大字山谷新田字山海	平安時代	山 腹 (40m)	果樹畠
21	窯跡	西 沢 麟	平田町大字山谷新田字西沢	平安時代	山 腹 (60m)	畑 地
22	散布地	山 海	平田町大字山谷新田字山海	繩文時代 平安時代	段 丘 (20m)	畑 地
23	墳墓	小 平 墳 墓	平田町大字田沢字小平	平安時代	山 腹 (80m)	山 林
24	集落跡	箕 輪	松山町大字成興野字箕輪1167他	繩文時代	段 丘 (50m)	水 田
25	集落跡	丸 手 蔵 A	松山町大字成興野字箕輪14	繩文時代 (晚期)	段 丘 (25m)	畑 地
26	包蔵地	丸 手 蔵 B	松山町大字成興野字箕輪16-1	繩文時代 (後・晚期)	山 腹 (25m)	荒 地
27	城館跡	丸 手 蔵 館	松山町大字成興野字箕輪16-1他	中 世	山 腹 (30m)	山 林

(2) 米沢北部地区関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	集落跡 (官衙)	天 浦	米沢市中田町大浦	奈良時代	段 丘 (23m)	畑 地 宅 地
2	散布地	井 付	米沢市中田町大浦	繩文・奈 良～平安 時代	段 丘 (23m)	畑 地 宅 地
3	古 墳	宝 陵 草 古 墳	米沢市蘆田町蘆田	古墳時代	平 地 (22m)	稻荷神社境内 畠 地
4	古 墳	穴 陵 草 古 墳	米沢市蘆田町蘆田	古墳時代	平 地 (22m)	八幡神社境内
5	散布地	外 の 内	米沢市蘆田町外の内	繩文時代 (中期)	段 丘 (22m)	宅 地 畑 地 神 社
6	塚	白 山 神 社 塚 群	米沢市蘆田町外の内	中 世	段 丘 (22m)	白山神社境内
7	散布地	中 里	米沢市蘆田町中里	奈良～ 平安時代	段 丘 (22m)	畑 地
8	散布地	鐘 ノ 自	高畠町鐘ノ目中町	奈良～ 平安時代	平 地	工場敷地

(3) 尾花沢・舟形地区関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	城館跡	跡 跡	舟形町長沢字櫛	室町時代	山 顶 (100m)	山 林
2	城館跡	名 木 蔵 館	尾花沢市大字名木沢	室町時代	段 丘 (75m)	山 林

遺跡概要	出土遺物	備考
金谷地区西側約300m、丘陵尾根の張り出し斜面に立地する。	須恵器	No. 2302
金谷地区西側を流れる河川の右岸、東向きの丘陵斜面に立地する。	須恵器 赤燒土器	No. 2303
金谷沢橋南西約800m、道路北側に位置する。段丘の南向き張り出し部に立地する。山海廻跡の南側に隣接する。	繩文土器 須恵器・赤燒土器	新規
田沢小学校北側の山林に位置とされているが、今回の調査では、正確な位置確認はできなかつた。		No. 2319
成興野地区の北側約500m、国道345号線東側の段丘上に立地する。開田の際、整地されている。		No. 2292
成興野地区北側約200m、国道345号線東側の段丘上に立地する。又右衛門沢を間に丸子沢B遺跡の北側に隣接する。		No. 2293
成興野地区北側約100m、国道345号線東側の丘陵中腹に立地する。同じ丘陵の尾根には、丸子沢館跡が隣接する。		No. 2294
成興野地区の北側約100m、国道345号線東側の丘陵尾根に立地する。空堀・土塁跡等は、確認できなかつた。		No. 2295

遺跡概要	出土遺物	備考
最上川と掘立川の合流地点のすぐ北側の段丘上に立地する。布目瓦が出土しており、官衙跡の可能性がある。	土師器・須恵器・瓦	新規 昭和59・60年米沢市教委発掘調査実施
掘立川の左岸段丘上に立地する。畠地に若干の遺物が散布する。	繩文土器 土師器	新規
鬼面川と最上川に挟まれた冲積平野に立地する前方後方墳。後方部は二段築成で一辺45~50m。全長は75m前後、高さは4~5m。		新規
宝鏡塚古墳の東方1kmに位置する。高さ3m、直径25~30mで北西部に小さな前方部をもつ帆立貝式古墳。		新規
最上川の左岸に位置し、氾濫原から2mぐらいの比高差をもつ段丘上に立地する。畠地に繩文土器片が散布する。	繩文土器	No. 1121
外の内遺跡と一部重複して、神社境内に4基の塚がある。平面プランが円形を示すものと方形を示すものがある。		新規
外の内遺跡の北東部、中里の集落のすぐ南に位置する。畠地に土器片が散布している。	土師器	新規
最上川の左岸に位置し、氾濫原から一段高い微高地に立地する。	須恵器片	No. 1321

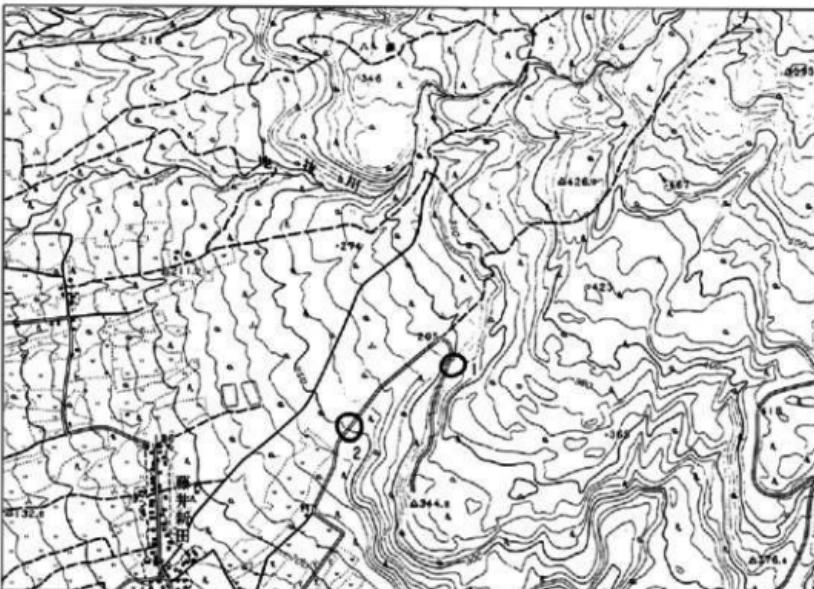
遺跡概要	出土遺物	備考
最上川右岸の山頂平坦部に立地し、沼沢極の出城との言い伝えがある。		No. 962
最上川右岸の山林中に位置し、二重の空堀・土塁・門跡等が良好に遺存している。土地の人は奥部幅と呼び、最上川を背後に控えた要害の地。		No. 735

(4) 長井地区関係遺跡地名表

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	包藏地	兩 台 A	長井市台町	古墳時代	沖積台地 (205m)	烟 宅 地
2	散布地	兩 台 B	長井市台町	古墳時代	沖積台地 (205m)	烟 宅 地
3	散布地	登 ノ 越	長井市九野本	繩文時代 (後期)	沖積平野 (212m)	水 田 地
4	集落跡	筑 ノ 越	長井市泉	繩文時代 (中期)	沖積台地 (208m)	烟 墓 地

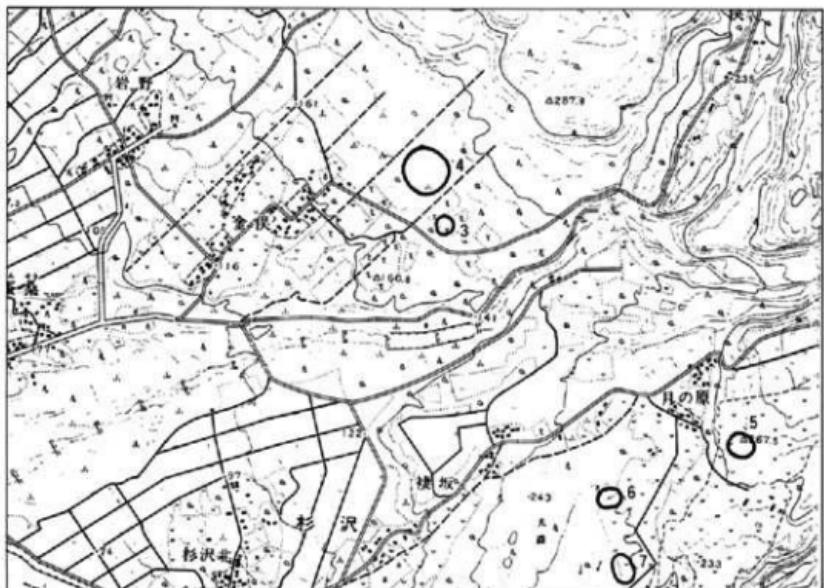
(5) 山形地区遺跡地名表

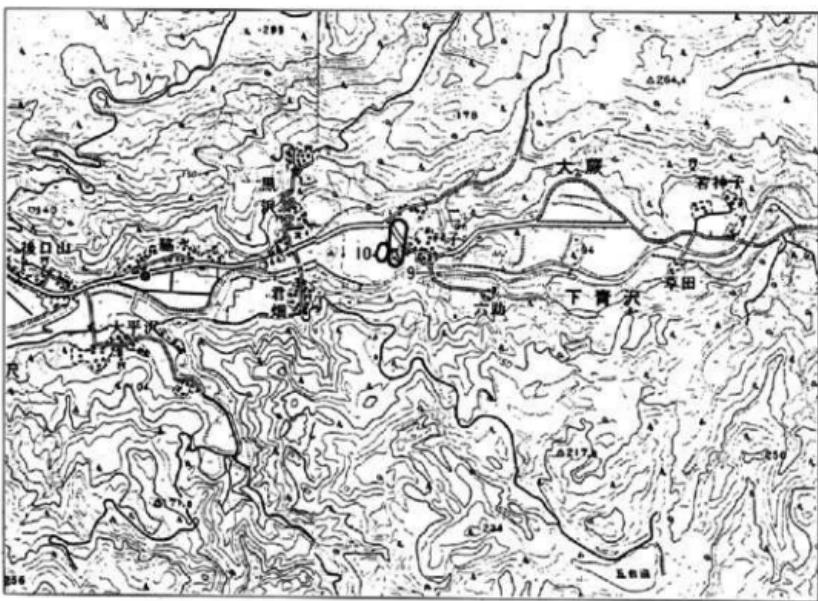
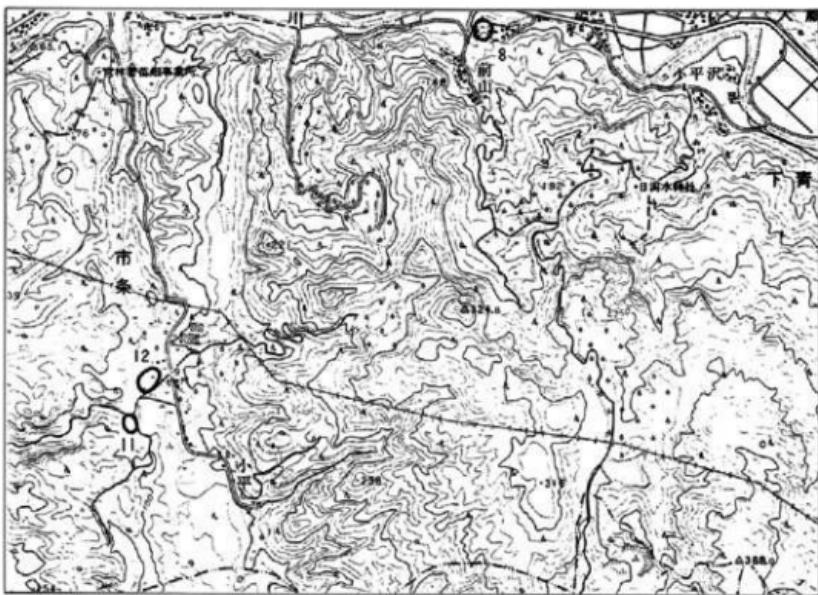
No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	境 田 C	山形市大字長町字境田	繩文(晚期)- 弥生・古墳- 平安時代	自然堤防 (100m)	烟 地
2	集落跡	境 田 C'	山形市大字長町字境田	繩文時代 (晚期) 平安時代	自然堤防 (100m)	水 田
3	集落跡	境 田 D	山形市大字長町字境田	繩文(晚期)- 弥生時代 平安時代	自然堤防 (100m)	烟 水 地



遺跡概要	出土遺物	備考
水田面との比高1m前後の微高地に立地する。畑地の耕作時に土師器の完形品が出土した。	土師器	新規
南台A遺跡の南方に隣接する遺跡で、一段低い水田面で囲まれている。畑地に若干の土器片が散布する。	土師器	新規
谷地寺の集落のすぐ西にあり、沖積平野の微高地に立地。畑地に縄文土器片が若干散布する。	縄文土器片(後期)	新規
福田川の左岸、水田面と5mの比高差をもつ台地上に立地。発掘調査で縄文時代中期の袋状土被等が検出されている。	縄文土器(大木7a、7b、8a、8b)、石器	新規 昭和45・6・9年長井市教委発掘調査実施

遺跡概要	出土遺物	備考
見崎淨水場南側の畑地に位置する。白川左岸に形成された自然堤防上に立地する。		新規 昭和56・60年県教委発掘調査実施
境田C遺跡の南東側延長線上に位置する。白川左岸に形成された自然堤防上に立地する。		新規 昭和57年県教委発掘調査実施
見崎淨水場南東約500mを測り、白川左岸に形成された自然堤防上に立地する。		新規 昭和57・60年県教委発掘調査実施

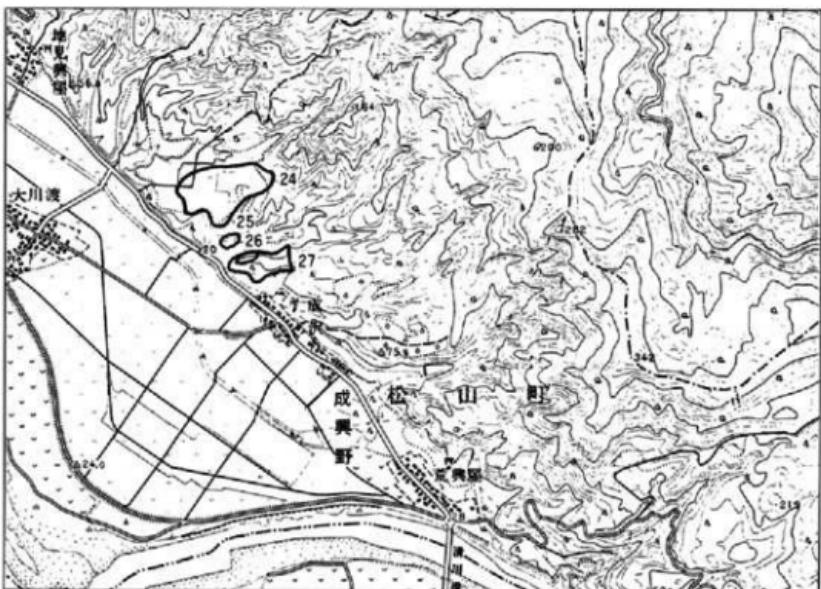
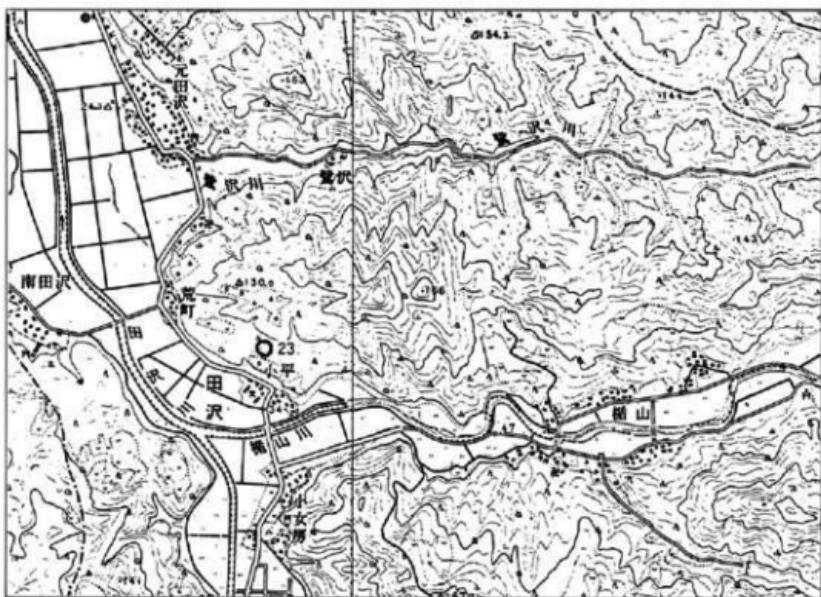




第9図 埋蔵文化財包蔵地基礎調査庄内北東部地区関係遺跡地図(3) ( $S = 1:25,000$ )



第10図 埋蔵文化財包蔵地基礎調査庄内北東部地区関係遺跡地図（4）（S = 1 : 25,000）

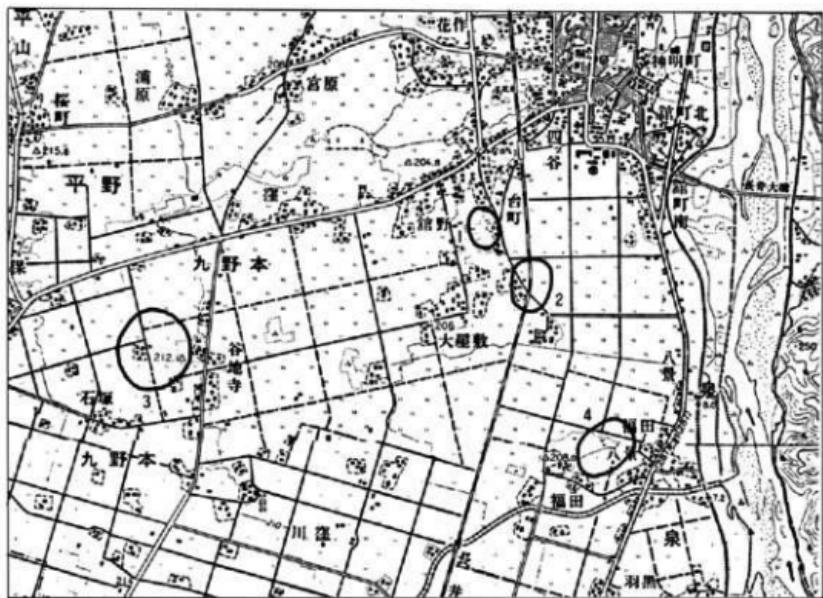


第11図 埋蔵文化財包蔵地基礎調査庄内北東部地区関係遺跡地図（5）（S = 1 : 25,000）





第13図 埋蔵文化財包蔵地基礎調査尾花沢・舟形地区関係遺跡地図 ( $S = 1 : 25,000$ )



埋蔵文化財包蔵地基礎調査長井地区関係遺跡地図 ( $S = 1 : 25,000$ )



第14図 埋蔵文化財包蔵地基礎調査山形北部地区関係遺跡地図 ( $S = 1 : 25,000$ )



長坂才板上遺跡近景（東から）



根振道遺跡近景（北から）



金俣 A 遺跡近景（北西から）



金俣 F 遺跡（南西から）



月の原 A 遺跡近景（南から）



月の原 B 遺跡近景（南から）



ニタ子 A・B 遺跡近景（北から）



ニタ子 A・B 遺跡採集遺物

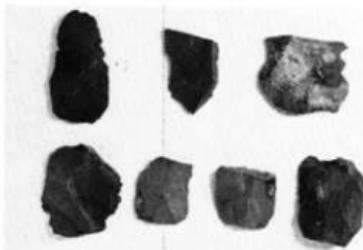
図版 3 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（Ⅰ）



前山 A 遺跡近景（西から）



前山 A 遺跡採集遺物



前山 A 遺跡採集遺物



盛沢窯跡近景（南から）



生石 3 遺跡近景（南から）



生石 3 遺跡採集遺物



生石 5 遺跡遠景（南から）



生石 5 遺跡採集遺物

図版 4 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（2）



生石 5 遺跡近景（北から）



柳沢窯跡近景（南西から）



生石 3 遺跡・柳沢窯跡遠景（北から）



泉谷地窯跡遠景（南から）



泉谷地窯跡東側（南から）



泉谷地窯跡西側（南から）



泉谷地窯跡遺物散布状況

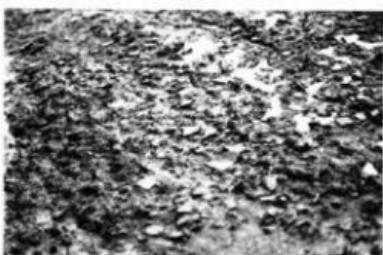


泉谷地窯跡遺物散布状況

図版 5 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（3）



泉谷地窯跡遺物散布状況



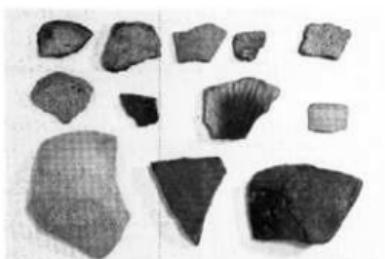
泉谷地窯跡遺物散布状況



泉谷地窯跡遺物散布状況



泉谷地窯跡採集遺物



泉谷地窯跡採集遺物



泉谷地窯跡採集遺物



泉谷地窯跡採集遺物



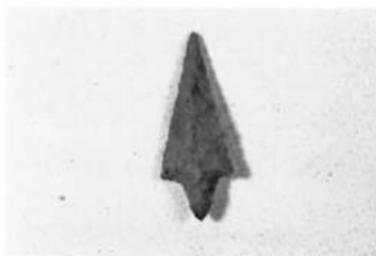
泉谷地窯跡採集遺物



泉谷地窯跡採集遺物



泉谷地窯跡採集遺物



泉谷地窯跡採集遺物



山編館近景（西から）



山海窯跡近景（南から）



山海窯跡採集遺物



西沢窯跡近景（西から）



西沢窯跡採集遺物

図版7 埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡（5）



山谷新田遺跡近景（西から）



山谷新田遺跡採集遺物



山谷新田採集遺物



小平墳墓近景（西から）



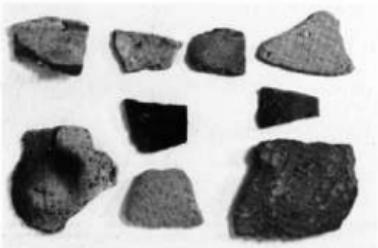
箕輪遺跡近景（東から）



丸子沢館近景（東から）



盛沢遺跡近景（南から）



盛沢遺跡採集遺物



山谷遺跡近景（南から）



山谷遺跡採集遺物



南山遺跡遠景（北から）



南山遺跡採集遺物



南山遺跡採集遺物



大浦遺跡近景（北から）



宝勝塚古墳遠景（東から）



宝勝塚古墳近景（南東から）



八幡塚古墳遠景（北東から）



八幡塚古墳近景（南から）



外の内遺跡近景（南から）



白山神社塚群近景（南から）



中里遺跡近景（西から）



境田C遺跡近景（南から）



境田C'遺跡近景（北から）



境田D遺跡近景（西から）

### 3 立会い調査実施遺跡

#### (1) 農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	散布地	手 藏 田 1	酒田市手藏田字小堤	平安時代	平 地 (5m)	宅 地 水 畑 田 地
2	集落跡	田 谷	余目町大字西袋字五十枚4他	縄文時代 (晚期)	平 地 (10m)	水 田
3	散布地	羽 黒 堂	南陽市竹原字羽黒堂	縄文時代	山 麓 (245m)	畑 地 道

#### (2) 県道梨郷・下伊佐沢線道路改良工事関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	散布地	翠 野 A	南陽市梨郷平野	縄文時代	山 麓 (220m)	畑 地
2	散布地	翠 野 B	南陽市梨郷平野	縄文時代	山 麓 (220m)	畑 地

#### (3) 山形県総合運動公園整備事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	散布地	荒 谷 原 (南 原 地 区)	天童市大字原町字南原	縄文時代 平安時代	扇状地 扇 端 (133m)	公園地 畑 地 宅 地

#### (4) 東北電力鉄塔移転関係

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	集落跡	物 見 台	中山町長崎字三軒屋	古墳時代	自然堤防 (93m)	荒 地

#### (5) 国鉄米坂線橋架工事関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	散布地	高 橋 場 A	小国町大字西字高橋場	縄文時代	段 丘 (140m)	宅 地 水 畑 田 地

#### (6) 笠輪地区地すべり対策事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	城館跡	笠 輪 郡	遊佐町大字直世字笠輪	室町時代	泥流台地 (45m)	山 林 地

遺跡概要	出土遺物	備考
新井田川左岸、手藏田部落の西端部に位置し、宅地を中心として立地すると考えられるが、現況では遺物散布等を認められない。	畑地となっている一部から完形の須恵器類が出土したといわれる。	No. 2029
羽越本線西袋駅より東方500m、田谷地区の南側に位置する。昭和59年度試掘調査で地表下90~130cmで包含層となる。排水路設置で立会い実施。	圓頭石棒・繩文土器片 (後・晚期)	昭和59年試掘調査実施 No. 1704
南陽市の北西部、国鉄長井線梨郷駅の北東500mに位置する。飛免農道整備事業に関連して立会調査を実施。遺跡北端で焼土を一ヶ所検出。	繩文土器 搔器・フレイク	新規 No. 1705

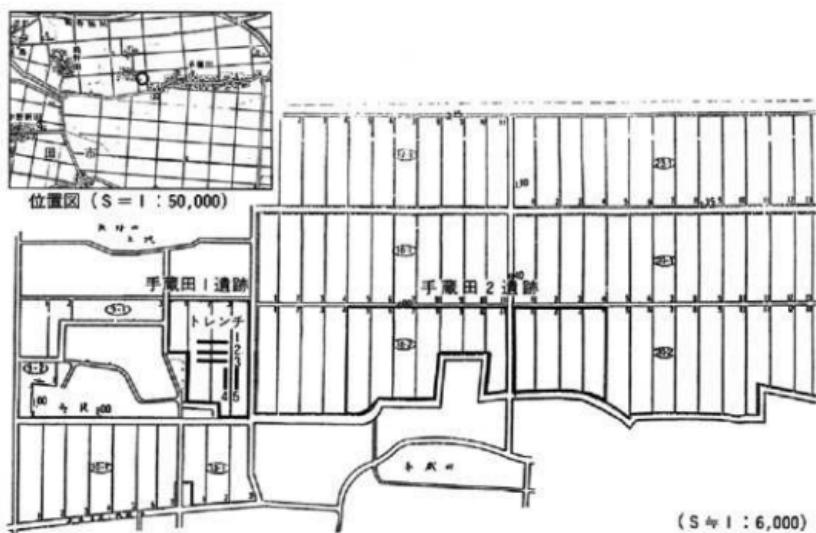
遺跡概要	出土遺物	備考
県道梨郷~伊佐沢線の主として西側に位置し、最上川右岸の西南方に張り出す台地上に遺物が散布している。遺構・遺物は未検出。	繩文土器 フレイク	No. 1241
平野A遺跡の北方 約200mに位置し、平野A遺跡と谷筋を挟んだ小台地斜面上に立地している。遺構・遺物は検出されない。		No. 1242

遺跡概要	出土遺物	備考
天童市の東南部、国道13号線の東側に位置し、遺跡の南西部が県総合運動公園用地となっている。今回の立会地では、遺構・遺物とも未検出。		新規 No. 1243

遺跡概要	出土遺物	備考
最上川右岸の東西方向にのびる自然堤防上に立地し、東西約200m、南北100mの広がりをもつ。土器3片が出土した。遺構は検出されない。	土器群	No. 397 昭和58・59年に県教委発掘調査実施 No. 1377

遺跡概要	出土遺物	備考
国鉄米坂線小国駅の北西800mに位置し、横川の支流田沢川の右岸段丘に立地。今回の立会地では遺構・遺物とも未検出。		No. 1377

遺跡概要	出土遺物	備考
国鉄羽越本線吹浦駅の東方 2kmに位置する平山城。土塁や堀跡等は見つかっていないが、最上家の大身が在城したといわれている。		No. 2236



第15図 手藏田Ⅰ遺跡概要図



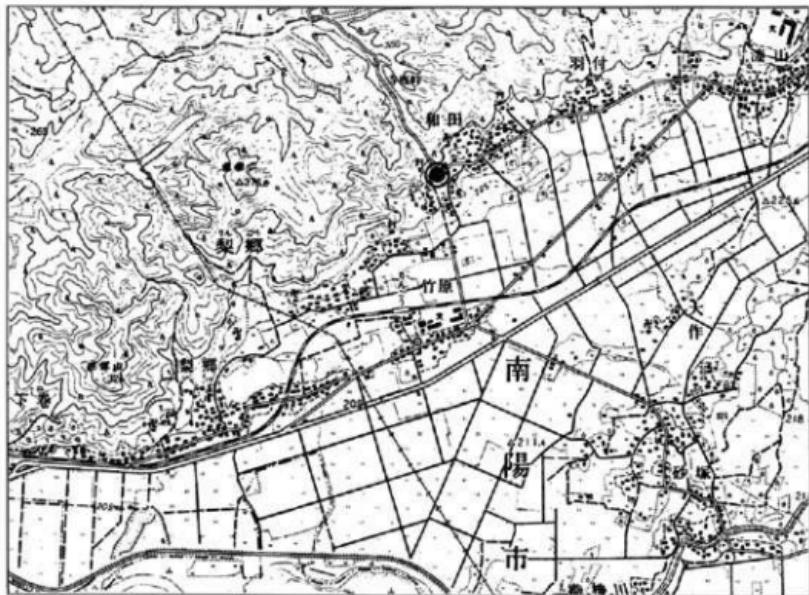
## 図版II 手藏田1遺跡立会い調査状況



第16図 田谷遺跡位置図 ( $S = 1 : 25,000$ )



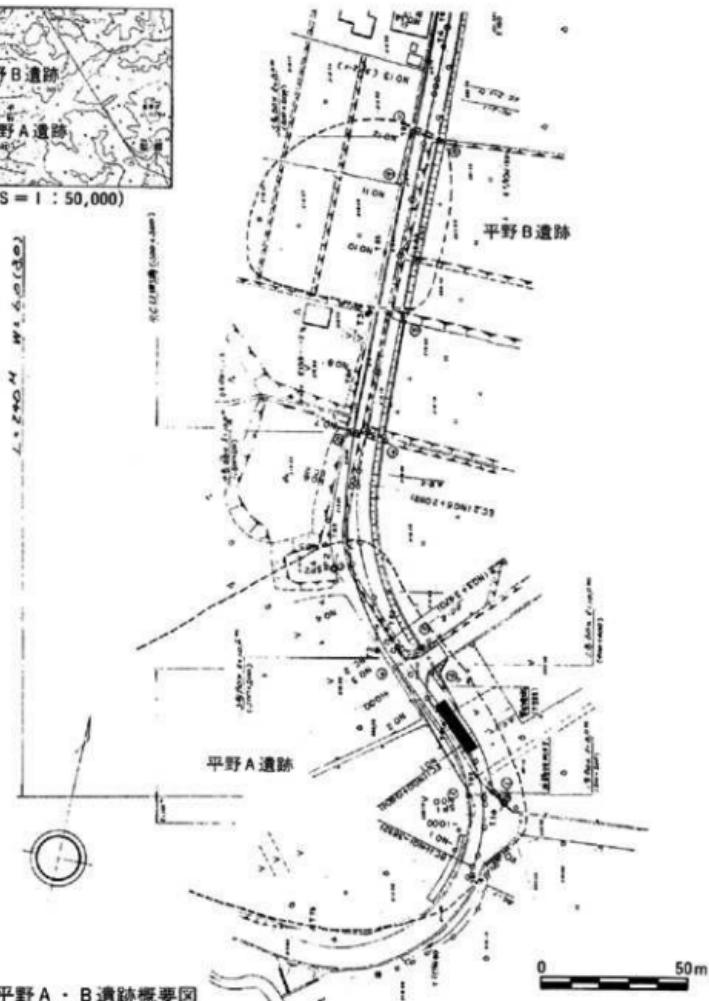
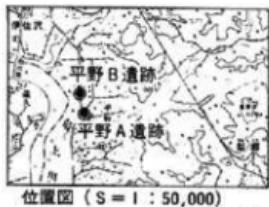
図版12 田谷遺跡近景



第17図 羽黒堂遺跡位置図 ( $S = 1 : 25,000$ )



図版13 羽黒堂遺跡立会い調査状況



第18図 平野A・B遺跡概要図



平野A遺跡遠景(東から)



同左近景(南から)



調査状況

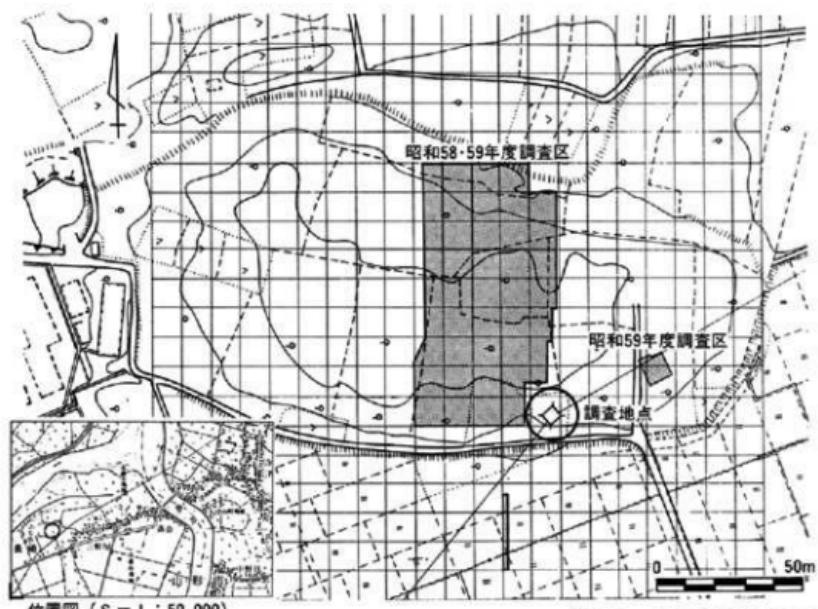
図版14 平野A・B遺跡



第19図 荒谷原遺跡位置図 ( $S = 1 : 25,000$ )



図版15 荒谷原遺跡立会い調査状況

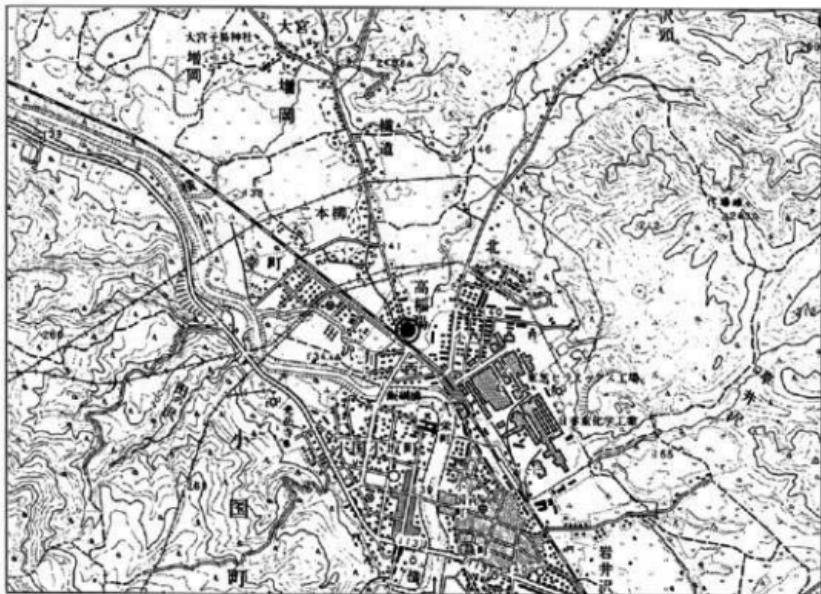


第20図 物見台遺跡概要図



調査風景

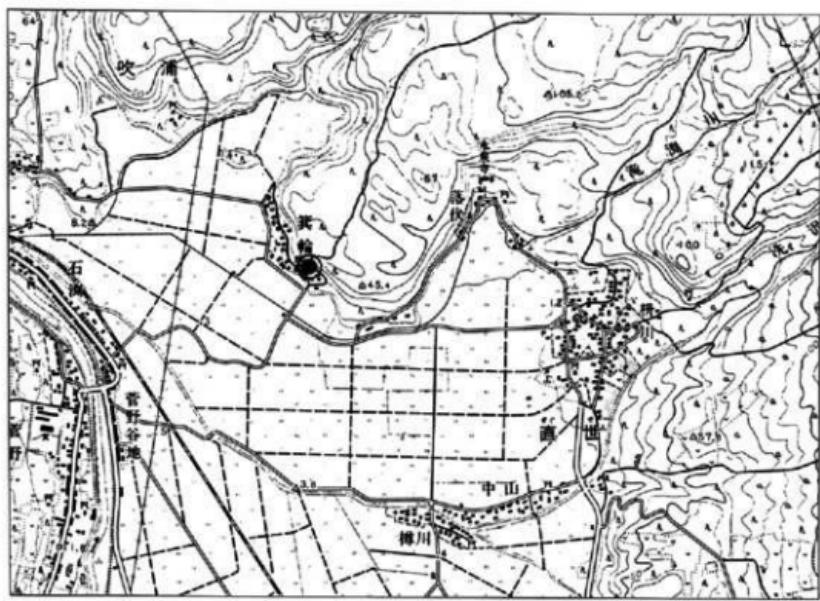
図版16 物見台遺跡立会い調査状況



第21図 高稻場遺跡位置図



図版17 高稻場遺跡土層断面



第22図 箕輪館跡位置図



図版18 箕輪館跡遠景

#### 4 試掘調査実施遺跡

##### (1) 県営ほ場整備事業関係遺跡

a 南興野遺跡 (遺跡番号2025)

所 在 地 山形県酒田市新青渡字南大坪他

調 査 者 阿部明彦 太田 優

調査期日 A調査 昭和60年10月1日 B調査 昭和60年10月7日・8日

調査の概要 遺跡は、新井田川右岸の自然堤防上に立地し、標高4.3m前後を測る。遺跡範囲は、南興野集落の西辺域および東北辺域に広がり、遺物等の散布状況から見て約500m四方程の規模を持つと考えられる。新青渡部落へと向う県道がその中央部を走る。

今回の調査は、昭和61年度施工予定の県営ほ場整備事業（北平田第一地区）との調整に資するために実施したもので、55ヶ所の調査地点から平安時代の遺構・遺物を検出した。



第23図 南興野遺跡概要図



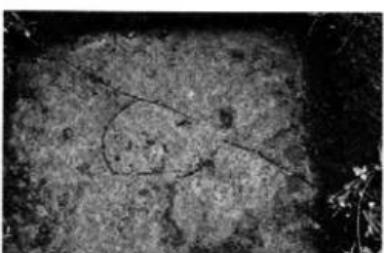
遺跡遠景（南西から）



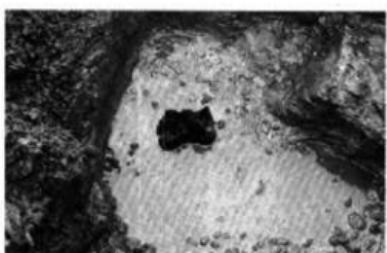
遺跡近景（南東から）



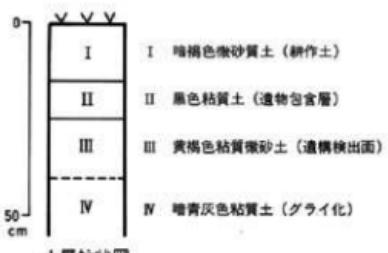
柱穴検出状況



柱穴・溝跡検出状況



柱根検出状況



出土遺物



出土遺物

b 生石2遺跡（遺跡番号2060）

所 在 地 山形県酒田市大字生石字登路田

調 査 員 佐藤庄一 安部 実

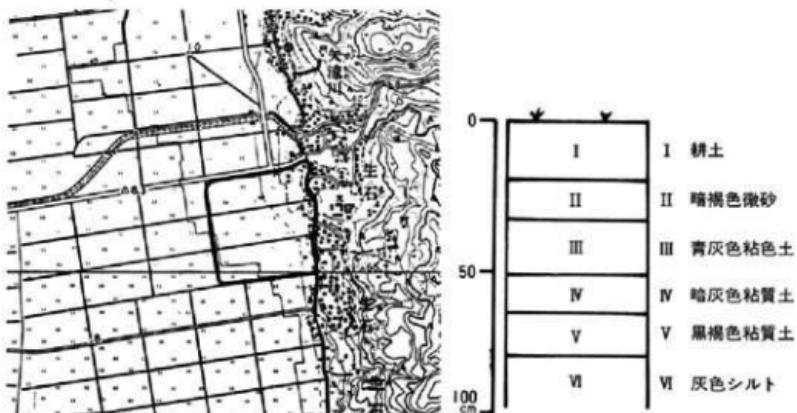
調査期日 A調査 昭和60年10月1日 B調査 昭和60年10月3・4日

遺跡の概要 遺跡は、酒田市街から東へ約8km、酒田市生石部落の西側一帯に広がっている。庄内平野の北半部、いわゆる飽海郡の中央東端、最上川の支流新井田川上流左岸の出羽丘陵山麓に位置している。標高約10~12mの平地で、現況は水田、畠地、宅地と道路を含む。表層の地質は、細砂質土、粗砂、シルト、砂礫層からなる沖積層である。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和61年度に施工が予定されている県営は場整備事業（山元地区）との調整に資するために実施したものである。なお遺跡の北西部は、昭和57年度に酒田農協ガソリンスタンド建設に伴い酒田市教育委員会が調査を行ない、昭和60年度にもさらにその南側の一部を調査している。また遺跡の中央部は、昭和59年度に国道345号線道路改良工事に関連して、北西側の一部は昭和60年度に県営は場整備事業に関連して県教育委員会が緊急発掘調査を実施している。

昭和60年度の県教委緊急調査では、弥生時代中期初頭の遺構・遺物、平安時代の全長約110mに及ぶ板材列、掘立柱建物跡、倉庫、大構跡、井戸跡などの遺構、石帶、多量の墨書き土器、木製品等が出土している。

今回の調査は、61年度事業区内に1m×2m方形の坪掘りを34箇所、2m×12mのトレンチ掘りを3箇所行なった。調査の結果、トレンチ（35・36）では板材列が検出され、8箇所の坪掘り地点で土壙・柱穴などの遺構が検出された。出土遺物は試掘地点の全域で出土しており、須恵器、土師器など平安時代の土器類が主である。



第24図 生石2遺跡 位置図・土層柱状図



第25図 生石2遺跡概要図



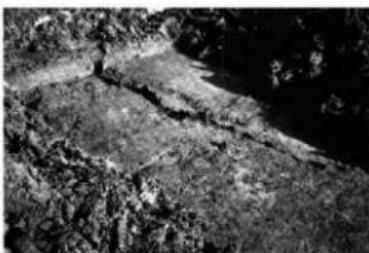
遺跡近景（北から）



板材列検出状況（西から）



板材列（西から）



板材列（北西から）



板材列（南西から）



柱穴検出状況（西から）



土層断面

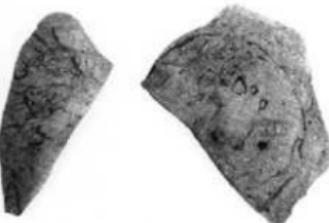


昭和60年度緊急発掘調査  
板材列検出状況（南から）

図版20 生石 2 遺跡



墨書土器 須恵器 罋  
不明



墨書土器 須恵器 壺  
不明



須恵器 壺



須恵器 高台付壺



須恵器 高台付壺



須恵器 壺



須恵器 壺



赤燒土器 壺・壺

図版21 生石2遺跡出土遺物

C 生石4遺跡（遺跡番号2062）

所 在 地 山形県酒田市大字生石字樋野内新田

調 査 員 佐藤庄一 安部 実

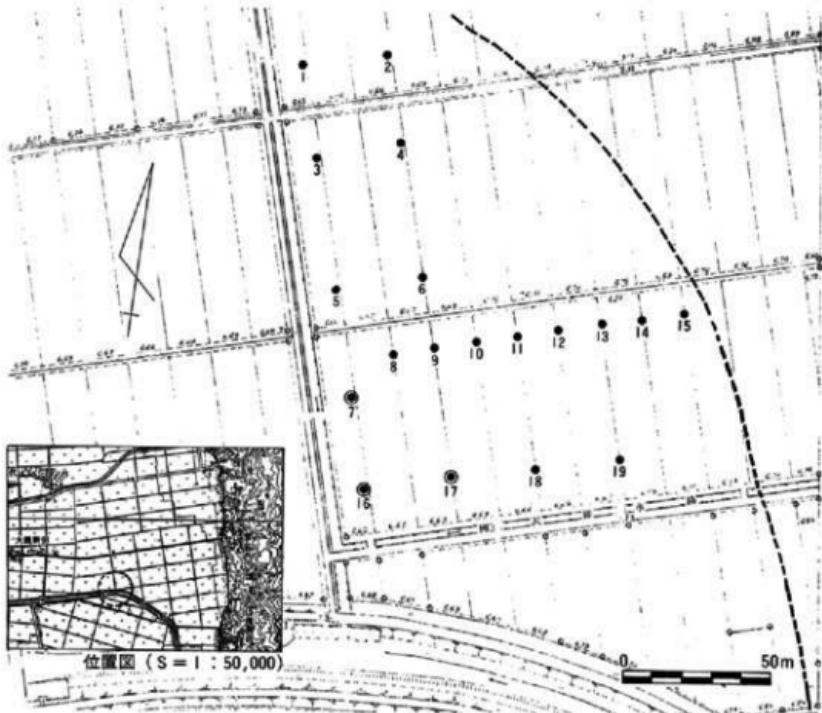
調査期日 A調査 昭和60年10月1日 B調査 昭和60年10月7・8・11日

遺跡の概要 遺跡は酒田市街地より東へ約7km、酒田市生石部落の南西に位置する。河間底地と後背湿地の境界上に立地しており、標高は約6.6mを測り、地目は水田である。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和61年度に施工予定されている、県営は場整備事業（山元地区）との調整に資するために実施したものである。なお、遺跡の北側については、昭和59年度に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。

調査は事業予定区域内に1m×2m方形の試掘を19箇所設定して行った。3箇所の地点から遺物が出土した。須恵器、赤焼土器、木製品などで、平安時代の土器が大部分である。

遺跡の北側と東側は泥炭層がかなり厚く堆積しており、この地域が後背湿地に属していることを窺わせている。



第26図 生石4遺跡概要図



遺跡西側近景（南から）



遺跡東側近景（南から）



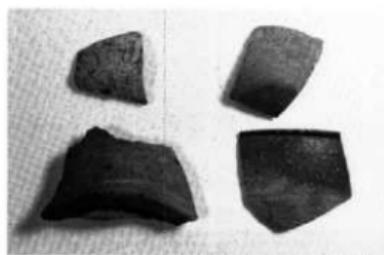
遺跡近景（南西から）



同 左



出土木製品



出土遺物（須恵器 環、合環）



出土遺物（須恵器 環）  
回転杀切刃

d 桜林興野遺跡（遺跡番号2025）

所在地 山形県飽海郡平田町桜林興野

調査員 阿部明彦 野尻侃

調査期日 A調査 昭和60年10月1日 B調査 昭和60年10月3～4・9日 C調査 昭和60年10月28日～同年11月8日（延べ9日）

遺跡の概要 本遺跡は羽越本線砂越駅の北々東約2kmに位置し、平田川左岸の河岸段丘および自然堤防上に立地している。標高は、6.2～7.3mを測る。

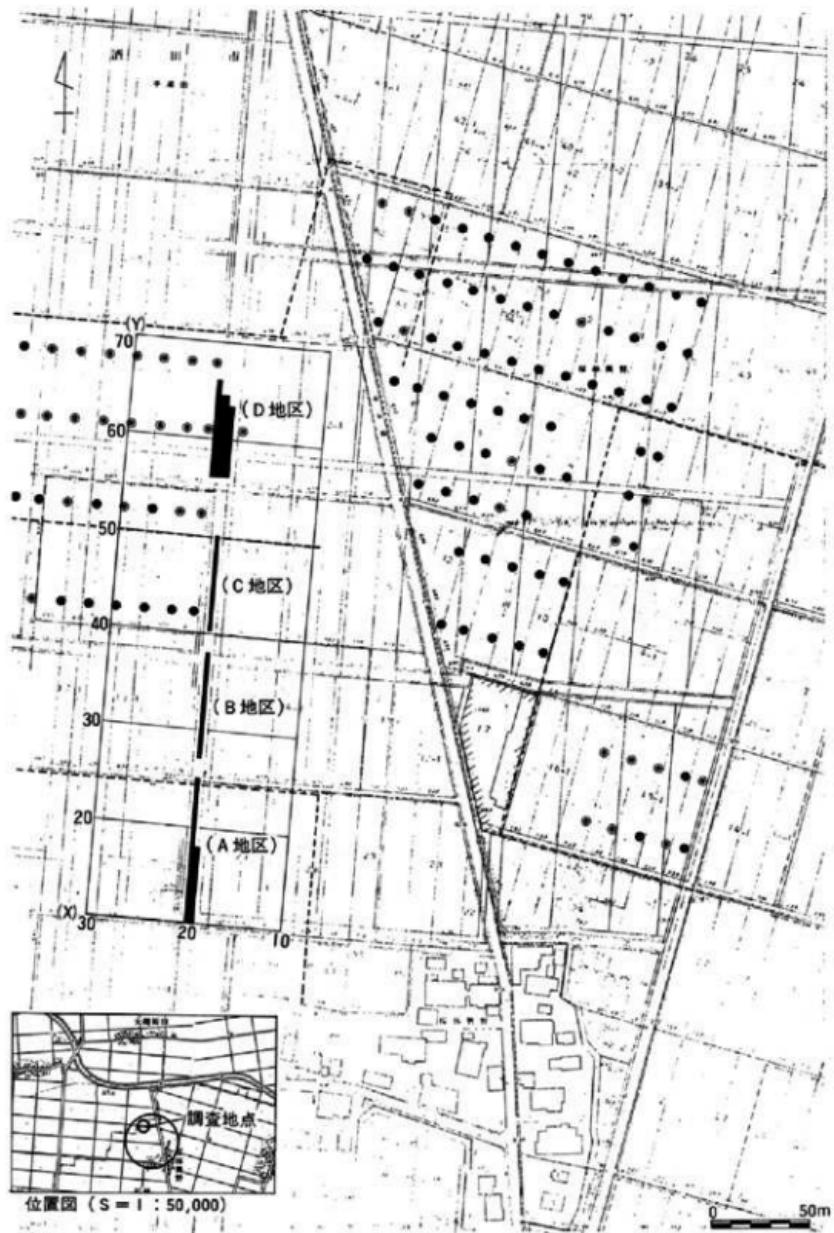
本遺跡の発見は、昭和27年に現佐藤明吉氏所有の水田を盤下げした事が契機となっている。そこで出土した須恵器他古代の土器、および柱列等が酒田市手蔵田在住の伊藤安記氏や立川町在住の八木藤太氏等の注目する所となり、「柱根が横円形に8本発見され、長軸は8mで、短軸6m、中央上部寄りに地床炉があった」とされる。また当時平板を用いて作ったと思われる上記柱根他の配置を記録した図面一葉が残されてもいる。

一方、今回分布調査Cを実施したD地区では、耕作者の話によると、以前に時折古銭（中世期の渡米銭？）が出土したとの事であり、さらに遺跡を含む一帯は、旧来の狭隘な水田から現在の1反1枚の水田に区画整備を行なった段階で、かなりの部分人力による切り土、盛り土が行なわれたと云う。事実そうした状況は今回の調査からも確認された。

今回の調査は、本遺跡を含む一帯が昭和61年度以降に県営は場整備が行なわれる予定である事から、① 遺跡範囲の確認、② 包含層、遺構検出面までの深さ、土層の状況把握等に主眼を置いて実施したものである。さらに、昭和61年度の面工事に先行して計画された遺跡域にかかる水路・道路予定部分については、路線幅15m、延長300m部分と云う限定された対象地区のため、分布調査Cで対応する事とし、重機を用いたトレンチ調査の後、特に遺構・遺物の集中的に認められたA地区、およびD地区について拡張・精査を実施して記録保存としたものである（第27図）。

#### B調査の概要

遺跡範囲の確定、遺構・遺物の集中地点の把握を目的として実施したもので、施工予定地区内の水田1枚につき2～3箇所の試掘坑（1×1m）126箇所を設け、各々を地山層まで掘り下げながら遺物の包含状態や土層の状況を検証した。その結果、道路を挟んで東と西にややまとまる遺物の集中地点が認められる事、東側は、施工区域外にも延びる事、西側では、分布調査CにおけるA地区、D地区近辺を主体とし、各々その東西に中心域が広がる事等が予測された。土層の状況は、耕土下に20～30cm前後の黒色粘土層があり、その下部～地山（青灰色砂質ないし同微砂質粘土層）との界面に遺物を包含している事等の知見が得られた。また、部分的には、上部が削平され、間層の欠落を認める所がある。



第27図 桜林興野遺跡概要図

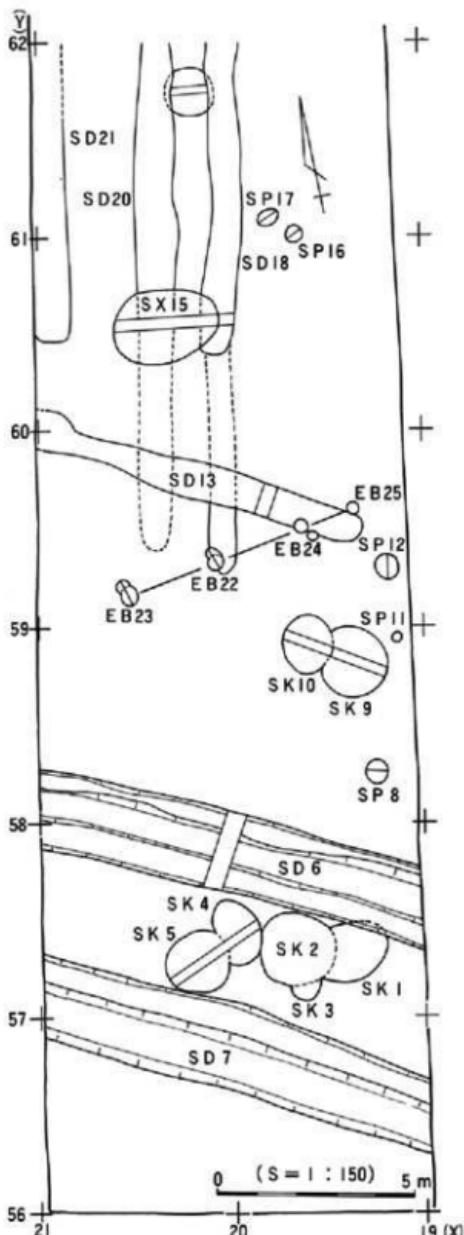
### C調査の概要

本調査は、水路・道路予定部分について行ったものであり、調査区の設定は、水路・道路の線形センターを基準とした。すなわち、東西にX軸、南北にY軸を取り、5mを1単位とするグリッドを設定している。調査区は、現状の水田、農道・水路から便宜的に四区画されるため南から順次A～D地区と命名し、X軸20に沿うトレーンチを重機を用いて入れた。各地区のトレーンチ長は、A地区75m、B地区55m、C地区50m、D地区50mとした。

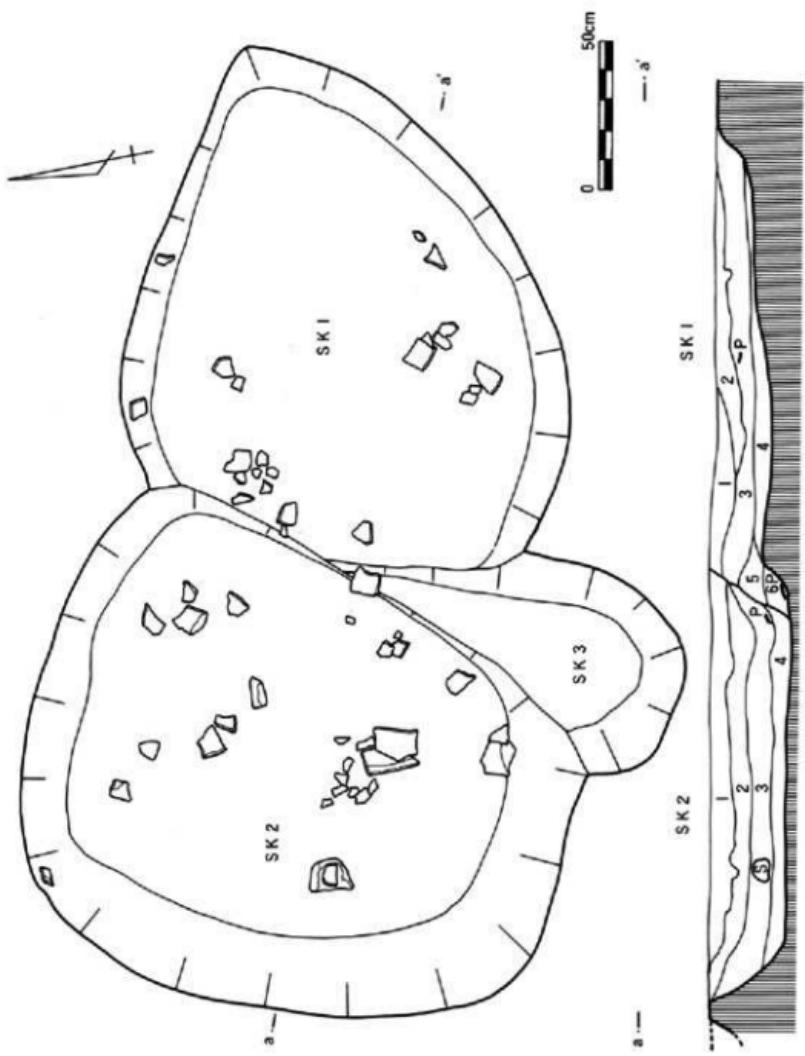
トレーンチ調査の結果、A・D地区で遺物・遺構が認められ、B・C地区では皆無であった。また、基盤層が下がり、土壤のグライ化傾向の大、強粘質化が認められ、凹地状の湿地を形成している事が窺える。A地区での遺構・遺物の検出面までは、幾分深く(40cm)、D地区では拡張精査区の大半で上部層の切り土が認められた。すなわちD地区の北側は盛り土され、本来の地形は北側程傾斜している事がB調査時にも確認されている。

一方、遺物の散布状況からは、遺構・遺物の集中域が、東西に細長く連なっているものと推測され、D地区においては、自然堤防上の細長い微高地に遺跡が立地していると考えられる。

なお、A地区では幅5m×長さ40m、D地区では幅10m×長さ35mの拡張・精査区を設定し、主としてD地区的精査記録に重点を置いた。



第28図 桜林興野遺跡 D地区遺構配置図



第29圖 桜林廻野遺跡 SK 1 ~ 3 土壤実測図

### 検出遺構（第29図）

D地区約350m<sup>2</sup>の精査区で検出された遺構は、水路と考えられる溝跡SD6・7の2基、土壙SK1～5、SK9・10の7基、小穴SP8・11・12・16・17の5基、掘立柱建物の北辺を構成すると考えられる柱列EB23～25が主要なものである。これらの他北側にSD13、SX15、SD20・21等の溝状や土壙状を呈する遺構を検出したが、覆土の状況や遺構の掘り込み具合から見て古代にまで遡るものではなく、かなり新しい時期の所産と判断された。したがって以下では、主として調査区南半に遺された古代の遺構について概観する。柱列 EB23～EB25で構成され、主軸は東西方向にある。掘り方径は40～50cmで円形ないし楕円形を呈す。柱間は、EB23～24、EB22～24で2.4m（8尺）を測る。土壙

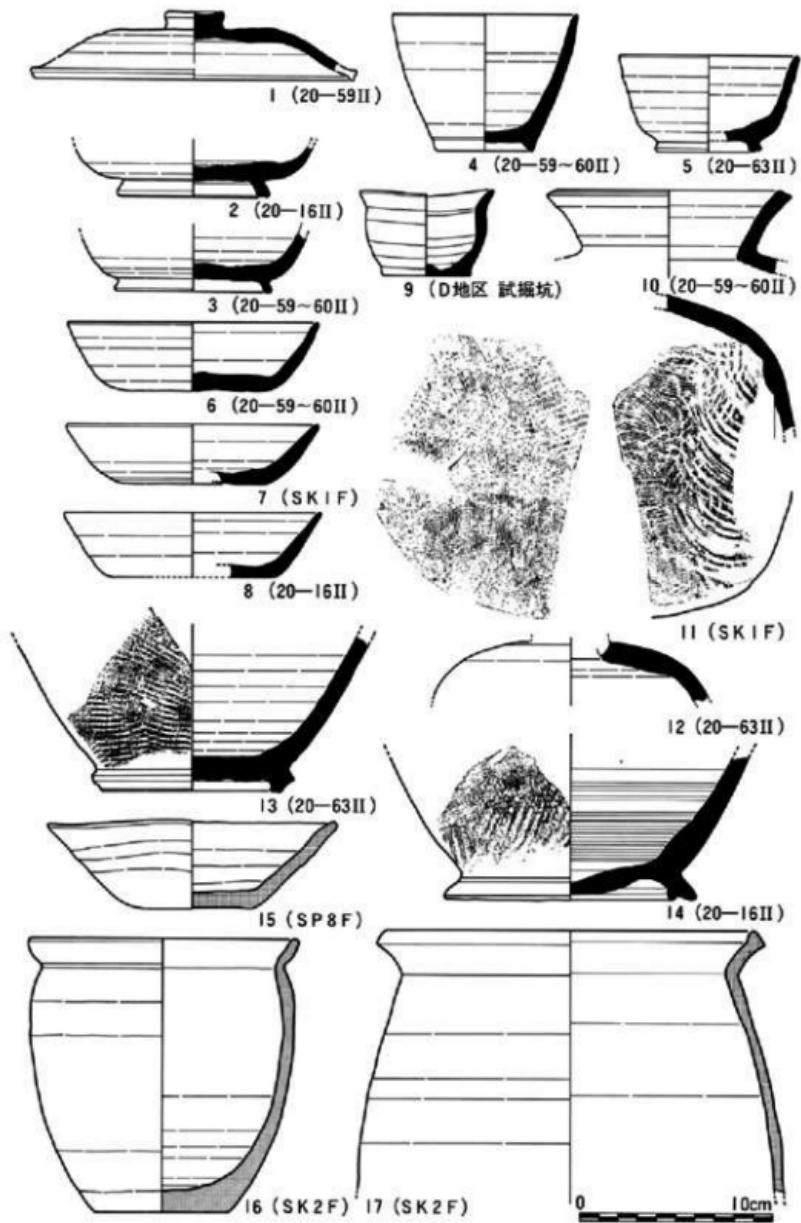
長径1.5～2mで略円形ないし楕円形状を示し、検出面からの深さ20～30cm内外のものが大半である。SK1・2では、覆土2～3層の暗灰褐色粘質土中に多量の土器を含み、SK1の覆土上部1～2層では炭化物を多く認めた。土壙はその重複関係からSK1・SK3→SK2→SK4→SK5、SK1→SD6の順に新しくなる。溝跡 SD6・7はほぼ平行して東～西へ向かう。SD6の上幅約2m、中央部幅1mで段を成し、深さは35cm前後を測る。覆土はいずれも黒灰色の均質な粘土を主体としている。

### 出土遺物（第30図）

A・D地区を合わせて約10箱程の量があり、その大方はD地区出土のものである。遺物の種別では須恵器、あかやき土器等の土器類が大半で、供膳形態・貯蔵形態に須恵器、煮沸形態にあかやき土器が主として認められる。内黒のロクロ土師器坏（黒色土器）は破片資料若干に限られている。また非ロクロ使用の土師器裏類は見られない。以下では、資料整理が充分でない事から代表的な事例について図示しその概略を述べるに留める。

須恵器では、蓋・坏・高台付坏・壺・甕・横瓶他の器種が見られ、坏・高台付坏とともにその切り離しは回転ヘラ切りが大勢を占める。高台付坏では、三角風高台を持ち、口縁が直線的に立ち上がる（4）や、短頭壺の体部下半と思われる叩き目を有し、端部整形の著しい付高台を持つもの（13・14）は従来の資料中に類似例が乏しく注目されよう。

あかやき土器では、甕・壠・坏等の器種を認めるが、壠および杯類の個体数は極めて少ない。特に坏では供膳形態に占める割合はかなり低い。甕では、体部下半に叩きを有すやや大形で丸底になるとされるものが多いが、全形を復元し得たものはない。小形でロクロ整形痕のみを認める平底のもの（16）が一定量存在する。坏は、底径が大きく、体部から口縁は直線的にやや強く外傾して立ち上がり、大ぶりである。以上の資料は、主としてSK1・2およびその周辺と、A地区出土（2・8・14）のものであり、すべて同時期とするには問題があるが、大方8世紀後葉～9世紀初頭代の中で収まるかと考えられる。



第30図 桜林興野遺跡出土 土器実測図



遺跡遠景（南西から）



遺跡遠景（北から）



B 調査 土層断面



B 調査 土層断面



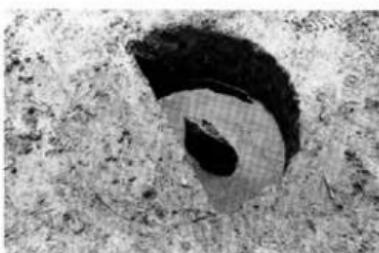
A 地区 調査状況



D 地区 SD 6 (東から)

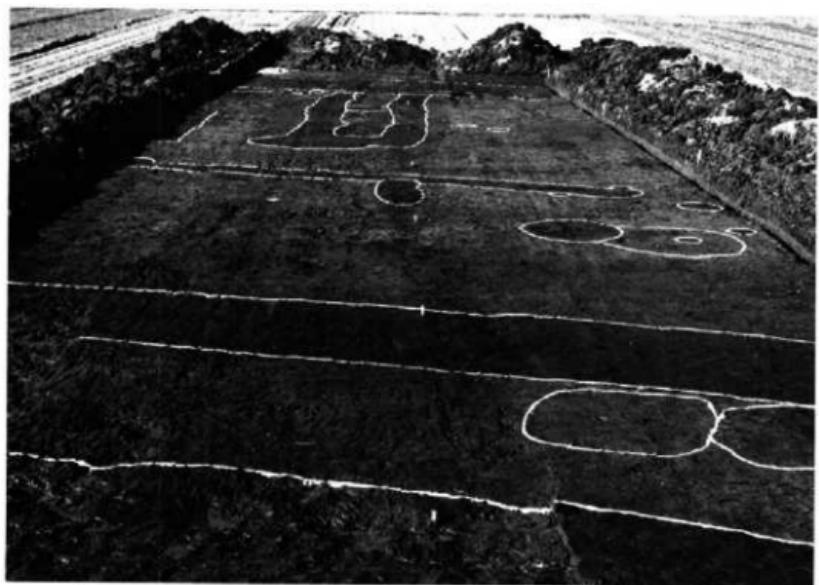


A 地区遺物出土状況



D 地区 SP 8 (西から)

図版23 桜林興野遺跡（Ⅰ）



D地区遺構検出状況（南から）



同上 遺構検出状況（北から）

図版24 桜林興野遺跡（2）



D地区SKI~3遺物出土状況



同上 遺物出土状況(部分)

図版25 桜林興野遺跡(3)



須恵器 壁



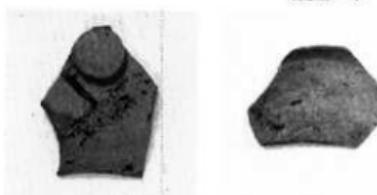
あかやき土器 瓢



須恵器 壁



あかやき土器 壺



須恵器 壺



壺



壺



高台付 壺



高台付壺



高台付壺



高台付壺

壺



壺

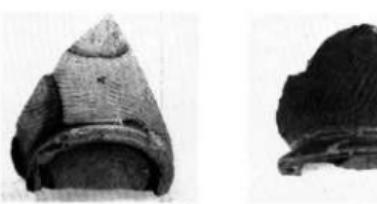


壺

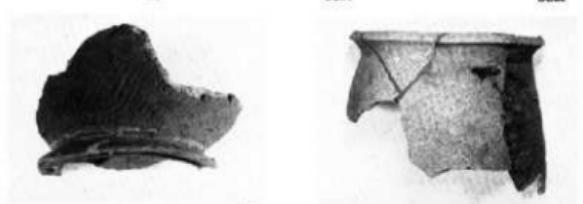


横瓶

横瓶



壺



壺



あかやき 壺

図版26 桜林興野遺跡出土土器

e 大槻遺跡（遺跡番号2177）

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字小原田字大槻・塚・樋の内・大面・大槻・御所馬場  
調 査 員 野尻 侃

調 査 期 日 A調査 昭和60年10月15日 B調査 昭和60年11月5～9日

遺跡の概要 本遺跡は国鉄羽越本線遊佐駅の東南東約1.5kmに位置し、月光川左岸の氾濫原とそれから3m前後の比高差をもつ段丘上に立地し、標高は12～20mをはかる。本遺跡については過去に数度の分布調査が実施されたが、遺跡の性格・内容・範囲等が不明瞭のまま現在に至っている。また昭和59年度に昭和60年度以降の県営は場整備事業関係遺跡詳細分布調査として過去の調査結果をふまえ、遺跡の性格・内容・範囲等の再確認を実施した。それによれば昭和53年度刊行の山形県遺跡地図登載の範囲内に平安時代と中世の遺構が存



大槻遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

在することや、遺構・遺物の集中区域も数カ所に分けられること、また縄文時代の遺物も出土したことなど、多数の問題点が上げられ、更に詳しい分布調査の必要性を提示した。県庄内支庁経済部最上川右岸土地改良事務所では、事業実施年度が近づいて来たことから遺跡の性格・範囲等の



第31図 大槻遺跡概要図

明確な調査を県教育委員会へ依頼した。これを受け昭和60年10月に分布A調査、11月にB調査を実施したものである。調査は昭和59年度の分布調査結果を参考とし、遺構・遺物が確認されている範囲の広がりを更に詳細に把握し、面的な範囲の確認、遺物包含層の確認等を目的とし、遺跡全域に260ヶ所の試掘を実施した。

その結果、遺構・遺物が広がる地域は大きく4ヶ所に分けられ、これを大橋部落の南側に広がる大橋地区、上長橋部落東側に広がる道の上地区、平津新田部落の西側に広がる堂田地区、大橋部落東側に広がる橋の内地区と呼ぶことにする。また遺跡分布地図に登載されている東西850m、南北700mの区画された部分には、区画を示す溝跡や、土壠、柵木等の遺構は検出されなかった。

大橋地区的試掘調査では、59年度調査で確認された首塚周辺と遺構・遺物が検出されたTP5・6・9・10・51・54を中心に大橋部落南側を水田一枚につき2~3ヶ所の試掘を実施した。TP1では須恵器腰片、古銭を出土。首塚周辺の水田では、耕作土下16~20cmに茶褐色粘質土層が存在し、炭化物粒子を含む包含層があり、各TPからは中世陶磁器片が出土した。また包含層は大橋部落南側添いに大きく東西に広がり、確認された範囲は東西約430m、南北約200m(約80,000m<sup>2</sup>)の広大な広さとなった。しかし、首塚周辺での遺構・遺物の検出状況は良好であったが、西半部の検出状況は希薄であり赤焼土器片が出土したことから文化層のちがう包含層の重複が考えられる。

道の上地区は59年度調査で検出されたTPを中心とした範囲の広がりを試掘した。地形的には北東側が高くなり、南西方に傾斜する。また試掘による土層の堆積状態では西側と北側に黒褐色粘質土の包含層が存在するがTP24より西側では包含層と思われる黒褐色粘質土層が存在しなくなり、褐青灰色土又は青黒粘質土層が厚く堆積していることから遺構の存在は考えられない。出土遺物は平安時代の赤焼土器、須恵器が検出されたことから、平安時代を主体とした範囲と考えられる。東西約170m、南北約220m(32,000m<sup>2</sup>)となる。範囲として囲まれた地域の中心部には試掘を実施しておらず、この部分については再度の分布調査が必要と考えられる。時期は平安時代と考えられる。

堂田地区は五輪塚を中心に試掘を実施した。塚が存在することについては大橋地区的首塚周辺と同様に遺構・遺物の検出が多く、その限界を探るために五輪塚の北方及び東・南方に向って試掘を進めた。その結果TP41では礎板と根固石と考えられる拳大の河原石を検出した。掘立柱柱穴と考えられ、付近に建物跡の存在をうかがわせる。またTP42・54・60・64~66・72からは須恵器、中世陶器等の土器片が出土、範囲も南東方に大きく広がる様相を呈した。遺物包含層は表土下10~15cmに茶褐色粘質土層が厚さ15~20cmに広く存在する。範囲は東西約150m、南北約370m(約53,000m<sup>2</sup>)の広大な広さとなるが、地形的に



第32図 大幡道路（大幡地区）概要図



大橋地区近景（南から）



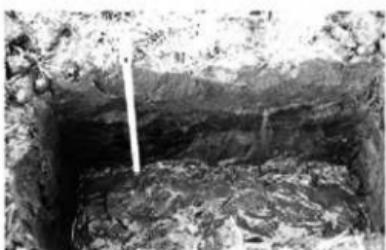
調査状況



首塚近景



TP 1 土層断面



TP 215 土層断面

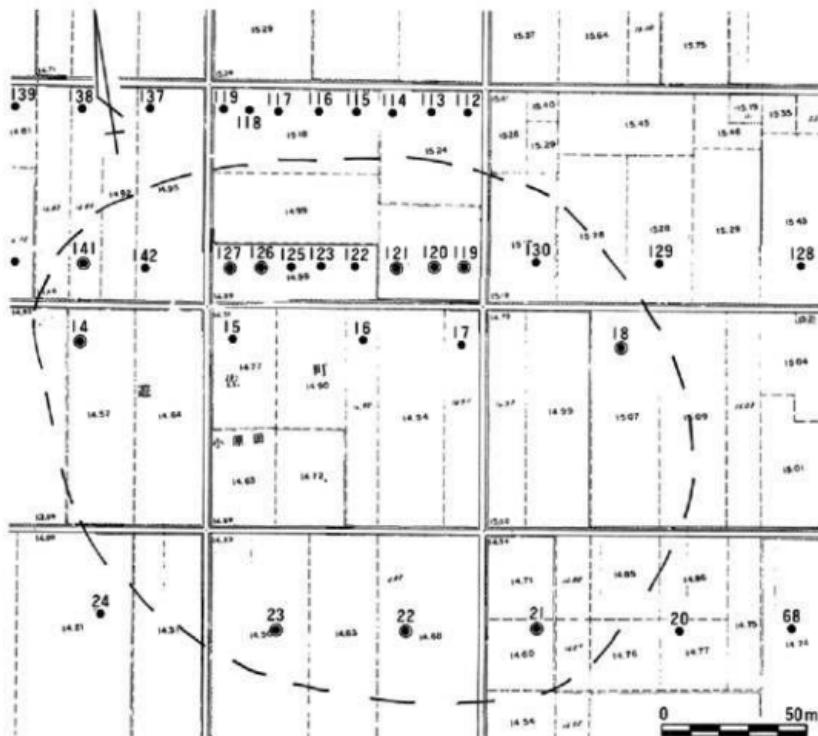


出土遺物

図版27 大橋遺跡（大橋地区）

は南方で砂質を呈することや、砂利層が存在することにより、範囲が狭くなる可能性もある。

柵の内地区では遺跡北東部、59年度調査でのTP 48を中心に試掘を実施した。付近は苗代田として利用されていたことから深い耕作が無く、他地区と比べて包含層の存在は良好であった。包含層は耕作土下10~12cmに茶褐色粘質土層が厚さ10~15cmで存在し、その下部は河原石が充満しており、月光川の河川敷の感を受けた。おそらく氾濫による流入と考えられ、その上部で包含層が堆積したものと考えられる。出土遺物は、TP 29より中世陶器片や近世磁器片、TP 17・18からは中世陶器片と共に箸状や棒状の加工木製品の残片が出土した。範囲は東西約50m、南北150m（約6,000m<sup>2</sup>）と考えられる。この柵の内地区は遊佐氏の居城があったとされる小高い丘が南南東方に存在するがそれに関連する付属遺構は付近では確認されなかった。本地区は出土土器から中世から近世にかけての時期が当たる。以上4地区が本遺跡の中で確認することが出来たが、各地区的試掘では、検出される遺構・遺物が少なく、更に詳細な分布調査が必要と考えられる。



第33図 大楯遺跡（道の上地区）概要図



道の上地区近景（南から）



調査状況



TP 123土層断面



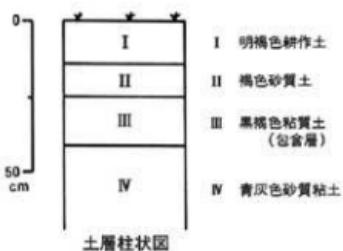
TP 127土層断面



TP 120土層断面・遺物出土状況



TP 141土層断面



出土遺物

図版28 大柄遺跡（道の上地区）



第34図 大畠遺跡（堂田地区）概要図



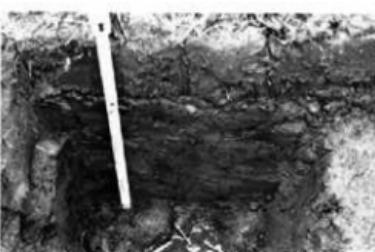
堂田地区近景（東から）



調査状況



TP 14土層断面



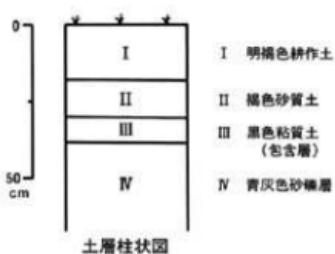
TP 50土層断面



TP 41柱穴・添木出土状況



TP 41添木出土状況



出土遺物

図版29 大桶遺跡（堂田地区）



第35図 大塚遺跡（樋の内地区）概要図



柵の内地区近景（東から）



調査状況



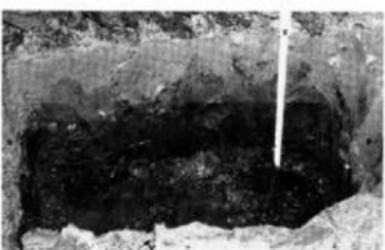
調査状況



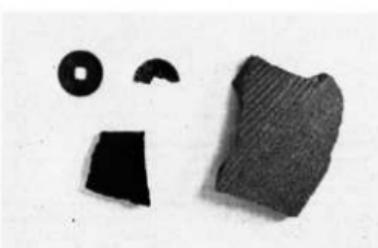
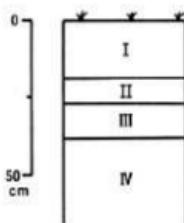
TP 27土層断面



TP 17土層断面



TP 18土層断面



出土遺物

図版30 大柵遺跡（柵の内地区）

f 森ノ越遺跡 (遺跡番号 950)

所 在 地 山形県最上郡最上町大字志茂字森ノ越

調査員 佐藤庄一・中島 寛・太田 優

調査期日 C調査 昭和60年7月15日～8月6日

調査の概要 本遺跡は国鉄陸羽東線大堀駅の南約500mに位置する。白川右岸の段丘上に立地し、標高は約187mを測る。今回の調査は、昭和60年度に実施される県営は場整備事業(最上町西部地区)に伴い実施されたものである。調査は昨年度のB調査をもとに、以前おこなわれた土地改良事業で破壊されず比較的良好に残っている遺跡中央部、360m<sup>2</sup>を中心におこなった。

発見された遺構 土壙11、溝状遺構1、ピット107の他に掘立柱建物跡と思われる柱穴列を検出した。SK2覆土3層とSK5覆土4層から縄文中期の遺物が出土した。他の土壙からは遺物の出土はみられないが、形態や覆土からみて縄文時代に属する可能性が強い。

出土した遺物 整理箱に約1箱程出土した。土器は縄文中期中葉(大木8a式併行)に属するものが大半を占める。なお少量ではあるが縄文後期中葉(宮戸2a式併行)のものも出土している。また、第5号土壙覆土1層から平安以降のものと思われる鉄製の刀子1点が出土している。



第36図 森ノ越遺跡概要図



遺跡遠景（北東から）



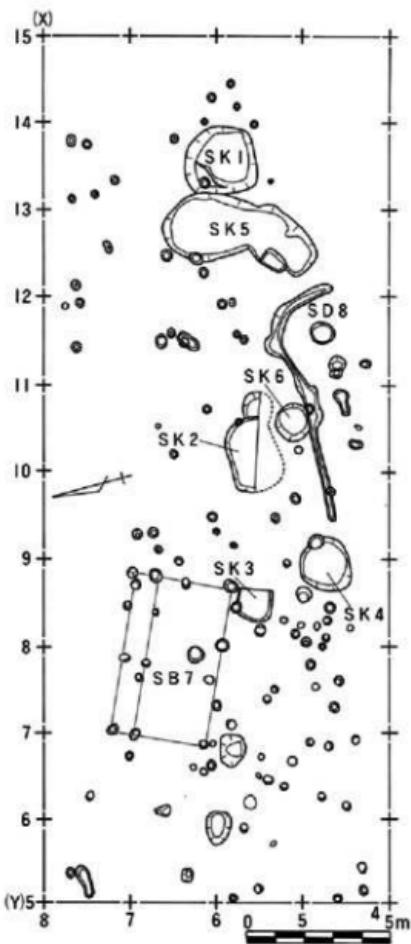
遺跡近景（東から）



遺構検出状況（北西から）



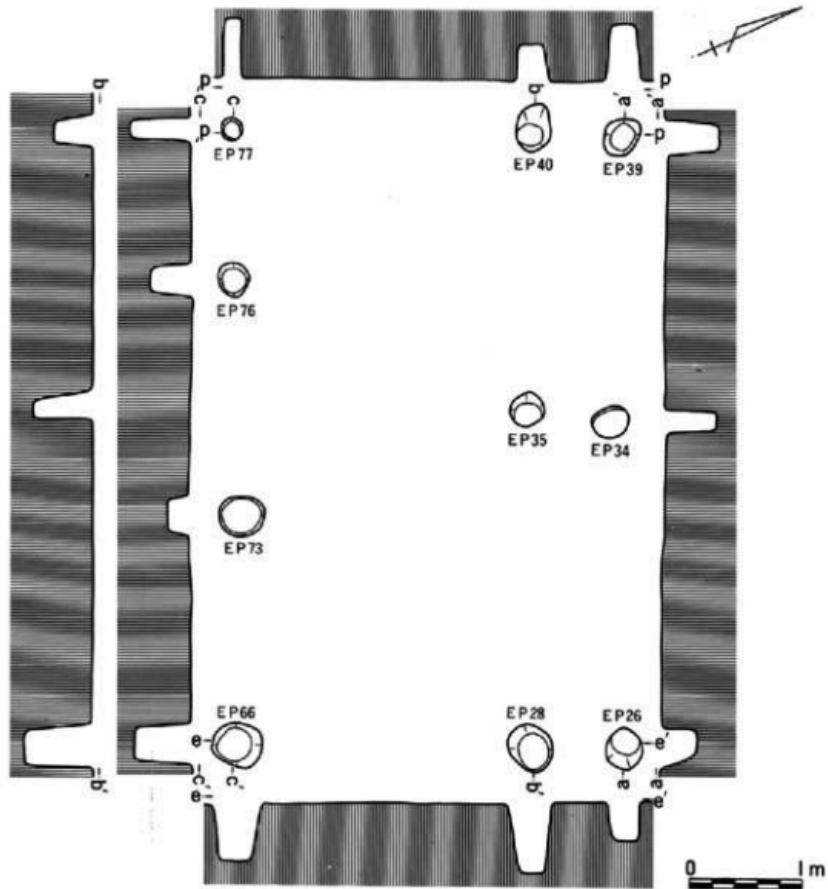
SK1-5 土 壤



第37図 森ノ越遺跡遺構配置図



図版31 森ノ越遺跡（I）



第38図 森ノ越遺跡 S B 1 堀立柱建物跡

#### S B 7 堀立柱建物跡（第38図）

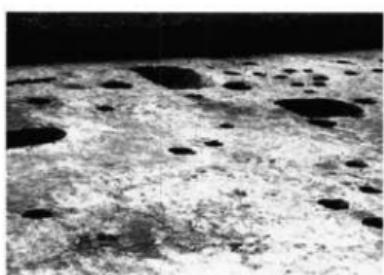
7・8—7～9Gに位置する。柱穴の配置等から1間×3間の堀立柱建物跡と思われる。柱間は、南側桁行で西から1.3・2.1・1.9m、北側桁行で2.5・2.8mを測る。母屋の北側にある柱穴列は底をささえる柱穴と思われる。梁行柱間は、東西面とも底部を入れて北から0.8・2.6mを測る。柱穴の覆土は暗褐色シルトを主体とするもので、遺物が出土した縄文時代の土壤の覆土とは異なることから、縄文時代の遺構とは考えられない。時期は、年代を明確にできる遺物等が出土していないため不明である。



柱穴群



SK 2・4号土壤・柱穴群



SK 3・4号土壤・柱穴群



調査区状況



出土遺物

図版32 森ノ越遺跡 (2)

g 宮の下遺跡 (新規)

所在地 山形県最上郡最上町大字志茂字宮の下

調査員 佐藤庄一・中島 寛・太田 優

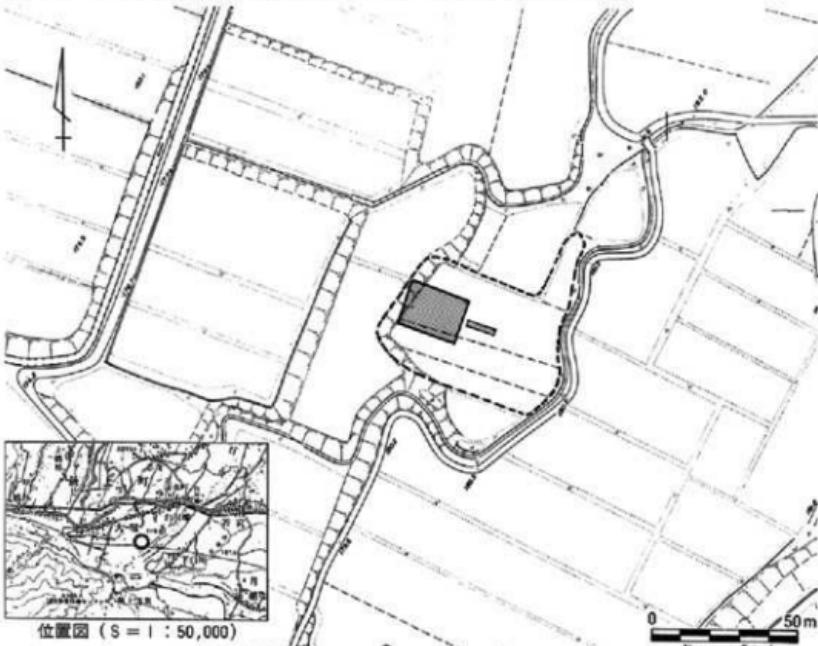
調査期日 C調査 昭和60年7月15日～8月6日（昭和59年度B調査実施）

調査の概要 本遺跡は国鉄陸羽東線の南南西750mに位置する。白川右岸の段丘上に立地し、標高は約180mを測る。地目は水田である。今回の調査は、昭和60年度に実施される県営は場整備事業（最上町西部地区）に伴い実施したものである。調査は昨年度のB調査をもとに、以前おこなわれた土地改良事業で破壊されず比較的良好に残っている遺跡の西侧部分315mを中心におこなった。

発見された遺構 竪穴住居跡4、溝状遺構2、土壙6、ピット11を検出した。竪穴住居跡は、いずれも調査区北西部のIV層で確認した。各住居跡とも平面プランは長径3.7～4.7mの楕円形を呈する。ST4とST5は一部重複し、ST5住居跡が新しい。

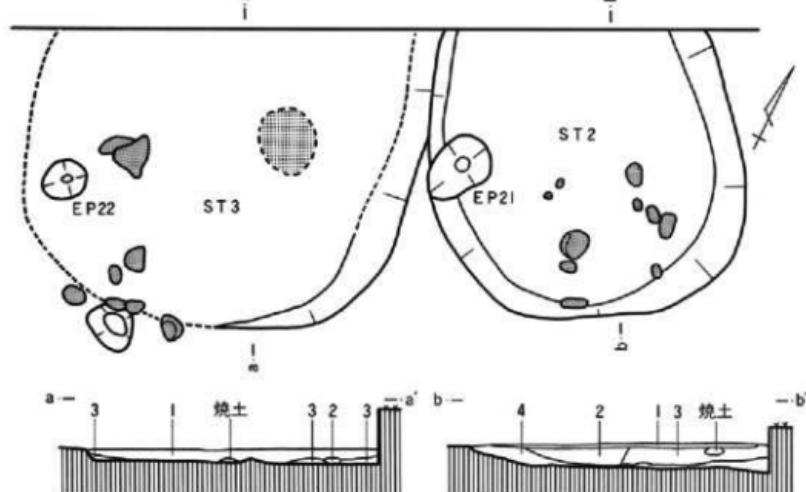
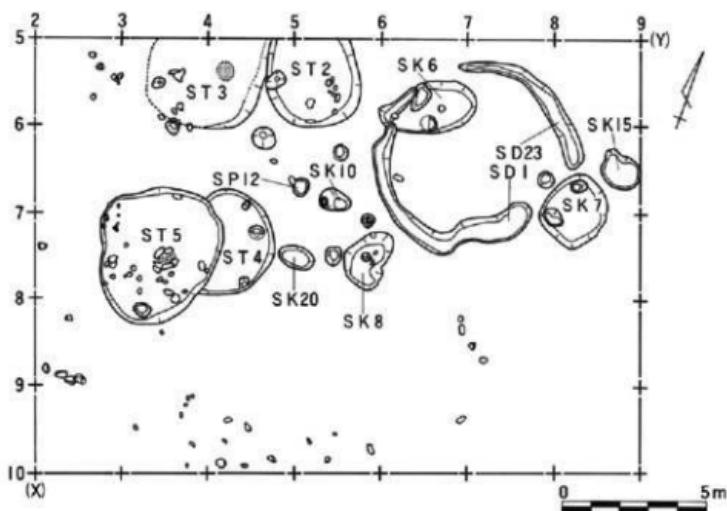
ST3・5では焼土が検出され、地床炉と考えられる。SD1・23は住居跡周溝の可能性もある。

出土した遺物 整理箱に9箱出土した。土器は縄文時代後期中葉（宮戸2a・加曾利B1式）に属するもので、住居跡の時期もこれに比定される。石器は、石匙、磨石、石皿等が出土した。遺物等は段丘縁辺部および斜面において多く出土した。



第39図 宮の下遺跡概要図

第40図 宮の下遺跡構配図

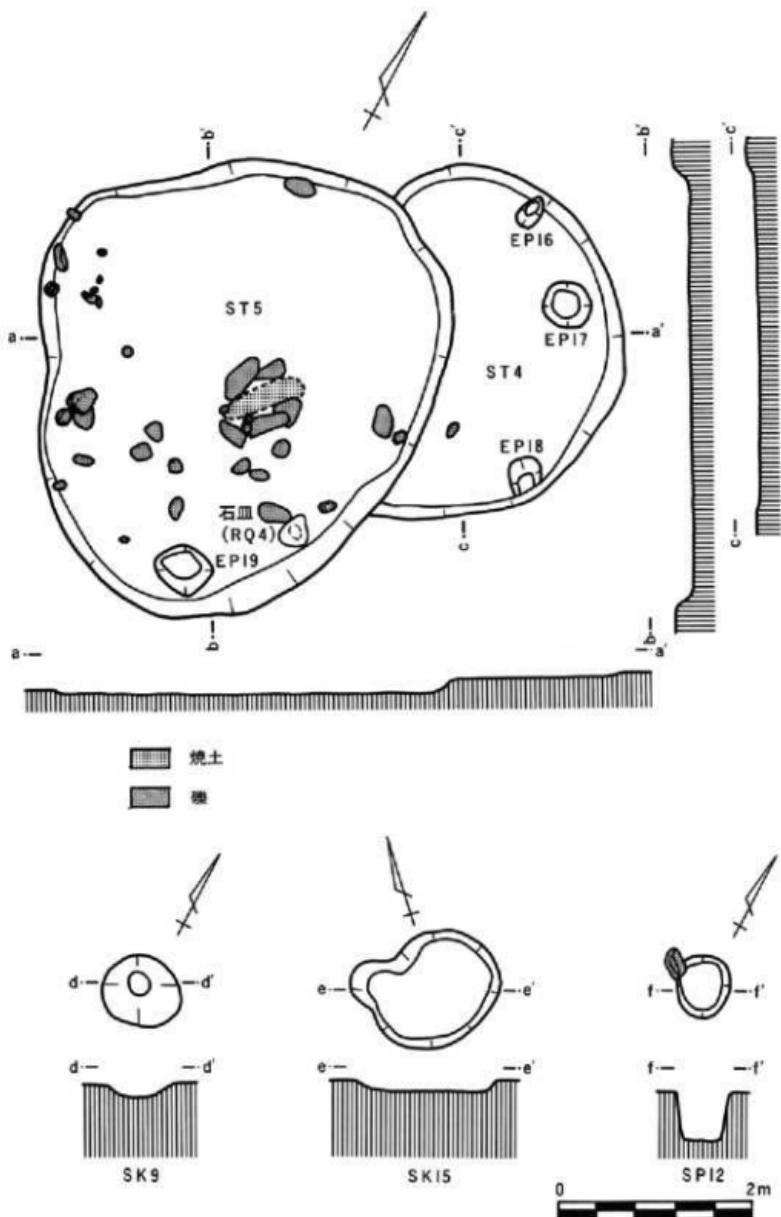


- 1 黒色シルト（炭化物を多量に含む）
- 2 黒色シルト（黄色土の小ブロックを含む）
- 3 黄色粘土質シルト

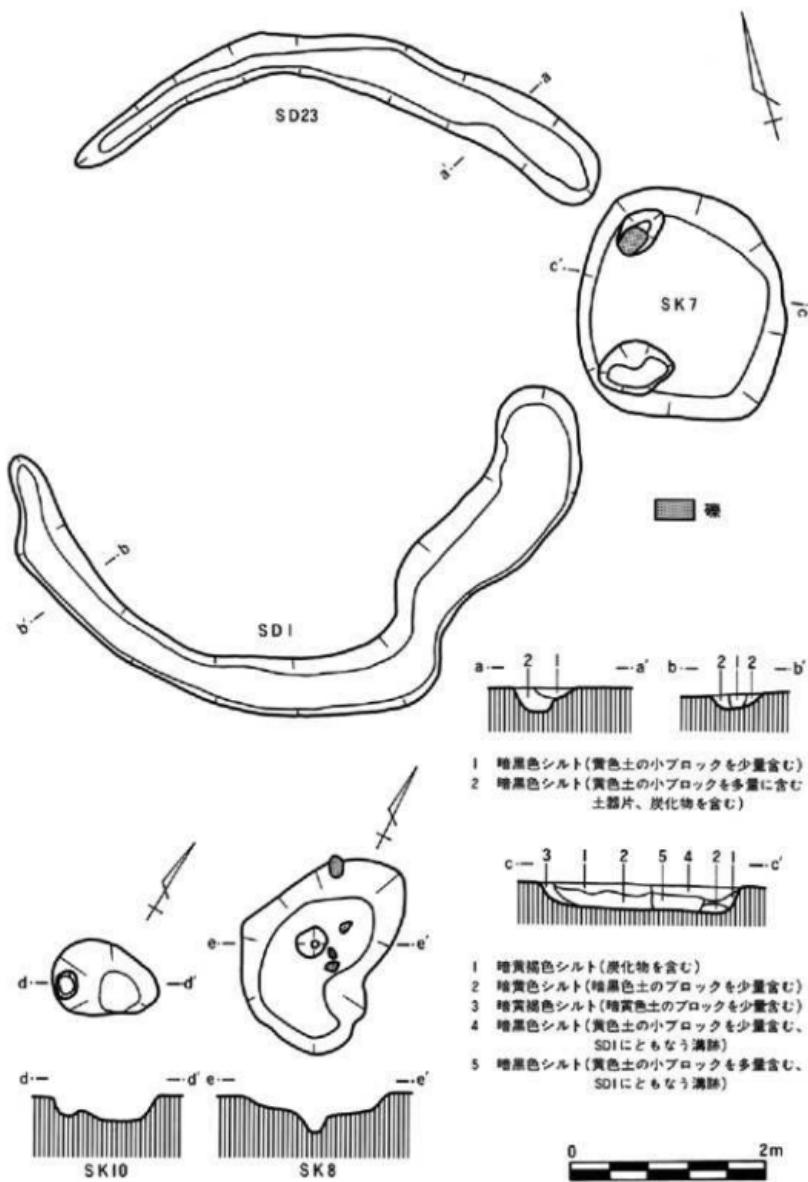
- 1 黒色シルト
- 2 茶褐色シルト（土器片、炭化物粒を含む）
- 3 茶褐色シルト（茶褐色土粒を含む、炭化物を含む）
- 4 茶褐色シルト（炭化物を含む）



第41図 宮の下ST2・3竪穴住居跡



第42図 宮の下遺跡 S T 4・5 竪穴住居跡、SK9・15土壤他



第43図 宮の下遺跡



遺跡遠景（北西から）



遺跡近景（北東から）



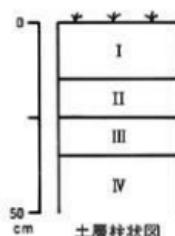
SDI-23



ST3-5



SK7



ST2

図版33 宮の下遺跡（Ⅰ）



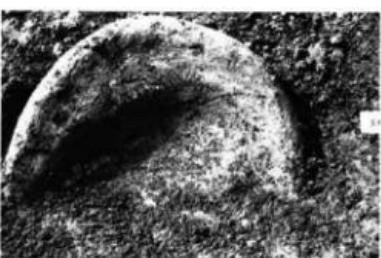
土器出土状況（6—7グリッドIII層）



土器出土状況（6—4グリッドIII層）



土器出土状況（8—3グリッドIII層）



石器（石皿）出土状況（ST 5）



土器出土状況（ST 5）



土器出土状況（ST 2）

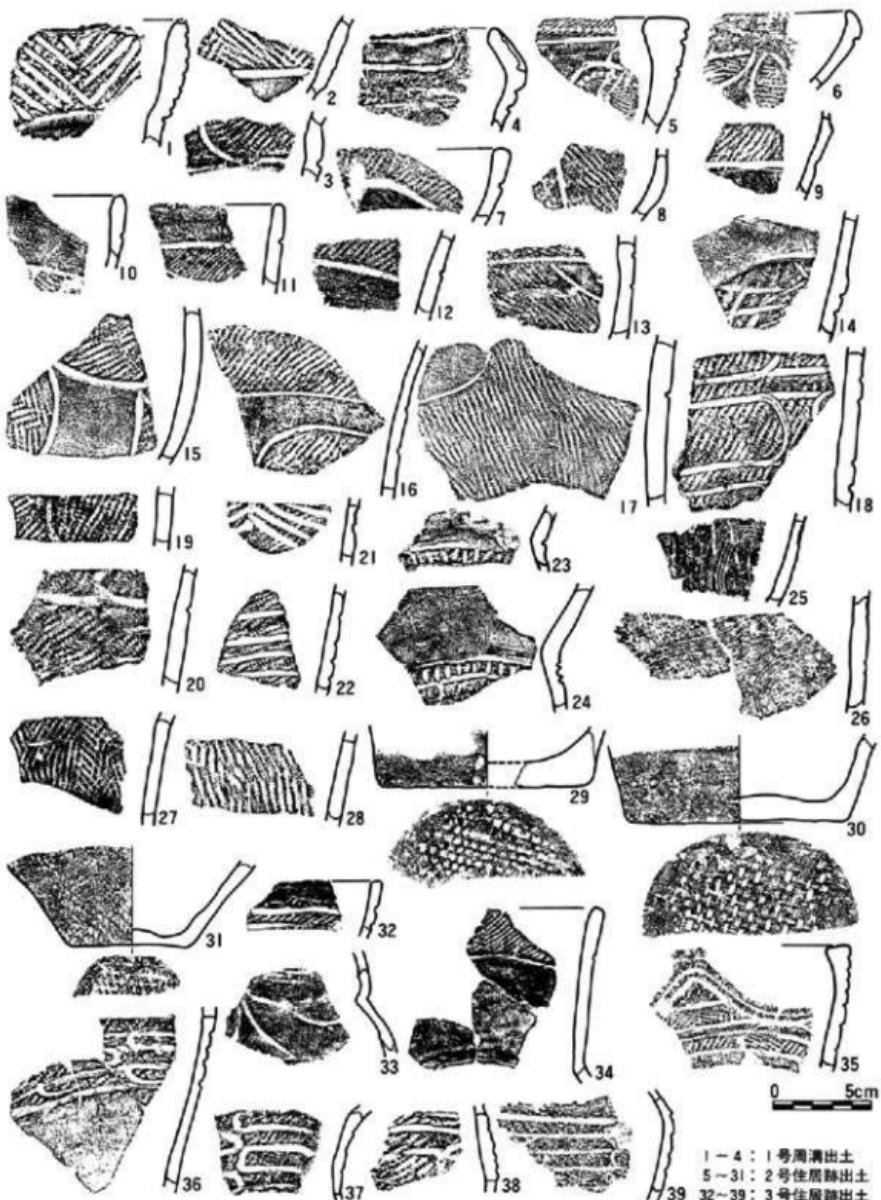


土器・石器出土状況（ST 2）



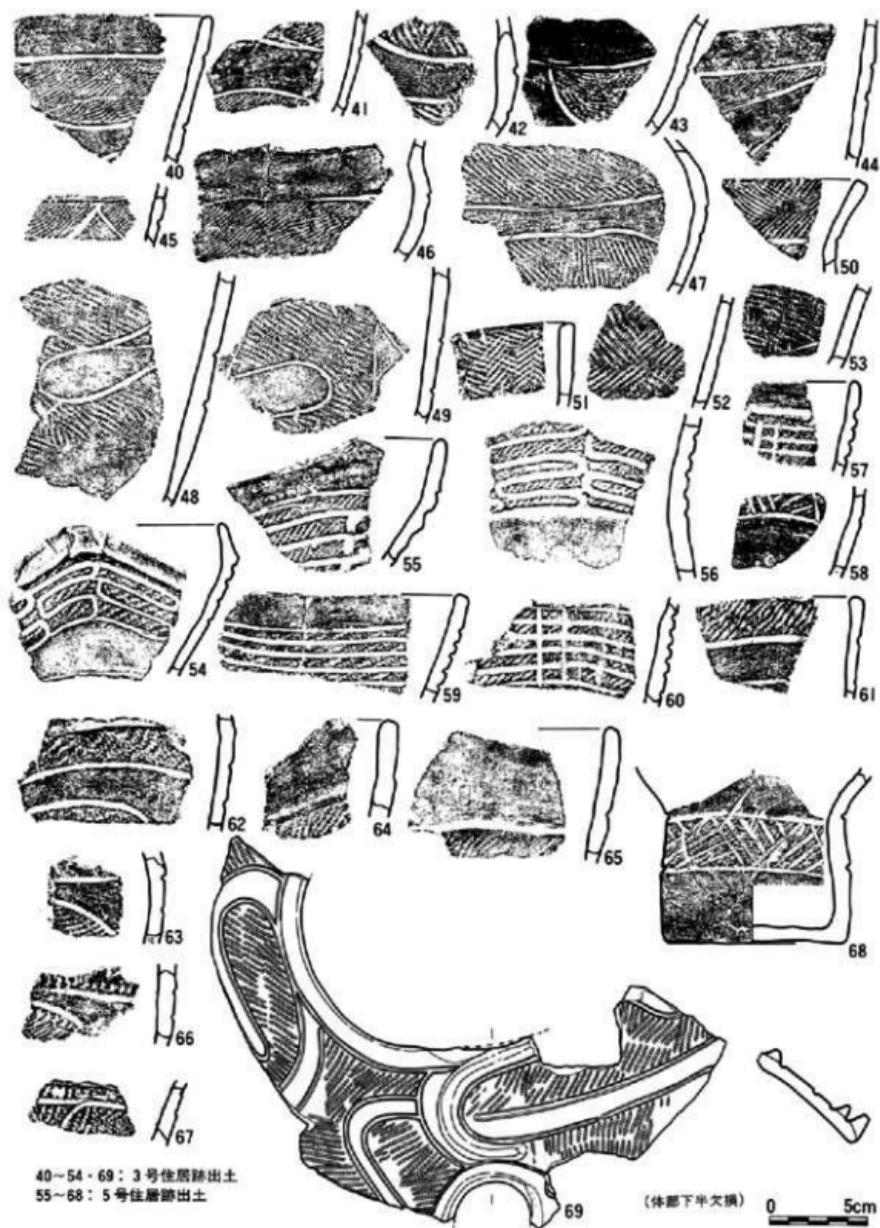
土器出土状況（ST 2）

図版34 宮の下遺跡（2）



第44図 宮の下遺跡出土土器拓影図（Ⅰ）

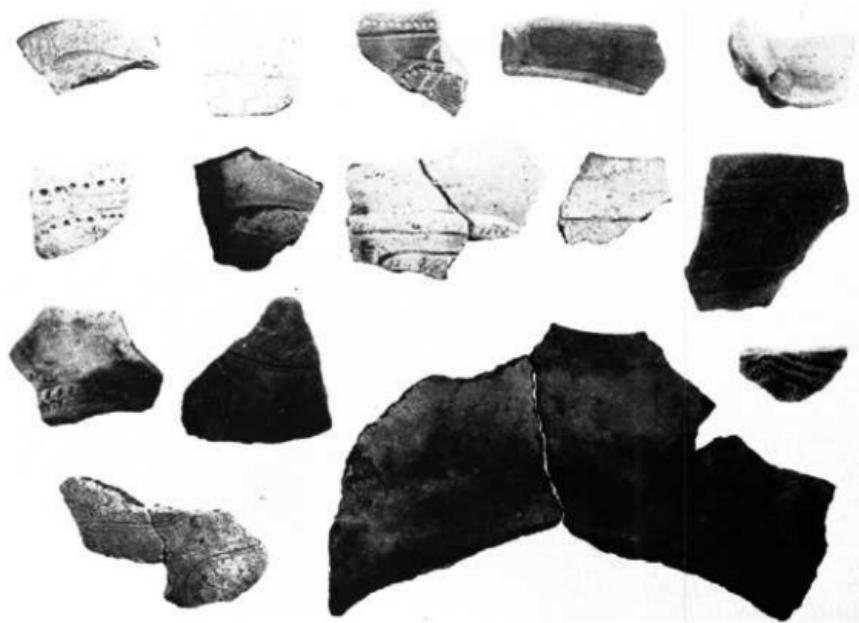
1-4: 1号周溝出土  
5-31: 2号住居跡出土  
32-39: 3号住居跡出土



40~54・69: 3号住居跡出土  
55~68: 5号住居跡出土

(体部下半欠損) 0 5cm

第45図 宮の下遺跡出土土器拓影図・実測図(2)

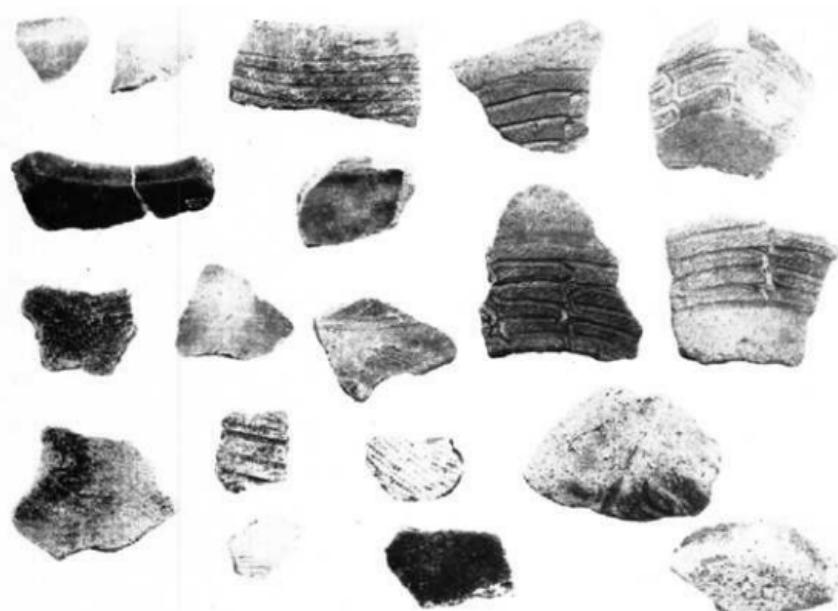


S T 2 住居跡出土遺物

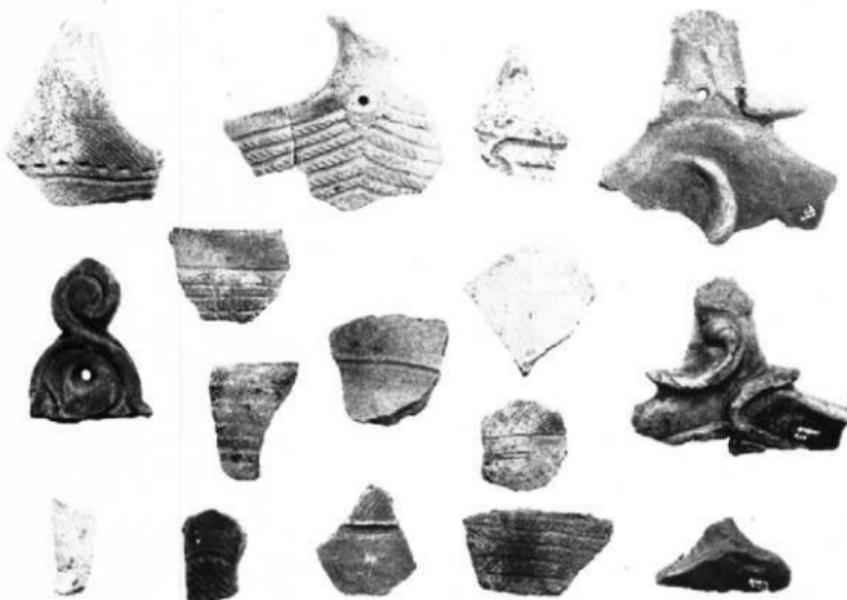


図版35 宮の下遺跡出土土器 (1)

S T 3 住居跡出土遺物



S T 5 住居跡出土遺物



図版36 宮の下遺跡出土土器 (2)

遺構外出土遺物

(2) 農村基盤総合整備パイロット事業関係遺跡

a 上曾根遺跡（遺跡番号2021）

所在地 山形県酒田市大字上曾根字上中割45他

調査員 野尻 優

調査期日 A調査 昭和60年10月1日 B調査 昭和60年10月7・8日

遺跡の概要 本遺跡は酒田市街地より北東方約5.5kmに位置し、同地域の南方1.3kmには新井田川が西流する。遺跡は庄内平野の沖積地上に立地し、標高7m、地目は水田である。

この地域に昭和61年度農村基盤総合整備パイロット事業（庄内地区）が計画され、本遺跡を含む地域が対象となった。このことにより、同60年度に所管課である県農林部農地建設課より事業範囲内の埋蔵文化財分布調査依頼が出され、それを受け同年10月に県教育委員会が遺跡詳細分布調査を実施することになったものである。試掘調査では明確な遺跡範囲を得るために、事業区域内に1m四方の試掘坑を60箇所設け実施した。その結果遺跡の広がりは東西280m、南北160mの約35,000m<sup>2</sup>の範囲と考えられる。試掘したTP16からは地表下20~35cmの青黒粘質土層中より硯の未製品、TP45からヘラ切り須恵器坏と共に土壌を検出した。出土遺物は第II層上面より中世陶磁器片、下層より須恵器、赤焼土器が発見されている。以上により本遺跡は、平安時代から中世にかけての集落跡と考えられる。



第46図 上曾根遺跡概要図



遺跡近景（東から）



遺跡近景（北から）



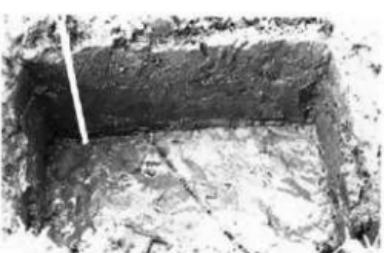
土層断面



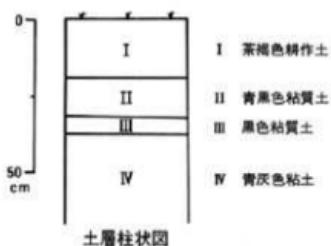
土層断面



遺構検出状況



遺構検出状況



出土遺物

### (3) 広域営農団地農道整備事業関係遺跡

#### a 塩野遺跡（新規）

所在地 山形県最上郡真室川町大字平岡字塩野1796他

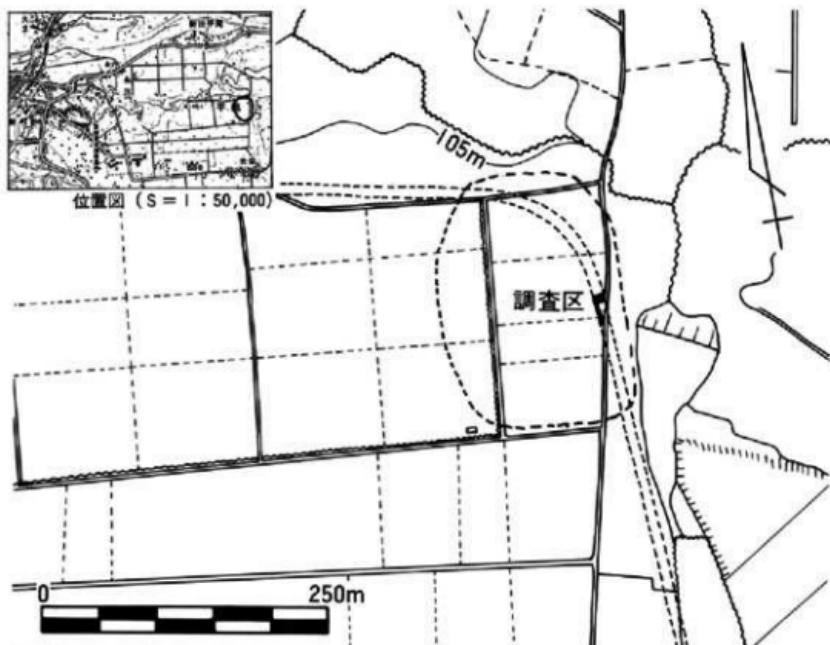
調査員 渋谷孝雄

調査期日 C調査 昭和60年6月3日～9日

調査の概要 遺跡は国鉄奥羽本線真室川駅の東方2kmに位置し、金山川左岸の河岸段丘上に立地する。沢を挟んだ東方に片杉野遺跡がある。標高は調査区で109m前後である。

本遺跡は山形県教育委員会が昭和59年度に実施した広域営農団地農道整備事業・最上地区（第3・5工区）の遺跡詳細分布調査Aによって新たに発見されたもので、遺跡内を路線が縦断する予定となっていたため、昭和59年11月に予定路線内に幅2m、長さ6～20mのトレンチを6本設定して試掘調査を行った。その結果、遺跡の中央東寄りの地区で遺物包含層を検出することができた（山形県教委1985）。この資料をもとに、事業主体の山形県農林水産部新庄土地改良事務所と協議した結果、路線にかかわる遺物集中域の範囲が狭いこと、密集度もさほど高いとは考えられないこと、などから、昭和60年度に遺跡詳細分布調査Cを実施することとなった。

調査は6月3日から9日まで延べ6日間実施した。4mグリッドを組んで、表土は重機で剥ぎとり、II層は手掘りで調査を進め調査面積は最終的に210m<sup>2</sup>となった。



第47図 塩野遺跡概要図

遺跡の基本的な層序は下記に示すとおりである。

第I層：暗褐色シルト（現在の耕作土で開田時に重機で動かされている。）

第II層：黒褐色シルト（縄文時代の遺物を含む層で一部重機による削平を受けている。）

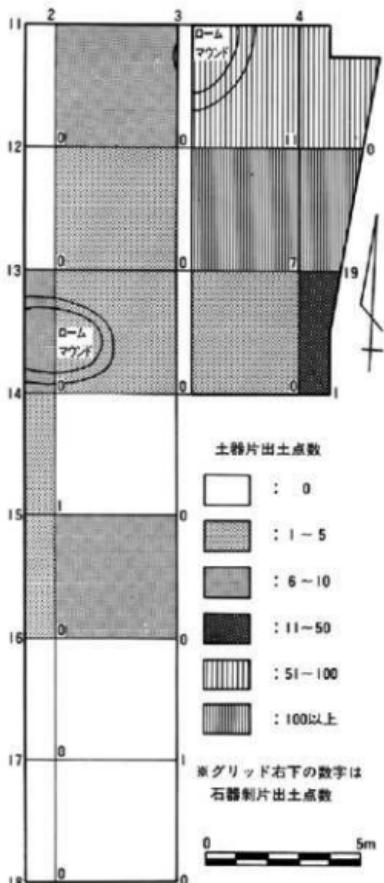
第III層：黄褐色粘土（無遺物でかたい。）

第III層の上面で面精査を実施した結果、2・3-11区と1・2-13区の2ヶ所で風倒木によると見られるロームマウンドを検出したが、人為的な遺構を検出することはできなかった。

遺物は第II層から出土した。整理箱にして3箱分であり、その分布状況は右図に示したとおりである。

土器は復元、実測可能なものはなく、すべて破片資料である。破片資料は第49図に示したように、無文地に隆起線と沈線で渦巻状や直線状の文様を描くもの、縄文地に直線または曲線状の文様を展開するもので、多くは波状口縁をなす深鉢と考えられる。縄文時代後期初頭南境式の土器である。

石器は第50図に示した。打製石器では削器、磨製石器では石斧が出土しているが、いずれも折損している。このほか、小礫を輪切りにした素材の両端にV字状の刻み目を入れた石錐と、石材からみて磨製石斧の初期整形の段階の未成品と考えられる資料が出土している。



第48図 塩野遺跡調査区概要図



遺跡近景



調査状況



土器出土状況



基本層序



調査区全景

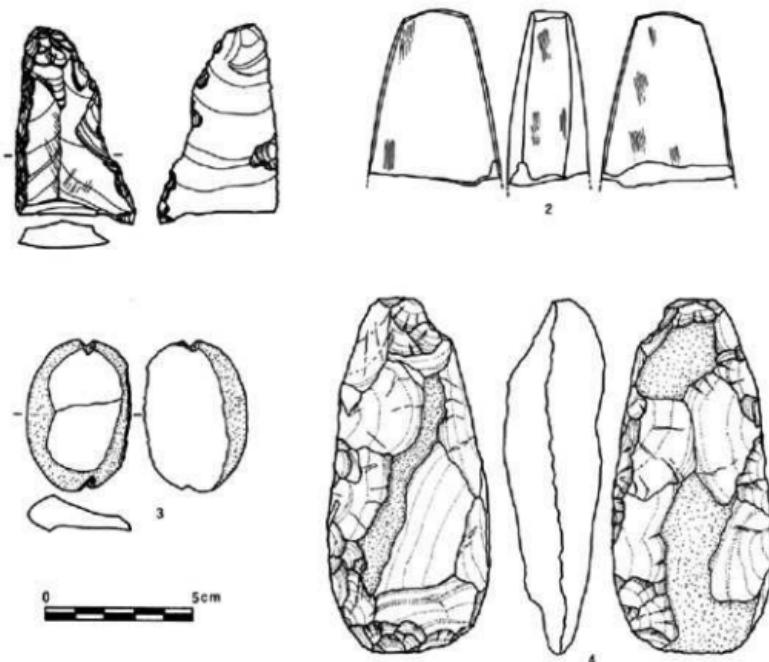
図版38 塩野遺跡



第49図 塩野遺跡出土土器拓影図



图版39 咸野遗迹出土土器



第50図 塩野遺跡出土石器実測図



図版40 塩野遺跡出土石器（番号は第50図と対応する）

(4) 県営灌漑排水事業関係遺跡

a 石田遺跡（遺跡番号82）

所 在 地 山形市谷柏字石田

調 査 員 野尻 侃

調査期日 立会い調査 昭和60年12月5日 C調査 昭和60年12月10~13日

調査の概要 本遺跡は山形市街地より南西方約4kmに位置し、本沢川右岸の沖積地に立地する。標高120~123m、地目は水田である。本遺跡の北西台地上には県指定史跡谷柏古墳群が存在し、周辺には奈良から平安時代の遺跡が数多く点在している。

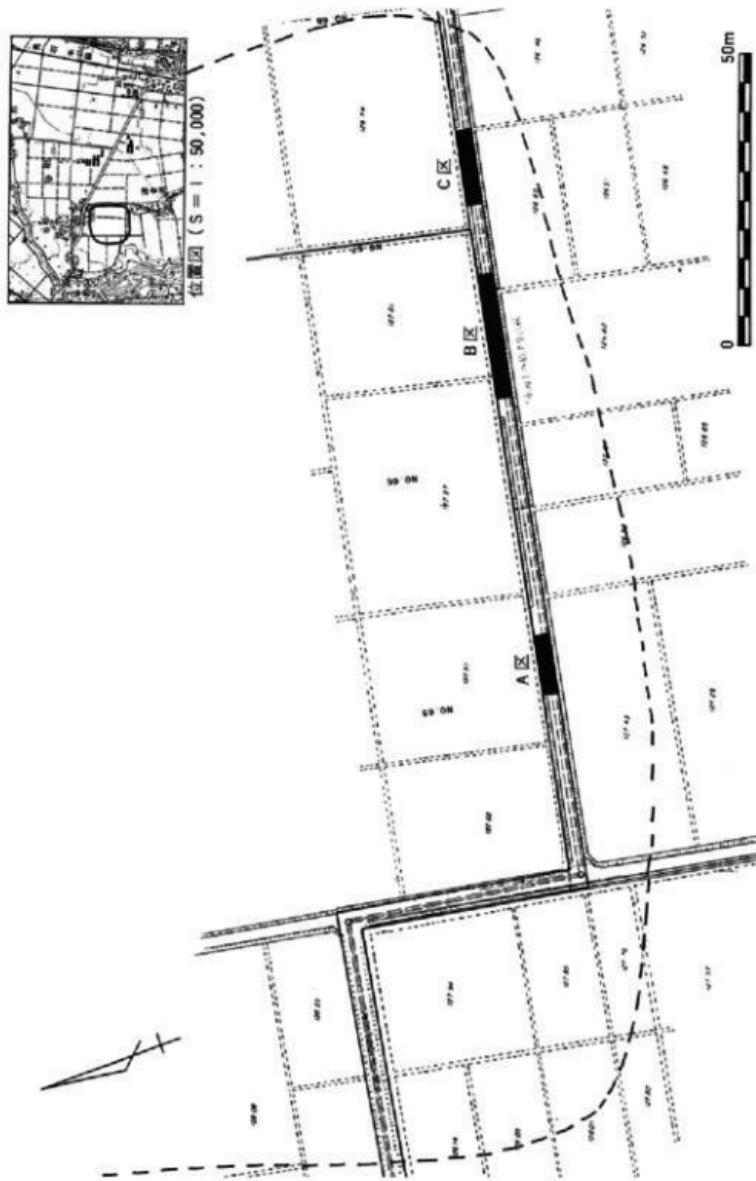
この地域に昭和60年度県営灌漑排水事業が施工され、本遺跡地内にも事業が進められることになった。そのため、山形県教育委員会では所管事業所の山形県農林水産部山形平野土地改良事務所と協議の上、立会い調査を実施することとした。

昭和60年12月5日に立会い調査を実施したところ、第53図（A区）の掘立柱列が事業区域内で検出された。このため同事業が更に本遺跡地内に進むことや、事業が幅2.5mの掘削であることから調査は事業に先行しながら分布調査Cとして実施したものである。調査期間は昭和60年12月10日~13日までの延4日間である。調査は事業区内に2本のトレーナ（B・C区）を設定し、表土を除去後面整理、精査、記録をおこなった。



図版41 石田遺跡（Ⅰ）

調査区近景

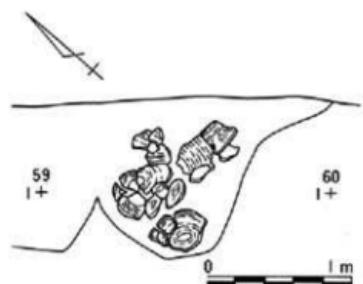


第51回 石田遺跡概要図

A区で検出された遺構は掘立柱列1列(SA2)が検出された。柱列はトレンチを斜に横切るように3個の柱列で、径約36~40cm、深さ12~19cmを測る。堀り込みはII層中位より第III層の青灰色粘砂土層を掘り込んでいる。柱アタリ部は柱穴の中央部や隅に認められ、EB4柱穴では柱根が直立して検出された。柱穴の埋土は黒褐色粘質土ブロックで踏み固められた土質を呈している。柱間距離は2.8m(9尺)等間である。建物跡と考えられるが、対になる柱列はトレンチ内で認めることができなかった。柱穴覆土内からは土師器甕の細片が出土し、時期は平安時代前半頃と考えられる。

C調査B区で検出された遺構は、竪穴住居跡1棟(ST1)、土壙、溝跡、ピット多数である。ST1はトレンチ東側に住居跡南西部分を検出し、確認された辺は約250cmで、50cm程トレンチ内に住居跡コーナーを出して検出した。コーナー部分は粘土と黒褐色粘質土が混り合った土質を呈し、内部からは第54図1・2・4~8の土器片が集中して出土した(第54図)。覆土等の状況からカマド跡と考えられるが上部構造が耕作により破壊を受ける。床面はやや平坦となり踏み固められた状況を呈する。壁面は床面から約7cm程でゆるやかに立ち上がる。またコーナー隅には径約30cm、深さ15cmのピットが存在し、柱穴と考えられる。推測となるが住居跡は南西隅にカマドを有し、各辺のコーナー部に柱穴をもつ辺4~5mのほぼ方形を呈する竪穴住居跡と考えられる。その他には幅40~50cm、深さ7cmの溝跡と方形や楕円形を呈した性格不明の遺構が認められたが、覆土(潤青灰色粘質土ブロック)の状態から後世の擾乱と考えられる。C区では幅250~280cmの溝跡が検出され覆土が青黒粘質土を呈していることから近世の溝跡と考えられる。

出土遺物は整理箱にして2箱である。土師器・須恵器・赤焼土器・柱根で測図出来たものを第54図に示した。1~3は須恵器で、蓋・环・高台付环がある。蓋はつまみの上部は凹みをもち、天井部には回転ヘラ切り痕がみられる。环は回転糸切り痕を残し法量の大きなものである。4~8は土師器である。4は内外面にハケ目痕を残した壺と考えられる。他は甕で底部に木葉痕を残すものもある。

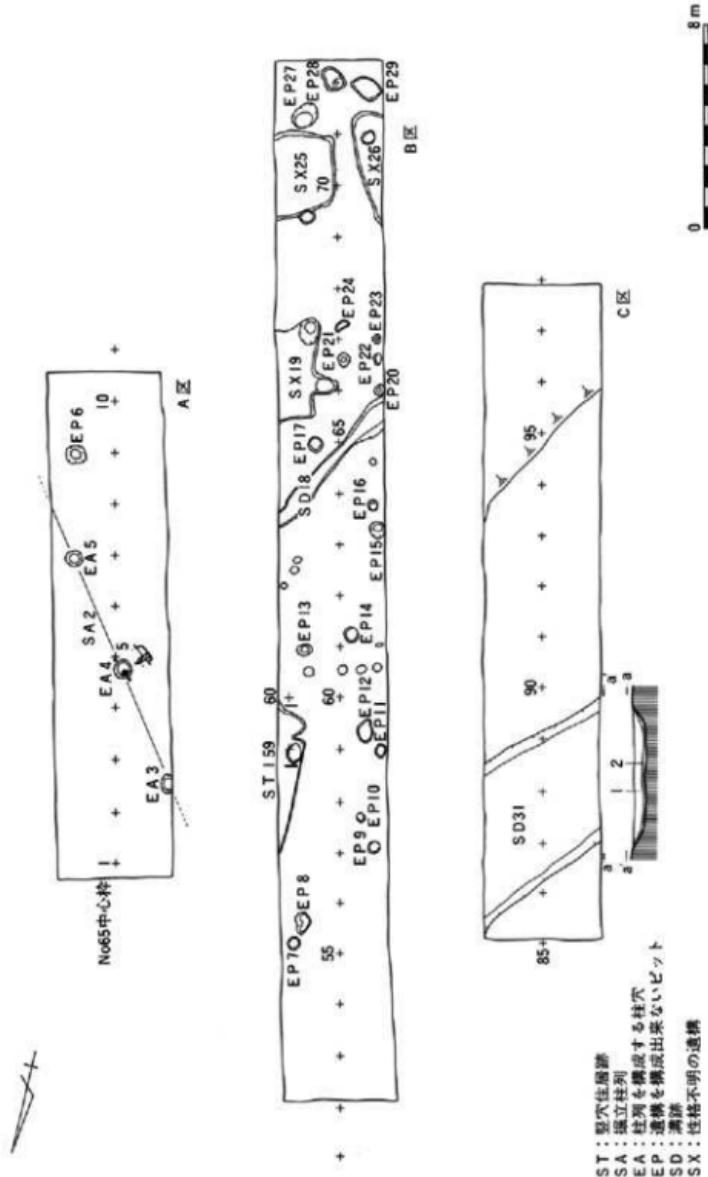


第54図 石田遺跡ST1住居跡土器出土状態



S T 1 住居跡検出状況

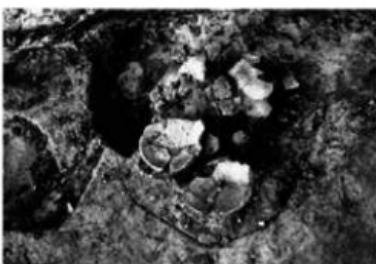
図版42 石田遺跡(2)



第53図 石田遺跡遺構配置図



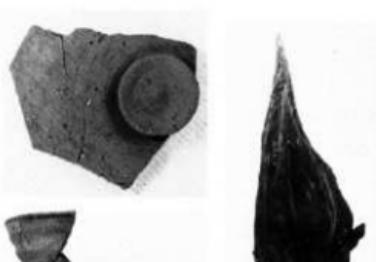
A区挖出柱根



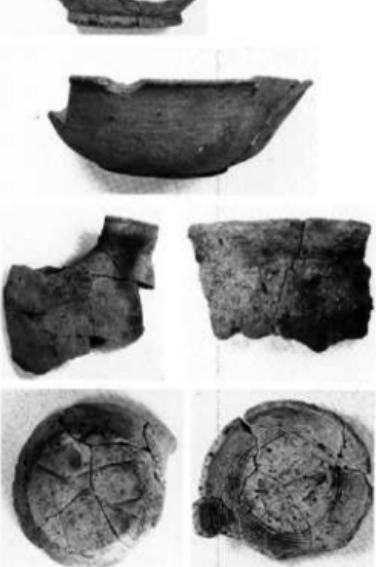
S T I 住居跡出土状態



C区全景

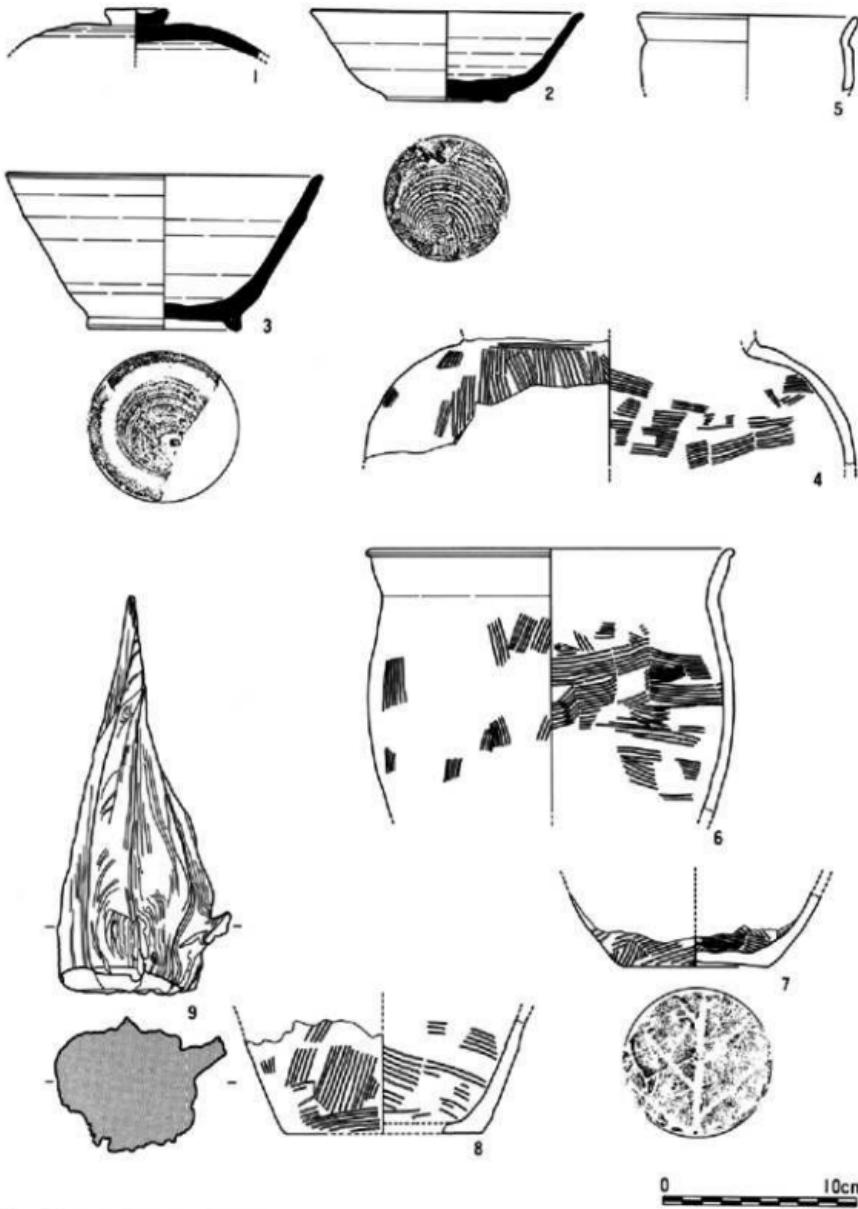


B区全景



出土遺物

图版43 石田遺跡（3）



第54図 石田遺跡出土遺物実測図

### (5) 公害防除特別土地改良事業（吉野川流域）関係遺跡

置賜盆地北部の白鷹山丘陵より吉野川が平地へ流れ出た一帯には小扇状地が形成されている。行政的には山形県南陽市にあたり、国鉄赤湯駅周辺には「郡山」の地名が残ることから、古代出羽国置賜郡の郡衛跡の存在が古くから想定されている地域である。

南陽市教育委員会では近年から、郡山郡衛推定地関連分布調査（表探）を、市史編さん事業の一環として行なっており、昭和59年度に上記事業にかかる緊急調査を実施した「沢田遺跡」をはじめ、多くの遺跡がこの付近で発見されている。

本書に掲載した6遺跡は、この分布調査で新規に発見されたもので、いずれも、上記土地改良事業との関連から、南陽市教育委員会の調査結果に基づき、山形県教育委員会が、A調査・B調査を実施したものである。

なお、諏訪前遺跡については、昭和60年度に山形県教育委員会が主体となり緊急発掘調査を実施しているので、概略のみ記載するに留めた。

#### a 諏訪前遺跡（新規）

所在地 山形県南陽市三間通字樋越

調査員 佐藤庄一 長橋至

調査期日 A調査 昭和60年5月10日 B調査 昭和60年5月22日～24日

調査の概要 遺跡名の根拠とした諏訪神社南側～東側の水田部分について22箇所の1×1mの坪堀区を設定し遺跡の範囲を調査した。その結果、諏訪神社南側で表土から20～30cmの深さで柱穴、土壙が検出され、遺物は、土師器片が一部で一括出土した。本遺跡については、昭和60年度土地改良事業のため、分布調査後、直ちに関係各機関と協議のうえ、上記のとおり、山形県教育委員会が主体となり緊急発掘調査を実施した。成果については、『山形県埋蔵文化財調査報告書第102集 諏訪前遺跡』に詳細に掲載している。



諏訪前遺跡近景（北から）



土層断面（TP 20）

図版44 諏訪前遺跡



図55 調訪前遺跡・唐越遺跡周辺調査概要図

b 唐越遺跡（新規）

所在地 山形県南陽市三間通字唐越

調査員 佐藤庄一 長橋至

調査期日 A調査 昭和60年5月10日 B調査 昭和60年5月22日～24日

調査の概要 本遺跡は、国鉄赤湯駅の北側約600mに位置し、標高は約224～226mを測る。

立地的には吉野川の扇状地扇央部から扇端にあたる微高地で、地目は、畑地、果樹、荒地、宅地及び公有地となっている。

事業対象地区内に設定した12地点の坪掘区のうち、7地点で遺物が出土した。特に南陽市農協低温倉庫西側部分で須恵器、赤焼き土器が $1 \times 1$ mの坪掘区から20～50片、同東側の国鉄長井線西側で縄文時代中期と考えられる土器深鉢体部～底部15個体出土し、同一遺跡ではあるが、地点により時期差が認められた。

なお、事業区域外への遺跡の広がりは、東側では国鉄長井線付近まで、南側～西側では国道113号線付近までと推測されるが、北側については、公有地に盛土工法による公共施設、南陽市役所があるため、その範囲の推定には困難な点がある。

本遺跡は、昭和60年度事業にかかるため、関係機関との協議のうえ、遺跡部分についてはすべて盛土工法で対処することとした。



第56図 唐越遺跡概要図



遺跡遠景（南東から）



遺跡東側近景（北西から）



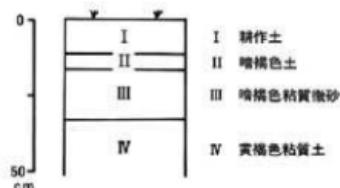
遺跡西側近景（南から）



土層断面（TP 76）



遺物出土状況（TP 70）



出土遺物（縄文土器）



出土遺物（須恵器・赤焼土器）

c 富貴田遺跡（新規）

所在地 山形県南陽市大字宮内字富貴田二・富貴田三・大壇一・大壇二・大壇三

調査員 野尻侃名和達朗

調査期日 A調査 昭和60年10月18日 B調査 昭和60年11月5・6日

遺跡の概要 遺跡は、国鉄長井線宮内駅西方約400mの水田にあり、国道113号線から富貴田地区を通る主要地方道山形・南陽線沿いの住宅地西側に広がる沖積平地に立地する。標高は、約234mを測る。遺跡は、昭和60年度に南陽市教育委員会が実施した分布調査において確認されたもので、新規である。

ここに昭和61年度県営公害防除特別土地改良事業（吉野川流域）が計画され、今回の遺



位置図 (S = 1 : 50,000)

第57図 富貴田遺跡概要図

跡詳細分布調査を実施することになったものである。

調査は、事業計画区域と遺跡の係わりを確認するために、まず表面踏査を行ない、同区域内に遺物の散布することを確認した。次に、遺跡の詳細な内容を調べるために試掘調査を行なった。全部で31ヶ所の坪掘りを入れたところ、TP 9・18・19・23・25・30から遺物の出土がみとめられた。深さは、30~40cm前後である。範囲は、両分布調査の結果から東西約300m・南北約600mの約9,200m<sup>2</sup>の面積が考えられる。但し、今回の調査は、事業計画区域及びその周辺に限定しており、長井線の北側と上無川の西側は未調査である。

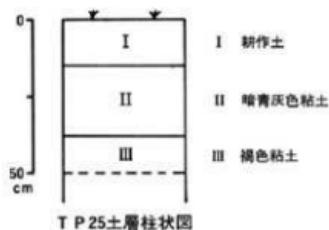
出土遺物は、縄文土器・フレイク・土師器・須恵器・木片などで、時期は、縄文時代・奈良~平安時代であるが、相対的に土師器が多く奈良~平安時代を主体とする。



遺跡近景（北西から）



土層断面（TP 18）



土層断面（TP 25）



出土土器（1）



出土土器（2）

図版46 富貴田遺跡

d 太子堂遺跡（新規）

所在地 山形県南陽市大字門塚字太子堂・太子堂二

調査員 野尻侃名和達朗

調査期日 A調査 昭和60年10月18日 B調査 昭和60年11月5日

遺跡の概要 遺跡は、国道13号線羽黒橋の南西側約200mにあり、吉野川右岸の沖積地に立地する。標高は、約214mを測る。地目は、水田であるが遺跡周辺は宅地化が進んできている。遺跡は、昭和60年に南陽市教育委員会が実施した分布調査において確認されたもので、新規である。

ここに、昭和61年度県営公害防除特別土地改良事業（吉野川流域）が計画され、遺跡との関わりを把握するため、遺跡詳細分布調査を行なうことになったものである。

調査は、事業計画区域及び周辺の表面踏査後、同計画地内の試掘調査に入り水田数枚単位に坪掘りを行なった。全部で8ヶ所調査した結果、TP1・2から遺物の出土がみとめられ、TP1土層断面からは、落ち込みの一部が確認された。範囲は、東西約60m・南北約50m・面積約3,000m<sup>2</sup>と推定される。深さは、20~35cm前後である。

出土遺物は、土師器・須恵器で、時期は平安時代である。



第58図 太子堂遺跡概要図



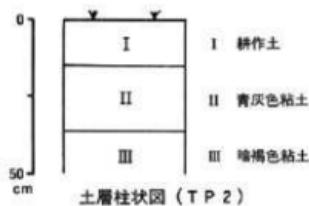
遺跡近景（南から）



土層断面（TP 1）



土層断面（TP 2）



図版47 太子堂遺跡

出土土器

e 観音堂遺跡（新規）

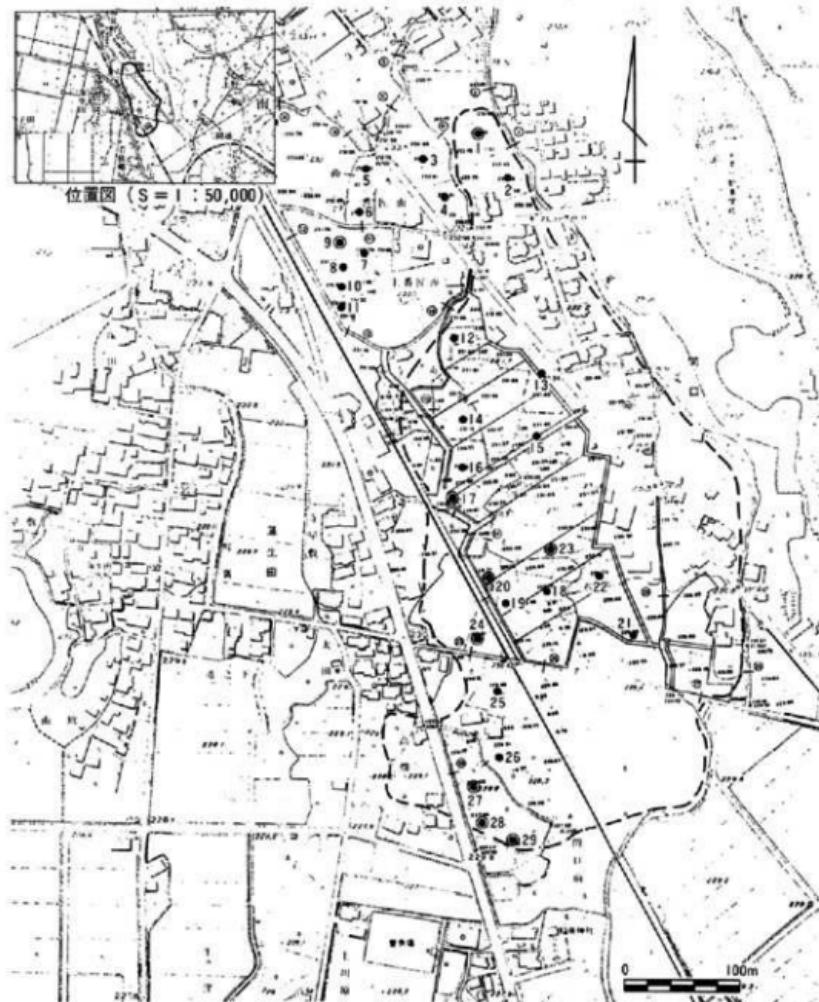
所 在 地 山形県南陽市大字蒲生田字観音堂・番匠面・上番匠面

字寺ノ浦・閑口前・高畠

大字宮内字閑口六・閑口七・閑口八

調 査 員 野尻 侃 名和達朗

調 査 期 日 A調査 昭和60年10月18日 B調査 昭和60年11月6・7日



第59図 観音堂遺跡概要図

**遺跡の概要** 遺跡は、蒲生田地区東側の吉野川右岸に形成された自然堤防上に立地する。標高は、約228mを測り、地目は、水田・畑地である。国鉄長井線と県道赤湯・宮内線の東西に遺物の散布が認められ、東西約150m・南北約700m、面積約6,350m<sup>2</sup>の範囲が推定される。遺跡の確認は、南陽市教育委員会の分布調査によるもので、新規である。

ここに、昭和60年度県営公害防除特別土地改良事業（吉野川流域）が計画され、遺跡詳細分布調査を行なうことになったものである。

調査は、表面踏査後、試掘調査に入り、29ヶ所の坪掘りのうちTP 1・9・17・20・23・24・27～29から遺物が少量確認された。深さは、30～40cm前後である。

出土遺物は、縄文土器・土師器・須恵器で、時期は、縄文時代・平安時代である。



遺跡近景（TP 1・南から）



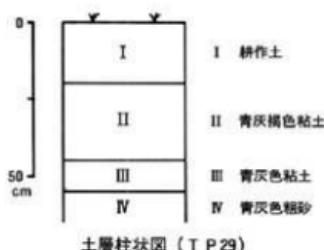
遺跡近景（TP 20・南から）



調査状況



TP 29土層断面



出土土器

f 東六角遺跡（新規）

所在地 山形県南陽市大字三間通字東六角・六角西・西蘇田

大字郡山字北的・一早・的場・舟橋

調査員 野尻 侃 名和達朗

調査期日 A調査 昭和60年10月18日 B調査 昭和60年11月7・8日

遺跡の概要 遺跡は、国鉄奥羽本線赤湯駅東方約500mの沖積地に立地する。標高は、約218mを測る。郡山東区南側の水田に遺物の散布がみとめられ、範囲は、東西約300m・南北約450m、面積約4,650m<sup>2</sup>を呈する。その確認は、南陽市教育委員会が実施した分布調査によるもので、新規の遺跡である。

ここに、昭和60年度県営公害防除特別土地改良事業（吉野川流域）が計画され、遺跡詳細分布調査を行なうことになったものである。

調査は、表面踏査後、試掘調査に入り、事業区域内について45ヶ所の坪掘りを行なった。その結果、TP 6・15・28・41から遺物の出土がみとめられた。深さは、20~30cm前後である。各TPとも出土数は、1~数点と少ない。

出土遺物は、縄文土器・土師器・須恵器で、時期は、縄文時代中期・平安時代である。



第60図 東六角遺跡概要図



遺跡近景（TP 1・南東から）



遺跡近景（TP 6・南西から）



遺跡近景（TP 28・北西から）



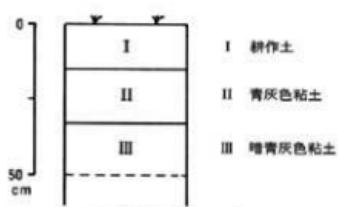
調査状況



遺跡遠景（西から）



TP 15土層断面



土層柱状図（TP 15）



出土土器

図版49 東六角遺跡

(6) 国道345号線道路改良事業関係遺跡

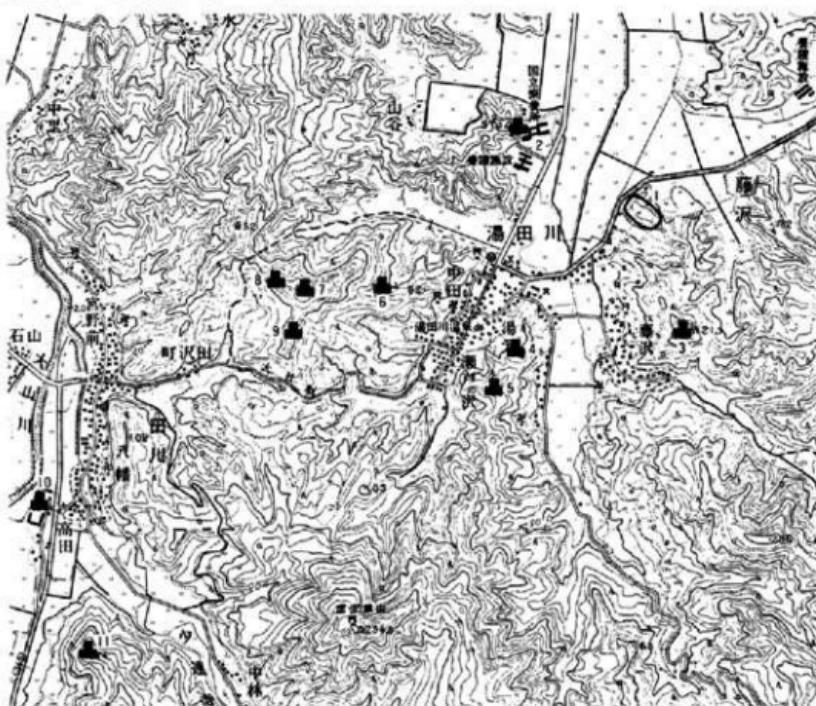
a 鍋倉B館跡(遺跡番号1571)

所 在 地 山形県鶴岡市大字藤沢字荒沢447~453

調 査 員 佐々木洋治 佐藤庄一 安部 実 太田 優

調 査 期 日 昭和60年6月18日~27日(延7日)

遺跡の概要 湯田川には館跡が密集している。この地域は、越後国と庄内を結ぶ街道の出入口にあたり、歴史的にみて交通上・軍事上の重要地であった。館跡は街道東側に4館、西側に5館の合計9館が確認されている。本館跡は街道東側の丘陵端部に立地し、標高は約40mを測る。現況は山林・畠地となっている。長軸がほぼ北西に向く隅丸長方形の形態を呈している。長軸は約140m、短軸は約60mある。頂上部は比較的平坦で、その周縁部



1. 鍋倉B館跡 4. 高野山館跡 7. 石塔山館跡 10. 田川館跡

2. 鉢巻山館跡 5. かき出館跡 8. 鎮台館跡 11. 田川城跡

3. 鍋倉A館跡 6. 深沢館跡 9. 大日塚館跡

第61図 鍋倉B館跡位置図

は高さ約4m、勾配約45度の崖状となっている。崖の下には空濠があり、幅約3m、深さ約70cmあり館城をめぐっている。南東から続く尾根とは、幾分くびれる部分で崖と空濠によって区画されている。

調査は、館跡一部の地形測量と、試掘調査を実施した。

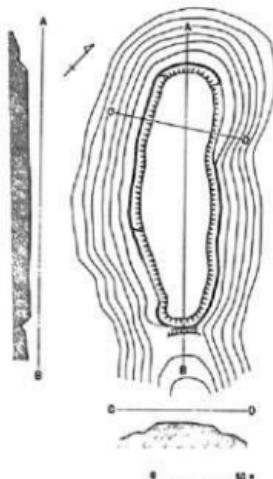
地形測量は、館跡の構造を部分的にではあるが詳細に知るために実測した。縮尺100分の1で実測し、任意の等高線を50cm間隔で記入していった。

トレンチは、Aトレンチ(1.5×12m)とBトレンチ(6m×5m)の2箇所を設定した。遺構は、土層堆積状況から空濠が検出された。空濠の規模は検出面において幅約2m、深さ30cmを測る。底面は平坦で、壁もゆるやかに掘り込まれている。又、Aトレンチの上端で、土壘状の断面を呈する土質変化が観察された。

遺物は出土しなかつた。

以上の調査成果を以下にまとめてみる。

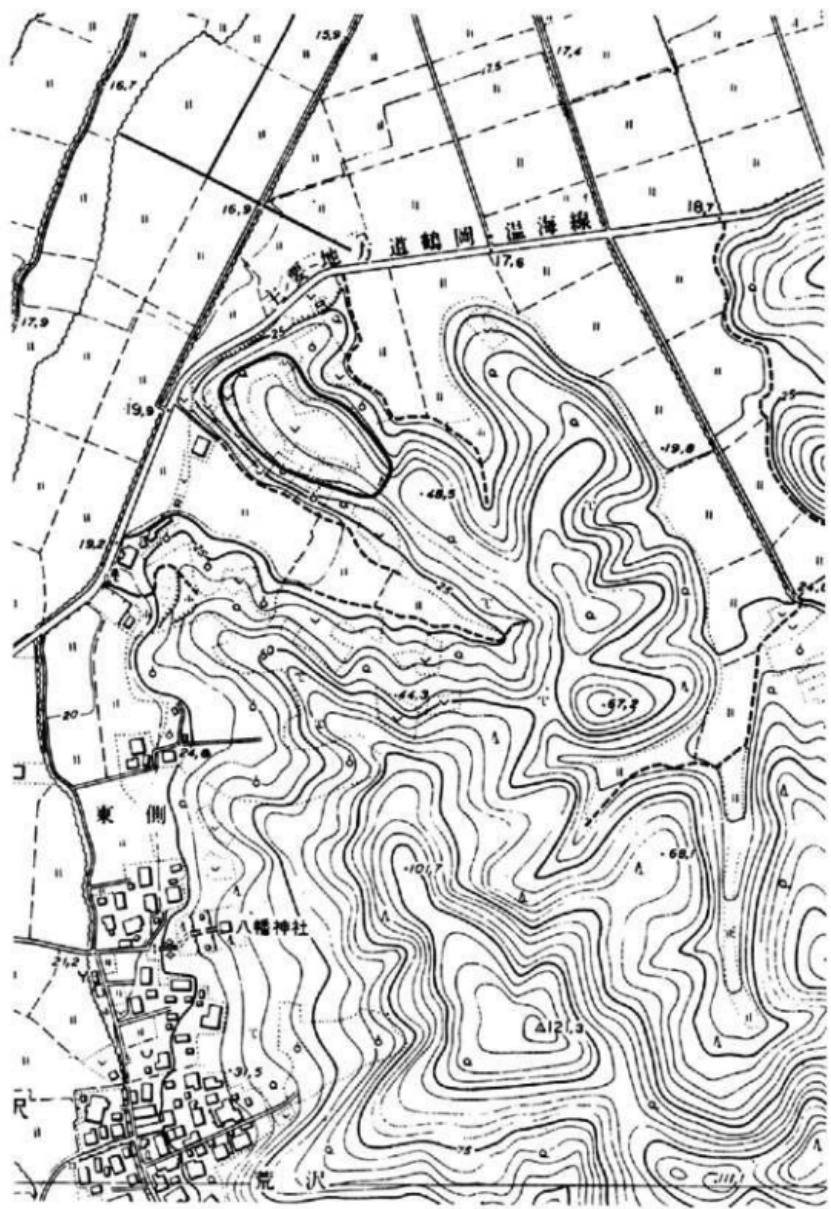
- 1 遺跡は自然丘陵端を切断し、構築されたもので、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸140m、短軸60mで、崖と土壘部との標高差は4mある。空濠は幅2~3m、深さ70cmほどある。土壘は上場で幅2~3mを呈し遺跡をめぐっているが、5箇所ほど切れている。
- 2 遺跡の時期・性格については、本調査において遺物の出土が無いため時期は不明である。しかし、遺跡が自然丘陵部に人工的な手が加わっている事、周辺にも本遺跡と同様な構造を持つと考えられる遺跡が8箇所ほどある事などから、中世における造営とみるのが妥当と考えられる。

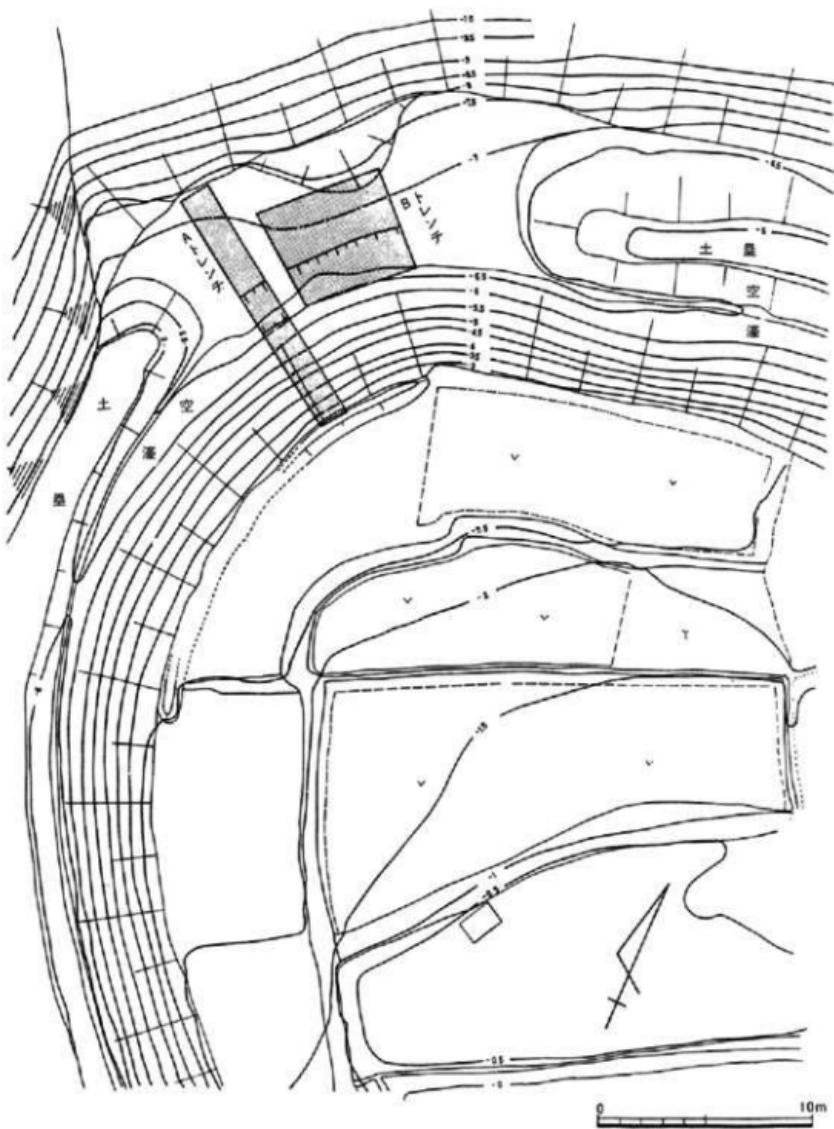


第62図  
山形県史資料 第11篇  
考古資料 昭和44年

#### (註)

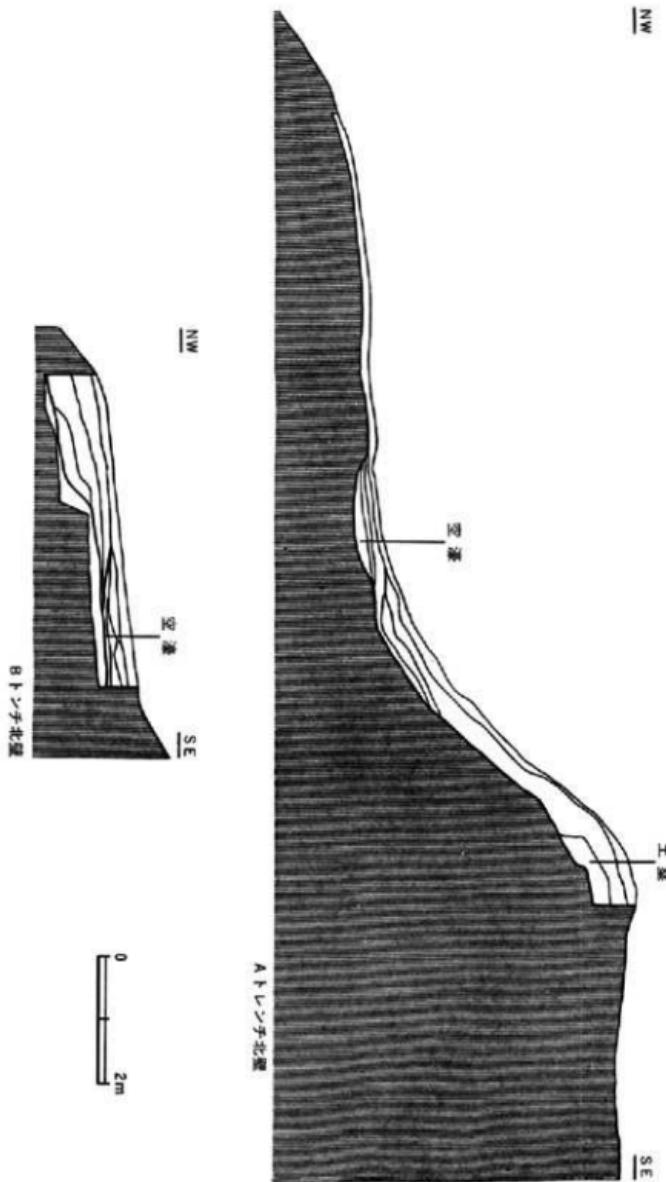
- 丸山 茂 「湯田川の砦址」『羽陽文化』1巻2号 山形県文化財保護協会 1949年  
山形県 「山形県史資料集」11篇 考古資料 山形県 1969年  
川崎利夫 「湯田川館群」『日本城郭大系』第3巻 新人物往来社 1981年





第64図 鍋倉 B 窯跡平面実測図

第65図 鍋倉B前跡土層断面図





図版50 鍋倉 B 館跡

### (7) 国道7号線吹浦バイパス関係遺跡

#### a 水之上遺跡(新規)

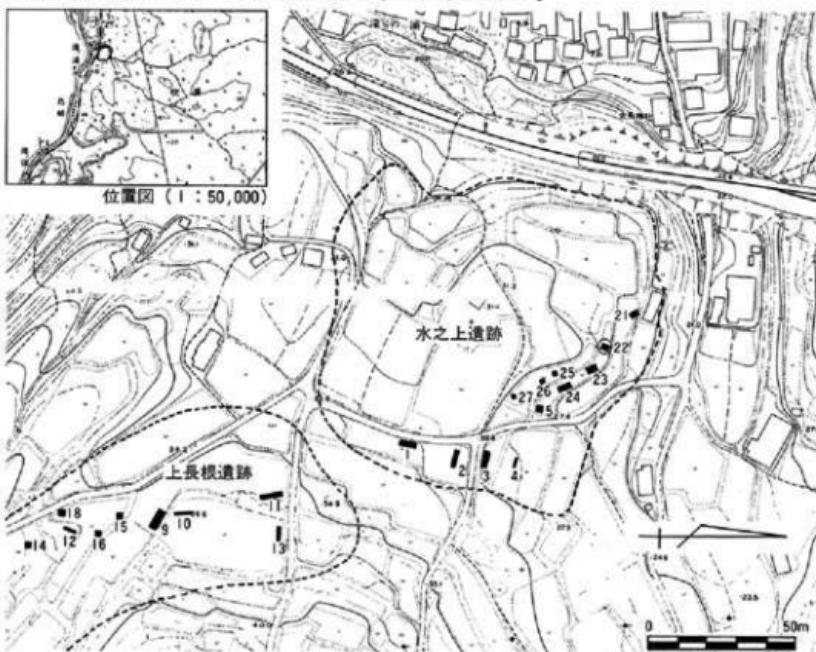
所在地 山形県飽海郡遊佐町大字吹浦字水之上

調査員 渋谷孝雄

調査期日 B調査 昭和60年5月17日

調査の概要 本遺跡は国鉄羽越本線吹浦駅の北方約3kmに位置し、海岸沿いにある滝ノ浦集落の東方の海岸段丘上に立地する。現在の海岸線から遺跡の中央部までの距離は約180mで標高は26~31mを測る。南側に隣接して上長根、北に隣接して弥陀ノ上の両遺跡があり、国道7号線吹浦バイパス建設に関連して、昭和59年度にこれら3遺跡に20本の試掘溝を入れて遺跡詳細分布調査を実施した。その結果、弥陀ノ上遺跡での遺構・遺物の発見はなく、本遺跡と上長根遺跡でも路線内に縄文時代の石器や平安時代の遺物は散布するものの、試掘溝では遺物包含層や遺構を検出することはできなかった(山形県教育委員会1985)。

今回の調査は、遺跡の中央部に近い箇所で59年度に調査できなかった部分に合わせて7ヶ所の試掘溝を設定して、この部分に遺物包含層や遺構があるのかどうかを確認するため実施した。その結果、TP22の表土からあかやき土器の細片が出土したに止まり、調査対象区内には遺構・遺物の密集地はないものと判断された。



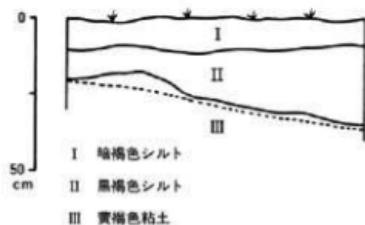
第66図 水之上遺跡概要図



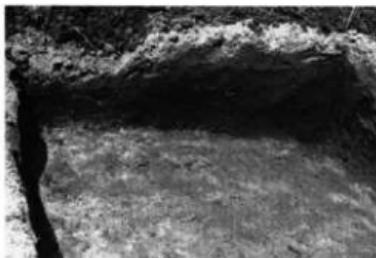
遺跡遠景（東から）



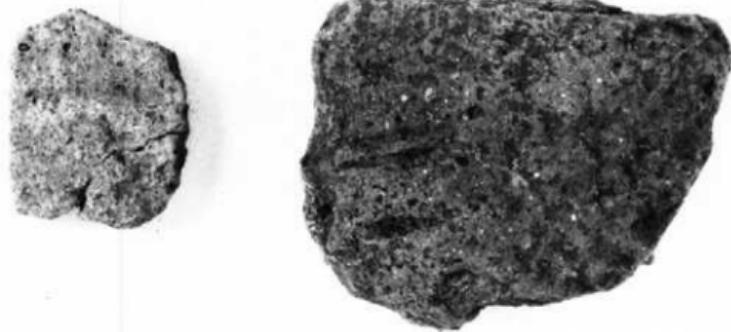
調査状況



土層柱状図 (TP 2)



土層断面 (TP 2)



出土遺物（あかやき土器）

図版51 水之上遺跡

b 戸ノ内遺跡（新規）

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字吹浦字戸ノ内田他

調査員 渋谷孝雄

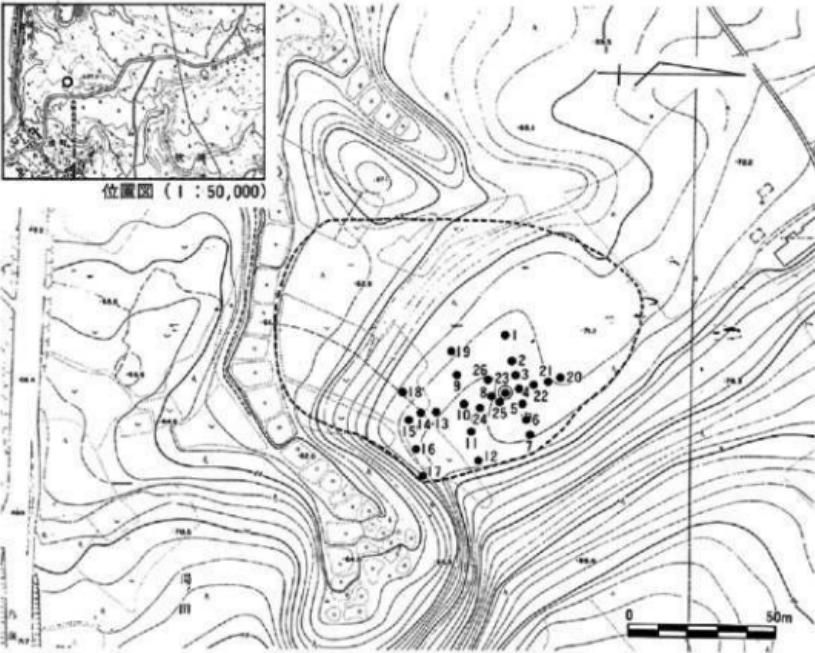
調査期日 B調査 昭和60年5月15・16日

調査の概要 本遺跡は国鉄羽越本線吹浦駅の北方約1.1kmに位置し、南側を小谷で限られた山麓の緩斜面に立地する。小谷は幅20~40mで、最近まで谷水田となっていた。この小谷から約2mの比高差をもつ、ほぼ平場といってよい畑地に土師器、須恵器、あかやき土器片などの平安時代の遺物が多量に散布している。この地点の標高は約63mを測る。

今回の遺跡詳細分布調査は、この遺物散布地から、さらに10m程高い山林となっていた平場に国道7号線吹浦バイパスが建設されることになったため、建設省の依頼により、この地区まで遺構・遺物の分布が延びているかどうかを判断するために実施した。

試掘調査は予定路線内の既買収地に1m四方の試掘溝（TP）を26ヶ所設定して掘り進めた。層序は第I層暗褐色シルト（20）~第III層黄褐色粘土（地山）となっており、TP28のI層から須恵器甕の口縁部破片が出土しただけであった。

従って、調査対象区内には遺構・遺物の密集域はないものと判断される。



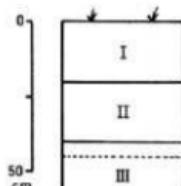
第67図 戸ノ内遺跡概要図



遺跡近景（南から）



遺跡近景（東から）



土層柱状図（TP 24）

I 増褐色シルト  
II 黒褐色粘土質シルト  
III 黄褐色粘土



土層断面（TP 24）



出土遺物（須恵器）

図版52 戸ノ内田遺跡

### (8) 国道13号線南陽バイパス関係遺跡

#### a 舟入遺跡(新規)

所在 地 山形県東置賜郡高畠町大字深沼字舟入1660他

調査員 佐藤正俊 武田昭子 太田優

調査期日 A調査 昭和60年12月2日～5日 B調査 昭和60年12月9日～13日

調査の概要 遺跡発見の動機は、昭和56年度にバイパス工事計画の概要が明らかになったため、埋蔵文化財の保護対策について建設省山形工事事務所と県教育委員会とで協議を行ない、バイパス建設工事等に伴う埋蔵文化財包蔵地の分布調査依頼を受けて、昭和57年度に分布調査を実施した結果、新規に発見されたことによる。(県教委1983)

遺跡は、米沢盆地東北端に位置し、沖積平野の標高212.44mに在り、吉野川と星代川に形成された自然堤防上に立地する。現在は荒地となっている。

調査は、事業区域内に対し $1 \times 5\text{ m}$ を単位とするA～Fの試掘区を設定し、約1mの深さまで掘り下げた。その結果、各試掘区とも砂層に覆われ、またボーリング探査でも2mの深さまで砂層となっており、遺物包含層は確認されなかった。遺構や遺物も検出されない。なお、2m以下の下部層については今回の調査で状況が把握できないため、今後再度の試掘調査が必要である。



第68図 舟入遺跡概要図



遺跡近景（西から）



遺跡近景（南西から）



A T・P状況



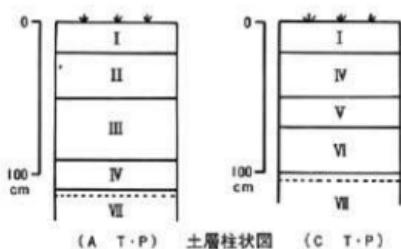
C T・P状況



F T・P状況



G T・P調査状況



- I 増褐色耕作土
- II 増褐色砂層
- III 赤黄褐色砂層
- IV 青灰色砂層
- V 青灰色粘質土
- VI 增褐色砂層
- VII 灰色砂層

(9) 東北横断自動車道仙台・寒河江線関係遺跡

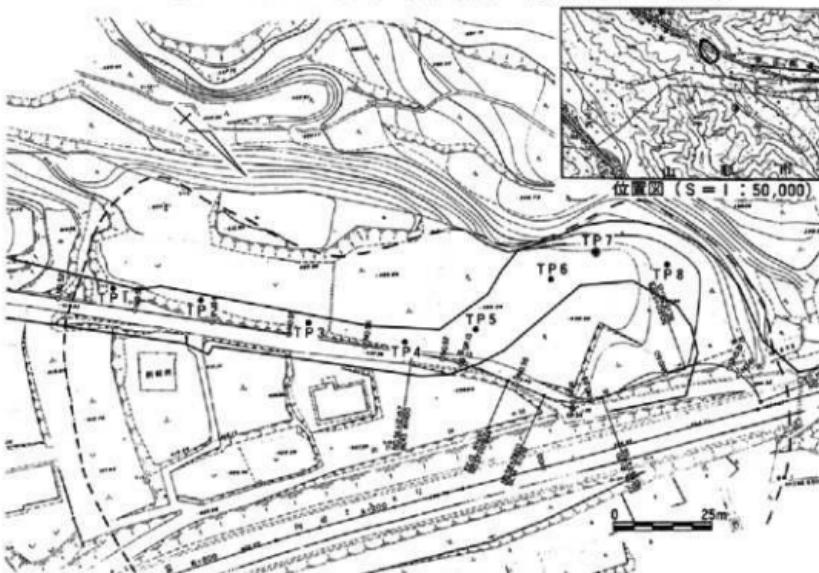
a 新山 A 遺跡 (新規)

所 在 地 山形市大字新山字一里塚489他

調 査 員 野尻 侃

調 査 期 日 B 調査 昭和60年11月15日

遺跡の概要 遺跡は山形市より宮城県に通じる笹谷街道（国道286号線）の右側丘陵地域に位置し、滑川右岸の丘陵地に立地する。標高は410mを測り、地目は畠地、荒地となり、遺跡範囲を笹谷街道により二分されている。昭和55年度に実施した東北横断自動車道酒田線鶴沢・山形間関連遺跡詳細分布調査によって、新たに発見された遺跡である。昭和60年度に東北横断自動車道に伴う関連工事が計画され、日本道路公團仙台建設局山形工事事務所から先の分布調査で確認された本遺跡についてその性格・内容等の調査依頼があり、これを受けた県教育委員会が昭和60年11月15日に分布調査Bを実施したものである。調査では工事予定路線内に8ヶ所の試掘を実施した。TP 1～4までの畠地内では天地返しによる擾乱が著しく遺物包含層も存在しなかった。TP 5～8にかけての荒地内ではカヤや杉苗があり、遺物包含層は、表土下25～30cmの黒色土層となり、予定路線の北半部に広がる。TP 7からは第II層より土師器片が出土。時期は奈良～平安時代と考えられる。



第69図 新山 A 遺跡概要図



遺跡遠景（北西から）



遺跡近景（北西から）



土層断面（TP 1）



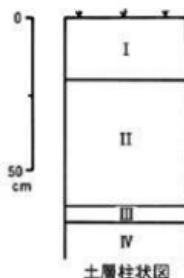
土層断面（TP 3）



土層断面（TP 5）



土層断面（TP 7）



I 茶褐色耕作土

II 黑褐色土（包含層）

III 明褐色土

IV 褐色砂砾層

土層柱状図



出土遺物

図版54 新山A遺跡

b 宇津野原遺跡（新規）

所 在 地 山形市大字新山字宇津野原582他

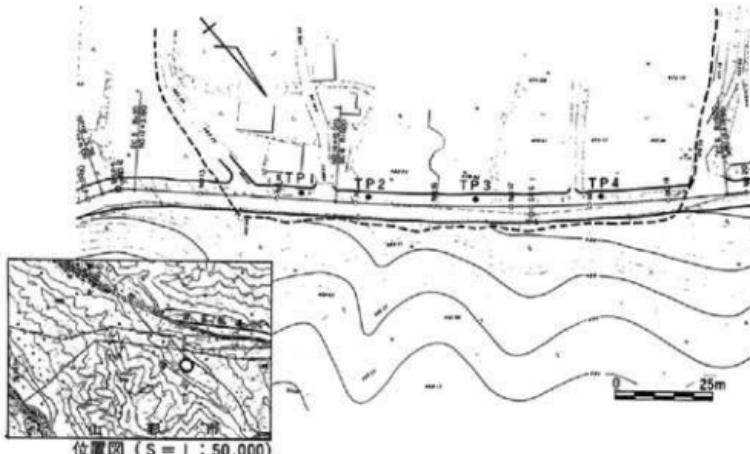
調 査 員 野尻 侃

調 査 期 日 B調査 昭和60年11月14日

遺跡の概要 遺跡は山形市より宮城県に通じる国道286号線（笹谷街道）の右側丘陵地西斜面から滑川右岸までの狭い段丘上に立地する。段丘上は杉等の苗圃として利用されており、標高は、475mを測る。昭和55年度に実施した東北横断自動車道酒田線の開設・山形間遺跡詳細分布調査によって新たに発見登録された遺跡である。

この地域に現道を拡幅する東北横断自動車道関連工事が計画され、先の分布調査で登録された本遺跡の範囲・性格・内容等の分布調査依頼が日本道路公团仙台建設局山形工事事務所から出された。これを受けた県教育委員会が昭和60年度遺跡詳細分布調査Bを実施したものである。

調査は予定路線に4ヶ所の試掘を実施した。各TPでは表土から地山層までの深さが97~136cmと深く、遺物包含層も認められない。遺跡東側が丘陵の急斜面となり、西方の滑川まで緩やかな斜面をもつ平坦地となっていることから、予定路線部分は埋没谷となっていると考えられる。予定路線の西側平坦地でのボーリング探査では20~50cmで黄褐色土の地山に達し、10~30cmの遺物包含層も存在する。表面踏査では縄文時代中期土器片や、石鏃等の石器類が採集されることから本遺跡の範囲は、平坦地西側にその中心部が存在し、更に西側の台地縁辺部に範囲が広がるものと考えられる。



位置図 (S = 1 : 50,000)

第70図 宇津野原遺跡概要図



遺跡遠景（北から）



遺跡近景（東から）



土層断面（TP 1）



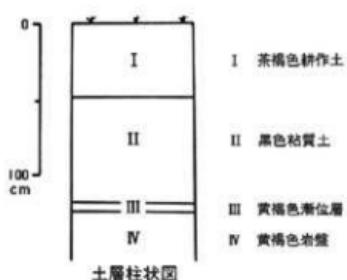
土層断面（TP 2）



土層断面（TP 3）



土層断面（TP 4）



出土遺物（石器・縄文土器）

図版55 宇津野原遺跡

### III まとめ

昭和60年度遺跡詳細分布調査は、昭和61年度以降実施予定の開発事業と、土木工事等による埋蔵文化財発掘通知にもとづく立会い調査、及び埋蔵文化財包蔵地基礎調査を実施したものである。

調査の結果、各種事業区域及びその周辺地域に91ヶ所の遺跡が確認された。そのうち18ヶ所が今年度新規発見の遺跡である。

主な事業別にまとめると、昭和61年度以降農林事業関係のうち県営は場整備事業については、南興野遺跡・桜林興野遺跡・生石2遺跡・生石4遺跡が事業予定地内に含まれる。また大橋遺跡と柳沢条里遺構は、昭和62年度以降の事業計画であるが、遺跡の重要性から事前に分布調査を実施したもので、今後開発部局との協議をする。農業基盤総合整備パイロット事業については、上曾根遺跡が昭和61年度の事業予定地内に含まれる。

開拓地整備事業（農道）及び広域営農団地農道整備事業については、大部分が遺跡にかからずに済んだが、1ヶ所塩野遺跡に対しては60年度にC調査を実施している。

農免農道整備事業については、米沢南部地区の松原遺跡・早坂山A遺跡、河北西部地区の長慶寺原遺跡など、今後開発事業の進展に伴って協議が必要となるものが多い。

公害防除特別土地改良事業吉野川流域については、南陽市教育委員会による郡衛推定地閑連の分布調査によって新たに発見された遺跡がほとんどで、昭和61年度の事業開始前に再度の遺跡詳細分布調査が必要である。

埋蔵文化財包蔵地基礎調査は、将来大規模な開発事業が予測される地域について遺跡の分布状況を確認するもので、庄内東部地区・米沢北部地区など新たに発見された遺跡が多い。これらについては今後ともA調査によって遺跡の発見に努めるとともに、B調査を実施するなどの手立てが必要であり、昭和61年度も継続して分布調査を予定している。

土木工事等による埋蔵文化財発掘通知にもとづく立会い調査は、年々増加の傾向にあり、今年度も9遺跡について調査を実施した。

最後に、分布調査の実施にあたって御協力をいただいたつきの関係諸機関に心から感謝を申し上げる。

関係各市町村教育委員会・建設省東北地方建設局山形工事事務所・同酒田工事事務所  
同長井ダム工事事務所・農林水産省東北農政局・日本国有鉄道新潟鉄道管理局・日本  
道路公団仙台建設局山形工事事務所・東北電力株式会社山形支店

山形県農林水産部・同土木部・同庄内支庁・同国体準備室・同地方事務所

---

山形県埋蔵文化財調査報告書第96集  
分布調査報告書(13)

昭和61年度以降農林事業関係遺跡  
埋蔵文化財包蔵地基礎調査関係遺跡  
一庄内北東部地区・米沢北部地区・尾花沢・舟形地区・長井地区・山形北部地区一  
立会い調査実施遺跡  
昭和61年度以降農林・土木事業他試掘調査実施遺跡

昭和61年3月25日 印刷

昭和61年3月28日 発行

---

発行 山形県教育委員会  
印刷 山形印刷株式会社

---